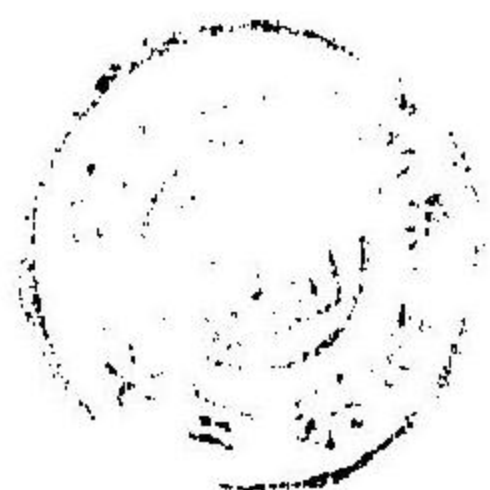


法學博士志田鉀太郎
法學士粟津清亮
共編

保險判例集

東京 有斐閣書房



C2
2881
01

保險判例集

凡例

- 一 本書ハ我國ニ於テ發生シタル保險訴訟ノ判決ヲ蒐輯シタルモノニシテ以テ法曹保險ニ社會ニ於ケル斯道研究ノ一助トシ併セテ一般保險契約者ノ法律的觀念ヲ喚起セシメントス
- 一 裁判所ノ判決ハ必シモ皆眞理ニアラス從來我國ニ於ケル保險思想ノ缺乏ハ判官ヲシテ屢正義ノ發揚ヲ誤ラシメタリ讀者冀クハ本書ノ判決ニ對シテ更ニ高等ナル判決者タラントヲ期セヨ
- 一 編者ハ聊學者タルノ責任ヲ盡サント欲シテ概ネ各箇ノ判決ニ對シテ短評ヲ附シタレトモ所謂短評素ヨリ意ヲ盡ス能ハス讀者希クハ編者カ他ノ著書ニ於ケル所論ニ一顧ノ榮ヲ賜ヘ
- 一 編者ハ又讀者ノ便ヲ圖リ判決毎ニ其要旨ヲ掲出セリト雖トモ大審院ノ判

決ハ法律ノ適用ニ關スルモノニシテ要旨ヲ摘ムニ困難ナルカ故ニ之ヲ省ケ
リ讀者請フ之ヲ諒セヨ

一 編者ハ本書編纂ノ舉ヲ贊シテ速ニ其材料ヲ送ラレタル總テノ保險會社ニ
對シテ其俠氣ト好意ヲ深謝セサルヘカラス

一 本書ヲ繙讀スル人ハ世間多クノ眞理ト正義カ行ハル、中ニ屢保險會社カ
無法ノ主張ヲ試ミ被保險者カ奸惡ノ手段ヲ運ラシ判官カ又人民ノ權利ヲ無
視シタル事實アルヲ發見スヘシ本書發刊ハ實ニ將來此ノ如キ背理ノ跡ヲ收
メシコトヲ目的トスルナリ

一 編者ハ凡昨年末ニ至ルマテニ發生セル總テノ判決ヲ蒐ムルニ力メタレト
モ調査ノ困難ナルヨリ尙數多ノ遺漏アルヲ免レス是等ハ本書ノ次版若クハ
續編發行ニ際シテ之ヲ補フヘシ

明治三十六年五月

編者識

保險判例集目次

第一部 生命保險

判決年月日	當事者	争點	會社ノ勝敗	裁判所	頁
明治二十四年六月	山口茂重對明治生命	精神病及隠蔽	敗	東京地方	一
明治二十四年十月	全	上	敗	東京控訴院	四
明治二十六年十一月	在原龍白對日本生命	證據	勝	東京地方	九
明治二十九年二月	畑鐵雄對大日本生命	猶豫期間中ノ死亡	勝	東京地方	一一
明治二十九年五月	全	上	敗	東京控訴院	一四
明治二十九年十月	全	上	敗	大審院	一七
明治二十九年三月	豐田好雄對大日本生命	猶豫期間中ノ死亡	敗	東京地方	二三
明治二十九年十一月	森ツ子對內國生命	佛廷延滯及ヒ	敗	東京地方	二七
明治三十年七月	全	上	敗	東京控訴院	三三
明治三十年十一月	全	上	敗	大審院	三七

判決年月日	當事者	争點	會社ノ勝敗	裁判所	頁
明治三十一年三月十七日	飯岡淺吉對有隣生命	年齡相違契約者ノ關係及ヒ拂込延滞	勝	京都地方	四三
明治三十年五月二十六日	全	全	勝	大阪控訴院	四七
明治二十九年九月二十七日	石川潮太郎對職工生命	保險料拂込	敗	東京地方	五〇
明治二十八年四月三十一日	上島金吾對共濟生命	既往症隱蔽他會社ノ契約隱蔽及ヒ自殺	敗	東京地方	五三
明治二十七年二月二十二日	全	全	敗	東京控訴院	五九
明治二十六年九月二十五日	全	全	勝	大審院	六三
明治二十五年七月九日	全	全	敗	東京控訴院	六七
明治二十三年十二月十五日	全	全	敗	大審院	七九
明治二十二年六月二十一日	播磨福松對萬世生命	年齡相違	勝	大阪區	九五
明治二十一年七月六日	麻生唯右衛門對中央生命	既往症隱蔽	勝	廣島地方	九九
明治二十年十月三十一日	全	全	勝	廣島控訴院	一〇一
明治十九年二月十七日	日野友太郎對眞宗生命	出張所ノ權限	勝	名古屋地方	一〇七
明治十八年五月二十五日	全	山張所ノ權限及ヒ著患ノ隱蔽	敗	名古屋控訴院	一一〇
明治十七年十二月二十七日	全	全	敗	大審院	一一四

判決年月日	當事者	争點	會社ノ勝敗	裁判所	頁
明治二十二年三月二十二日	尾野定次郎對佛敎生命	既往症隱蔽	敗	京都地方	一一〇
明治二十二年六月十三日	全	全	勝	大阪控訴院	一二三
明治二十二年四月七日	中井ユウ對眞宗生命	既往症隱蔽	敗	名古屋區	一二五
明治二十二年三月十四日	全	全	勝	名古屋地方	一二八
明治二十二年四月十日	濱野市五郎對日宗生命	廻復期間中ノ死亡	勝	東京區	一三一
明治二十二年三月十一日	雨夜フサ對護國生命	既往症隱蔽	敗	金澤地方	一三七
明治二十三年五月五日	全	全	勝	大阪控訴院	一四六
明治二十三年三月十八日	稻土清右衛門對北陸生命	猶豫期間後ノ死亡	敗	富山地方	一四八
明治二十三年三月十七日	村上榮三對共濟生命	保險證券	勝	東京區	一五二
明治二十三年三月六日	全	既往症隱蔽	敗	東京區	一五四
明治二十三年三月八日	全	全	敗	東京地方	一六二
明治二十三年二月十四日	全	全	敗	東京控訴院	一六四
明治二十三年三月十五日	小林 汀對愛國生命	自殺	敗	東京地方	一六七
明治二十三年三月十三日	全	全	敗	東京控訴院	一七三
明治二十三年三月三十日	西原夕力對日本共同	既往症隱蔽及ヒ職業虛	敗	大阪地方	一七七

判決年月日	當事者	争點	會社ノ勝敗	裁判所	頁
明治三十一年十二月十八日	三宅佐野對浪花生命	佛込延滯	勝	大阪區	一八〇
明治三十一年十一月十四日	高橋常之助對海國生命	猶豫期間後ノ死亡	敗	函館地方	一八二
明治三十一年十二月十六日	松岡長太郎對大阪生命	既往症隱蔽	勝	福井地方	一八八
明治三十一年三月十九日	岩井慶隆對仁壽生命	既往症隱蔽	勝	名古屋地方	一九一
明治三十一年三月十八日	則武トヲ對日宗生命	回復期間中ノ死亡	敗	廣島區	一九五
明治三十一年七月十一日	全	全	勝	廣島地方	二〇〇
明治三十一年五月十七日	渡邊ヨシ對酒家生命	契約前ノ罹病不陳	敗	東京地方	二〇六
明治三十一年六月四日	柴田ロク對日宗生命	猶豫期間中ノ死亡	勝	東京地方	二〇九
明治三十一年十二月二十二日	全	全	勝	東京控訴院	二一五
明治三十一年一月七日	岩間 茂對護國生命	保險料延滯	勝	安濃津地方	二二一
明治三十一年十二月一日	藤木ハツ對北陸生命	既往症隱蔽	勝	函館地方	二二五
明治三十一年十二月一日	愛國生命對淺妻駒吉	既往症隱蔽	勝	新潟地方	二三〇
明治三十一年十二月二十七日	本田キク對護國生命	既往症隱蔽	勝	富山地方	二三五
明治三十四年五月五日	上谷八次對北陸生命	既往症隱蔽	勝	金澤地方	二四〇

明治三十五年四月十八日	全	全	勝	大阪控訴院	二四三
明治三十四年十月二十三日	吉田イト對北陸生命	契約成立前ノ病症不陳	勝	福井地方	二四七
明治三十五年二月二十一日	全	全	勝	大阪控訴院	二四九
明治三十四年十月七日	仁壽生命對池崎再五郎	既往症隱蔽	敗	熊本地方	二五三
明治三十四年七月十七日	全	全	勝	長崎控訴院	二五九
明治三十四年十月十八日	草川敏彦對護國生命	保險金受取人ノ無資格	勝	東京地方	二六四
明治三十四年五月二十四日	金澤國松對帝國生命	既往症隱蔽	敗	大阪地方	二六八
明治三十五年五月一日	全	全	敗	大阪控訴院	二七三
明治三十五年九月二十二日	全	全	敗	大審院	二七五
明治三十四年十二月十五日	岩井慶隆對明治生命	既往症隱蔽	勝	名古屋地方	二七八
明治三十四年十二月二十七日	山取ミ子對共濟生命	既往症隱蔽	勝	東京地方	二八二
明治三十五年七月七日	全	全	敗	東京控訴院	二八八

第二部 火災保險

判決年月日	當事者	争點	會社ノ勝敗	六裁判所	頁
明治三十二年五月九日	田中藤作對家屋物品	保險料佛込延滞	勝	東京區	二九一
明治三十二年十二月二十五日	大澤宅次郎對家屋物品	被保險利益ノ欠缺	勝	東京地方	二九五
明治三十三年九月二十六日	高木壽治對日本酒造	保險金讓受ノ權利及ヒ重復保險	勝	東京地方	二九九
明治三十四年十月十四日	全上	全上	勝	東京控訴院	三〇四
明治三十三年九月二十六日	近江織通株式會社對明教	重複保險	勝	京都地方	三〇六
明治三十三年十一月十七日	鈴木辰次郎對日本酒造	申込書能載事項ノ變更	勝	東京地方	三一三
明治三十四年一月二十一日	全上	全上	勝	東京控訴院	三一七
明治三十四年二月八日	河野イ夕對日本酒造	保險金讓受ノ權利及ヒ重復保險	勝	東京地方	三二〇
明治三十五年一月二十八日	全上	全上	敗	東京控訴院	三二四
明治三十五年四月十五日	全上	全上	勝	東京地方	三二六
明治三十四年三月四日	角石夕マ對日本酒造	重複保險	勝	東京地方	三二八
明治三十五年十月十日	全上	全上	敗	東京控訴院	三三五
明治三十六年二月十二日	全上	全上	勝	大審院	三三九
明治三十五年一月十六日	前田瀧藏對家屋物品	被保險者ノ重過失	敗	新潟地方	三四四

第三部 海上保險

明治三十五年五月五日	全上	全上	敗	東京控訴院	三四八
明治三十一年五月十六日	廣海二三郎對日本海上	契約外船路	勝	大阪地方	三五二
明治三十一年十二月二十三日	全上	全上	勝	大阪控訴院	三六二
明治三十一年九月二十一日	安永千二對帝國海上	全損	勝	神戸地方	三七〇
明治三十二年三月八日	陸原田十次郎對日本海上	船長變更	勝	大阪地方	三七二
明治三十二年五月五日	全上	全上	勝	大阪控訴院	三七七
明治三十三年九月	全上	全上	敗	大審院	三八〇

保險判例集目次 終

保險判例集

法學博士 志田 鉦太郎 共編
法學士 粟津 清亮

第一部 生命保險

(一) 山口茂重對明治生命保險會社事件(始審)

判決要旨

甲 保險者カ保險申込書ニ記載ヲ要求セサル事項ニ關スル保險契約者ノ不陳ハ詐欺ト見做ス
ヲ得ス

乙 發狂ニ因スル自死ハ法律上ノ所謂自殺ニアラス

判決正本

愛知縣豐田郡三谷村四百五十八番戸平民雜業亡竹内傳
十和權人竹内榮三後見人同縣同郡同村同番地平氏農

原告 山口 茂重

東京府東京市京橋區日吉町八番地士族代官人
右訴訟代理人 澤田 俊三

同府同市日本橋區南茅場町廿番地明治生命保險會社
原告 被告 阿部 泰藏

同府同市京橋區日吉町廿一番地士族代官人
右訴訟代理人 增島 六一郎

右當事者間ノ保險金請求事件ニ付當地方裁判所ハ檢事古賀廉造立會判決スルコト左ノ如シ
被告ハ保險金壹千五百圓ニ明治二十三年五月二十七日已降壹ケ年百分六ノ割合ヲ以テ利子ヲ添ヘ之
ヲ原告ニ拂渡スベシ

訴訟費用ハ被告ノ負擔タルヘシ

事實

本件原告ニ於テハ竹内榮三ノ父傳十ハ甲第壹號證ノ如ク明治二十二年一月三十一日被告會社ト生命
保險ノ契約ヲ爲シタル處其後傳十ハ發狂シ明治二十二年十二月六日甲第貳號證ノ如ク死去シタリ尤
モ傳十ノ發狂ハ甲第三號證ノ如ク其ノ伯母悅瑞モ發狂セシコトアレバ全ク遺傳ナリ又傳十ノ死ハ溺
死ナレモ個ハ發狂ノ爲メニ玆ニ至リタルモノニテ乙第壹號證ニ所謂自殺ト云フモノニアラサルニ付
保險金壹千五百圓ト死去ノ日ヨリ六十日ヲ除キ當然被告會社ニ於テ保險金ヲ渡スヘキルヨリ法律上
百分六ノ利子ヲ併テ拂渡ヲ受ケント請求シ被告ニ於テハ竹内傳十カ發狂ノ爲メ溺死シタル事實ハ之
ヲ認ムト雖モ發狂ノ遺傳アラハ當初保險申込ノ節其趣ヲ申出スヘキ筈ナルニ然ラサリシハ即チ申込
證ハ詐僞ノ廉アルモノナレハ乙第壹號裏書第二項ニ由リ保險證書ハ無効ニ屬スヘキノミナラス該約
定ニアル自殺トハ有意ト無意トヲ別タス自死シタル總テノ場合ヲ指シタルモノナレハ到底本訴ノ請
求ニ應スヘキ謂レナシト云フニ在リ

理由

竹内傳十カ癡狂ノ遺傳アルニ拘ラス保險證書ニ斯ノ如キコト之レナシト記載シタルトキハ或ハ之ヲ
詐僞ナリト云フヲ得ヘキモ本件保險申込書ニハ癡狂ノ遺傳有無ヲ一切記載ナキコトハ被告カ結審後
乙參考一號トシテ提出シタル申込書寫ノ上ニ於テ明カナリ然ルヲ其ノ何等ノコトヲモ記載セザリシ
ヲ詐僞ナリシトシ乙第壹號裏書第二項ノ契約ニ由リ保險證書ヲ無効ニ歸セシメントスルハ不當ナ
リトス又乙第壹號裏書第十項ニ「被保人自殺シ中略此證書ハ無効ノ廢紙タルヘシ」トアルモ此ノ
自殺トハ有意ノ自殺ヲ指シタルモノニテ竹内傳十ノ如ク發狂ノ上水ニ溺レテ死シタルハ自ラ決スル
所アリテ爲シタルモノニアラス畢竟病死ト一般ナレハ決シテ該契約ノ所謂自殺ニハ之レナキモノト
論定セサルヲ得ス然ラハ則チ被告ニ於テ保險金渡方ヲ拒ムヘキ理由ナキモノトス又原告ハ傳十死去
ノ日ヨリ六十日ヲ除キ其后ヨリ保險金ニ對シ法律上ノ利子ヲ請求スレモ甲第一號證ニ依レハ「死去
證書ヲ落手シタル后郵便日數ヲ除キ六十日以内ニ保險金受取人へ前記ノ保險金壹千五百圓ヲ渡スコ
トヲ契約シ」云々トアレハ死去ノ日ヨリ六十日ヲ起算スルハ其當ヲ得ヌ又被告ニ於テ右利子ハ勸解
出願ノ日ヨリ計算スヘキモノナリト云フモ現ニ本件ノ保險金ハ授受ノ期限ヲ定メアルモノナレハ期
限經過ノ翌日ヨリ利子ヲ計算スルヲ至當ナリトス而シテ乙第一號死去證書ハ明治二十三年三月二十
五日付ナレハ當時保險金受取人竹内榮三ノ所在仙臺市ヨリ被告會社ヘ之ヲ郵送スルノ日數二日ヲ除

キ三月二十八日被告カ之ヲ落手シタルモノト看做シ夫レヨリ尙六十日ヲ除キ明治二十三年五月二十
六日ヲ保險金渡方期限トシ其翌日ヨリ利子ヲ添付スヘキモノトス

明治廿四年五月二十八日

東京地方裁判所民事第二部

裁判長判事 伊知地光定 判事 草門正名 判事 高橋 覺

(二) 山口茂重對明治生命保險會社事件(控訴)

判決要旨

第一審判決ニ全シ

判決正本

東京府東京市日本橋區坂本町四拾三番地
明治生命保險會社頭取

控訴人 阿 部 泰 藏

全府東京市東橋區日吉町二十一番地出張士族

右訴訟代理人 増 島 六一 郎

愛知縣三河國寶飯郡三谷村四百五拾八番戶
平民雜業亡竹内傳十相續人

竹 内 榮 三

全縣全國全郡今村全番戶平民右後見人

被控訴人 山 口 茂 重

東京府東京市東橋區日吉町八番地士族

右訴訟代理人 澤 田 俊 三

右當事者間ノ明治二十四年ヲ第百五十六號保險金請求控訴事件ニ付キ當控訴院ハ判決スルコト左ノ
如シ

判決本文

本案控訴ハ之ヲ棄却ス

訴訟入費ハ控訴人ニ於テ負擔ス可シ

事實及爭點

被控訴人ノ實父竹内傳十ハ明治二十二年一月三十日控訴人ト生命保險ノ契約ヲ取結ヒ則チ傳十死去
ノ時ハ其ノ死去證書ヲ受取タル後郵便日數ヲ除キ六十日內ニ控訴人ヨリ被控訴人ヘ被保險額一千五
百圓ヲ交付ス可キ筈ナリ(甲第壹號證)而シテ傳十ハ明治二十二年十二月六日精神病ニ罹リ自ラ溺死セ
シトノコトヲ明治二十三年三月廿五日ヲ以テ被控訴人ヨリ其旨ヲ控訴人ニ通知シ被保險額請求ノ手
續ヲ爲シタリ(甲第二號及乙第二號)然ルニ控訴人ハ之ガ請求ニ應セサルヲ以テ被控訴人ハ該被保險
額ニ明治二十三年五月廿七日ヨリ一ケ年百分六ノ利足ヲ加ヘ控訴人ヨリ償却ヲ受ケ度旨申立而シテ
控訴人カ該要求ニ對スル防禦ノ方法ハ則チ左ノ二點ニ在ルナリ

第一甲第一號證ノ裏面ニ於テ「被保人自殺シ若クハ裁判所ノ宣告ニ依テ死刑ニ處セラレハ此ノ證
書ハ無効ノ廢紙タルヘシ云々」トアリ而テ傳十ノ死去ハ自ラ溺死シタルモノナルハ乙第二號ノ明示

スル所ナリ但其溺死ノ精神病ニ原因シタルモノナリトノ點ニ付キ控訴人ハ第一審ニ於テ既ニ認諾セシ所ナルモ第二審ニ於テハ右ノ事實ハ裁判所ノ判定ニ任スルトノ趣旨ナル旨ヲ述ヘ且假令其ノ死ノ發狂ニ原因シタルモノトスルモ固ヨリ自殺タルヲ免レサル旨ヲ辯セリ

第二甲第三號ニ依レハ傳十ハ精神病ノ遺傳アルモノナリ凡ソ保險ヲ申込ム者ハ保險契約ニ影響ヲ及ホス可キ事項ハ被保險者ニ於テ自ラ之ヲ陳述スルノ義務アルモノナリ然ルニ傳十ハ故サラニ之ヲ黙秘セシモノナレハ此保險契約ハ法理上効力ヲ有ス可キモノニ非ス

理由

第一審ニ於ケル控訴人ノ申立ニ依レハ「竹内傳十ノ精神病ニテ死去シタト云フハ認ム」トアリ而シテ民事訴訟法第四百十八條ニハ「第一審ニ於テ爲シタル裁判上ノ自白ハ第二審ニ於テモ亦其効力ヲ有ス」トアルヲ以テ傳十ノ自殺ハ精神病即チ發狂ニ原因セリトノ事實ハ別段ノ反證アルニ非サレハ最早之ヲ動かスヲ得サルモノトス而シテ控訴人ハ一モ之カ反證ヲ舉ケサルヲ以テ則チ傳十ハ全ク發狂ノ爲メ自殺シタルモノト認定セサルヲ得ス

自殺シタル場合ニ於テハ保險契約ノ無効ニ屬スヘキモノタルハ甲第一號證ノ明示スル所ニシテ別ニ何等ノ例外ヲ設ケサルカ故ニ此文字ニノミ依ルトキハ其ノ原因ノ如何ナルヲ問ハス苟モ自殺ノ實アルニ於テハ保險契約ハ直チニ無効ニ歸ス可キモノ、如シ然レモ熟ラ契約者双方ノ意思ヲ推察スルニ

抑モ此ノ如キ制裁ヲ設ケタル所以ノモノハ被保險者カ故意ヲ以テ保險者ヲ害スヘキ行爲ヲ豫防スルニ出テタルモノニシテ則チ此ノ制裁ハ自由ノ決意ヲ以テ自ラ生命ヲ斷チタル者ニ適用ス可キ主意ナリト解セサルヲ得ス之ヲ詳言セハ精神喪失ノ場合ニ於テ或ハ爲スヲアル可キ行爲ニ對シ豫メ此ノ如キ嚴重ナル制裁ヲ加フヘントスルカ如キハ蓋當事者ノ意思ニ非サル可キナリ況ヤ自殺ノ精神病ニ原因シタル上ハ則チ精神病ニ因リテ死去シタルモノト論スルヲ得ヘキニ於テヤ依テ控訴人ハ此ノ點ニ付キ被控訴人ノ請求ヲ拒ムヲ得サルモノトス

傳十ニ遺傳病アリトノハ甲第三號證ニ過キス然ルニ該證書ハ傳十ノ伯母某カ曾テ發狂シ今ニ於テモ時時發狂ノ兆アリト云フニ過キス之ニ反シテ乙第三號證ニ依レハ傳十ノ父母祖父母ハ勿論兄弟姉妹ニ至ル迄一モ此ノ如キ病性アリタルヲ見ス故ニ傳十ノ發狂ハ未タ必シモ遺傳ナリト認ムルヲ得サルノミナラス抑モ此ノ如キ密接ナラサル事項ニ付テハ保險者ノ質問ニ對シ故サラニ隱蔽シタル場合ニ限り始メテ之ヲ惡意アリトスルヲ得ヘキモ傳十ハ曾テ此ノ如キ質問ヲ受ケタリトノ證憑アルナク又且自ラ黙秘シタリトノ事跡ナキナリ之ヲ要スルニ此ノ如キ事項ハ被保險者ニ於テ自ラ之ヲ告知セサレハトテ爲メニ保險契約ヲ無効トスルノ理由トスルニ足ラサルモノナリ

右ノ如ク控訴人ハ被控訴人ノ請求ヲ拒ム可キ權利ナクシテ而シテ之ヲ拒ミタルモノナレハ其遲延ニ付テ固ヨリ之レカ責ニ任セサルヲ得ス依テ正當ニ支拂ヲ爲ス可キ當日ヨリ被保險額ニ對シ法律上ノ

利息ヲ加ヘサルヲ得サルモノナリ
以上ノ理由ナルヲ以テ民事訴訟法第四百貳拾四條ニ依リ控訴ヲ棄却シ全第七十二條ニ依リ訴訟入費
ハ控訴人ノ負擔トス

明治廿四年十月二十日

東京控訴院民事第二部

裁判長判事 長谷川 喬 判事 高谷恒太郎 判事 平田小三郎

判事 橋本源之助 判事 前田孝階

附言

山口茂重對明治生命保險會社事件ノ判決ハ第一審第二審共ニ至當ナリ但精神病遺傳ハ遺傳關係中ノ
顯著ナルモノニシテ直チニ被保險者ノ命壽ニ影響ヲ及ホスヘキモノタルハ學理並ニ統計ノ證明スル
所タリ故ニ第二審判決ノ理由中ニ伯母ノ發狂ヲ以テ密接ナラサル輕微ナル事項ナルカノ如クニ見做
シタルハ誤レリ然リト雖トモ果シテ之カ重要ナル事項ナラハ保險者ニ於テ之ニ關スル陳述ヲ申込書
中ニ要求セサルヘカラス何トナレハ凡ソ是等ノ事項カ保險契約ノ成立ニ就テ重要ナル事項ナルヤ否
ヤノ判定ハ素人ナル被保險者ノ側ヨリハ營業者タル保險者ノ善クスル所ナレハナリ故ニ本件ノ事實
ハ明治生命保險會社所定ノ申込書カ不完全ナリシ爲メ被保險者カ僥倖ヲ得タルモノト謂フヘキナリ

(三) 在原龍白對日本生命保險會社事件(始審)

判決要旨

原告カ其權利ヲ有スルコトノ證據ヲ完全ニ舉示セサルトキハ裁判所ハ其訴ヲ却下ス

判決正本

東京市神田區小川町二十番地寄留富山縣平民

原告 在原龍白

東京市日本橋區青物町十七番地日本生命保險會社
右副社長
被告 片岡直温

右 全所

原告 在原このい

東京市本郷區元町二丁目六十六番地辯護士
右訴訟代理人 鹽谷恒太郎

東京市日本橋區南茅場町四番地辯護士

右訴訟代理人 磯部四郎
同 上 長谷川吉次

右當事者間ノ保險金請求ノ證書訴訟事件ニ付原告訴訟代理人長谷川吉次ハ明治二十六年十一月二十
日午後第一時口頭辨論ノタメ當地方裁判所法廷ニ出頭シ主張シテ曰ク原告在原龍白ハ甲第一號證
(保險證書)ノ如ク明治廿五年四月十二日訴外在原榮吉ヲ被保人トナシ金額五百圓ノ養老生命保險ノ
契約ヲ被告日本生命保險會社ト締結シタリ又原告在原龍白ハ右在原榮吉ヲ被保人トナシ原告在原
このいヲ保險金請取人トナシ明治二十五年四月十二日甲第二號證(保險證書)ノ如ク保險金額五百圓ノ
尋常終身生命保險ノ契約ヲ被告日本生命保險會社ト締結シタリ然ルニ右被保人タル在原榮吉ハ甲第

三號證(死亡證明書)ノ如ク明治二十五年五月二十三日死亡セリ故ニ被告ハ原告在原龍白及在原この
いニ對シ各保險金五百圓ヲ辨償シ訴訟費用ハ被告ニ於テ負擔スヘシトノ判決ヲ求ムト雖トモ原告ノ
提出ニ係ル甲第一二號證ニ明示セル規定ニ從ヒテ原告等ヨリ被告會社ニ右被保人ノ死亡ヲ通知シタ
ルヲ及右契約締結後正當ニ掛金ノ拂込ヲナシタルヲ等原告等ガ被告會社ヨリ保險金ヲ請求スヘキ權
利ヲ有スルヲノ證據ヲ完全ニ舉示セサルヲ以テ民事訴訟法第四百八十九條第二百四十六條ヲ適用シ
判決スルヲ如左

原告等ノ訴ハ之ヲ却下ス

訴訟費用ハ全部原告等ノ負擔トス

明治二十六年十一月二十日

東京地方裁判所民事第四部

裁判長判事 齋藤 覃 次 判事 小山 温 判事 三宅 長 策

附 言

本件ハ保險契約ノ實體ニ關スルニ至ラスシテ原告カ訴訟手續ヲ誤リタル爲メ敗訴ニ歸シタルモノナ
ルカ故ニ本書ニ編入スルノ價值ナキニ似タリト雖トモ又鶏肋ノ感ナキニアラス因テ之ヲ収メタル
ナリ

(四) 畑鎮雄對大日本生命保險會社事件(始審)

判決要旨

保險料拂込猶豫期間ノ經過前ニ保險料ヲ拂込マサルトキハ縱令被保險者其間ニ死亡セルモ契
約ヲ解除シタルモノトシテ保險金ヲ請求スルヲ得ス

判決正本

茨城縣行方郡麻生町大字麻生二五四番士族營業

原告 畑 鎮 雄

東京市日本橋區濱町三百十七番地

被告 大日本生命保險會社

右訴訟代理人 富田 祐 太郎

右法律上代理人 小杉 恒 太郎

右當事者間ノ保險金支拂請求事件ニ付當裁判所ハ判決スルヲ左ノ如シ

主 文

原告ノ請求不相立

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事 實

原告ハ被告ハ金百八十八圓八十二錢ヲ原告ニ支拂フヘシトノ判決アリ度ト申立其陳述ノ要領ハ原告
ハ明治廿六年十一月廿九日半々年分ノ保險料五圓五十七錢四厘ヲ以テ原告ノ父畑豐美ノ爲メ被告ト

二百圓ノ尋常終身生命保險ノ契約ヲ結ビ保險料ハ引續キ支拂ヒ明治廿八年前半年分ノ保險料支拂期日ハ全年五月廿九日ナレモ契約上九十日間ノ猶豫アリシ爲メ全年七月二日麻生代理店へ之カ支拂ヲ爲シタリ然ル處被保人タル畑豐美ハ全年七月二日死亡セリ先是原告モ被保人ト爲リ被告ト生命保險ノ契約ヲ締結シアリテ明治廿八年前半年分ノ保險料未拂ナリシニ付原告カ全年七月二日畑豐美ノ爲メ支拂ヒタル保險料ハ代理店ノ承諾上之ヲ原告ノ保險料ニ繰替ヘ結續廿八年前半年分ノ畑豐美ノ保險料ハ支拂ハサルコト、爲シタルモ全人前述ノ如ク已ニ死亡セシモノナレハ其保險金二百圓ハ當然被告ヨリ支拂受クヘキ筈ニ付明治廿八年度保險料拾一圓十四錢八厘及全年前半分保險料五圓五十七錢四厘ニ對スル明治廿八年五月卅日ヨリ全年七月二日マテ卅四日間ノ年六朱延滯利子ヲ控除シタル殘額百八十八圓八十二錢ノ支拂ヲ請求スルモノナリト云フニ在リテ其立證ハ甲一二三號證ナリ被告ハ原告ノ請求ヲ却下セラレ度ト申立其陳述ノ要領ハ被告ハ原告ノ父畑豐美ノ生命ニ付原告ト二百圓生命保險契約ヲ爲シ畑豐美ハ明治廿八年七月二日死亡セシコトハ相違ナキモ明治廿八年前半年分ノ保險料支拂期日ハ全年五月廿九日ナルニ原告ハ今以テ其支拂ヲ爲サス若シ原告ニシテ支拂期日ヨリ九十日以内ニ保險料ノ支拂ヲ爲ストキハ契約ヲ繼續スルヲ得ヘキナレモ前陳ノ如ク原告ハ支拂ヲ爲ササルニ付保險契約ハ當然消滅セシモノナレハ原告請求ハ不當ナリト云フニ在リ

理由

原告ハ畑豐美ノ被保人タル保險契約ニ對スル明治廿八年前半年分ノ保險料ヲ全年七月二日之カ支拂ヲ爲シタリト云フモ其立證ナキニ付其支拂期限タル明治廿八年五月廿九日ヨリ起算シ已ニ九十日以上ヲ經過シタル今日ニ至ルマテ終始其支拂ヲ爲サハリシモノト認ム左レハ原告ハ甲第一號證裏面第五項ニ依リ保險契約ヲ繼續スルノ利益ヲ失シタルモノナルヲ以テ被告ニ於テ其契約ヲ解除シタルモノト看做ス上ハ其間例令被保人死亡事實アルモ全證券面ノ契約ニ基キ保險金ノ支拂ヲ求メ得得ヘキ權利ナキモノトス

明治廿九年二月一日

東京地方裁判所民事部第五部

小山 温 安村 長美 潮 恒 太

附言

本判決ノ如キ笑フヘキ理由ハ他ニ類例少カルヘシ猶豫期間中ノ死亡ニ對シテハ保險料ノ支拂カ其前ナルト後ナルトヲ問ハス保險金ヲ支拂フヘキコトハ被告モ判事モ之ヲ認メナカラ該期間ノ經過前ニ之ヲ拂込マサルカ故ニ原告カ契約繼續ノ利益ヲ抛テ被告タル保險者カ契約ヲ解除シタルモノト見做スト言フハ法文ノ皮相ヲ觀ルノ甚シキモノナリ被保險者ノ死亡セサル前ニコソ保險料ノ支拂ヲ慮リテ契約ヲ無効ニ歸セシムル者アルヘケレ被保險者死亡シテ看々保險金ヲ得ラル、ニ契約ヲ解キテ其

權利ヲ拋棄スル愚物何處ニカアル保險者ノ作リタル規定ハ此ノ如キ愚物ヲ待タンカ爲ニアラサルハ
固ヨリ裁判官モ亦之ヲ爾ク解釋スヘカラサルナリ宜ナリ本件第二審第三審ニ於テ保險者ノ敗訴ニ歸
セルコト

(五) 畑鎮雄對大日本生命保險會社事件(控訴)

判決要旨

保險料拂込猶豫期間内ハ保險契約有效ニシテ被保險者ノ死亡ト共ニ保險金請求ノ權利發生ス
而シテ未拂込保險料ハ保險者ノ債權ニ過キスシテ契約ノ效力ニ影響ヲ及ホサス

判決正本

控訴人	畑 鎮 雄	被控訴人	大日本生命保險會社
辯護士	富田祐太郎	右法律上代理人	堀越寛介
		辯護士	豊田鉦三郎

神田區淡路町二丁目四番地

右當事間ノ明治廿九年(子)第卅四號保險金支拂請求事件ノ控訴ニ付當院ハ判決スル左ノ如シ

原判決ヲ左ノ如ク變更ス

被控訴人ハ控訴人ニ對シ金百八十圓八十二錢ヲ支拂フヘシ

訴訟費用ハ第一審第二審トモ被控訴人ノ負擔トス

事 實

控訴人ハ原判決ヲ廢棄シ更ニ被控訴人ハ控訴人ニ對シ保險金百八十八圓八十二錢ヲ支拂フヘシトノ
判決ヲ求ムト申立テ被控訴人ハ控訴棄却ヲ求ムト申立テ控訴人カ事實上ノ供述ハ總テ原判決ノ摘示
ト同一ニシテ被控訴人ハ甲第一號證裏面第五項ニ記載セル保險契約ノ繼續期間ハ被控訴會社ノ承諾
ヲ待テ始テ其效力ヲ有スヘキモノニシテ普通保險料ノ猶豫期間ニ非ストノ陳述ヲ爲シタル外又原判
決ノ摘示ト全一ノ供述ヲ爲シタリ

理 由

被控訴人ニ於テ控訴人ハ保險料ノ拂込期日ニ其拂込ヲ爲サ、ルヲ以テ被控訴人ハ保險金額ヲ支拂フ
ノ義務ナキ旨ヲ主張シ且甲第一號證裏面第五項ニ記載セル繼續期間ハ被控訴會社ノ承諾ヲ待ツテ始
テ其效力ヲ發スヘキモノニシテ普通保險料ノ猶豫期間ニアラサルノミナラス控訴人ハ尙ホ其期間内
ニモ拂込ヲナサ、リシ旨主張スルモ甲第一號證裏面第五項ヲ閱ミスルニ「保險料ハ期日迄ニ拂込
ムヘキモノトス若シ止ムヲ得サル事故アツテ其拂込ヲ延滞スル時ハ其日數九十日以内ハ相當ノ利
子ヲ拂ハシメ保險ノ契約ヲ繼續スト雖モ若シ九十一日以上ニ及フ者ハ本社ニ於テハ保險契約ヲ解除
セシモノト看做シ云々」トアリテ此文面ニ依レハ保險申込人ニ於テ期日ニ保險料ノ拂込ヲ爲サ、ル

モ期日后九十日以内ニ其拂込ヲ爲セハ利子ヲ附セシメテ當然保險契約ヲ繼續スルコトヲ合意シタルモノニシテ即チ拂込期日ニ九十日間ノ猶豫ヲ置キタルモノナルコトヲ認ムルニ十分ナリ今控訴人カ右九十日ノ猶豫期間ニ於テモ尙ホ明治廿八年前半季ノ保險料ヲ拂込マサリシトノ被控訴人ノ主張ハ控訴人ノ認ムル所ナリト雖モ右九十日ノ猶豫期間内ニ在テハ未タ控訴人ノ未拂込ヲ以テ當然保險契約消滅ノ原因アリト爲スヲ得サルコトハ前掲契約ノ文面ニ依リ明ナリ而シテ本件ニ於テハ被保險人カ右九十日ノ猶豫期間内ニ死亡シタルコトハ當事者間ニ爭ナキ事實ナルヲ以テ被控訴人カ保險シタル危險ハ保險契約有効ノ期間内ニ於テ已ニ到來シタルモノニシテ控訴人カ被控訴人ヨリ保險金ヲ受取ルヘキ權利ハ其危險ノ到來即被保險人ノ死亡ト同時ニ發生シタルモノナリ果シテ然ラハ控訴人カ未拂込ノ保險料ハ被控訴人ノ債權ニ過キササルヲ以テ本訴保險契約ノ效力ニ影響ヲ及ホスヘキモノニアラス依此觀之被控訴人カ控訴人ノ明治廿八年前半期ノ保險料未拂ヲ口實トシテ本訴請求ヲ拒ムハ其理由ナク隨テ被控訴人ハ控訴人ニ對シ保險證書裏面第四項ニ記載シタル約旨ニヨリ保險金二百圓ヨリ控訴人ノ保險料未拂額一ヶ年分金拾圓拾四錢八厘ト保險料半ヶ年分ニ對スル拂込期日ノ翌日ヨリ被保險人死亡日迄三十日間ニ於ケル一ヶ年六米ノ割分ノ利子三錢二厘ヲ控除シタル殘額即金百八十八圓八十二錢ヲ支拂フヘキ義務アルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ民事訴訟法第四百三十四條ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

明治廿九年五月八日

東京控訴院民事第二部

前田孝階

平田小三郎

鹽野宣健

羽生顯亮

鈴木宗言

(六) 畑鎮雄對大日本生命保險會社事件(上告)

判決正本

京橋區木挽町二百十四大日本生命保險會社社長

上告人

堀越寬介

被上告人

畑

鎮

雄

右訴訟代理人

豊田鉦三郎

右當事者間ノ保險金支拂請求事件ニ付明治廿九年五月八日東京控訴院カ言渡シタル判決ニ對シ上告代理人ヨリ全部被毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第一點ハ上告會社ノ保險規則中「保險料……繼續スルコトヲ得」トアリ原院ハ之ニ對シ保險

申込人ニ於テ期日ニ保險料ノ拂込ヲ爲サ、ルモ期日後九十日以内ニ其拂込ヲ爲セハ利子ヲ附セシメテ當然保險契約ヲ繼續スルコトヲ合意シタルモノニシテ即拂込期日ニ九十日間ノ猶豫ヲ置キタルモノナリト判定セシハ上告人ノ服シ克ハサル處ナリ被上告人ハ右繼續期間内ハ勿論現ニ今日ニ至ルモ尙ホ保險料ノ拂込ヲ爲サ、ルコトハ被上告人ノ自認スル處ニシテ原院モ亦之ヲ認ラレタリ然シテ又其九十日ノ繼續期間ハ全ク止ムヲ得サル事故アリタル場合ニ限ルモノニシテ又被保人ニ異變ナキ狀況ノ存スルニアラサレハ能ハサルノミナラス之ヲ繼續セシムルト否トハ上告人會社ノ權能ニ屬スルモノナルハ其文意ノ上ニ明瞭ナリ然ニ原院ハ直ニ之ヲ保險契約ノ繼續ヲ合意シタルモノナリト断定スルノミナラス何等ノ不得止事故アリテ其拂込ヲ延滞セシトノ事實モナク又證憑ナキニ相當ノ利子ヲ付シ保險料ヲ支拂フニ於テハ該保險契約ヲ續續スルモノト判定セシハ不法ナリト云フニ在リ」上告第二點ハ原院ハ「今控訴人カ右九十日ノ猶豫期間ニ於テモ尙ホ明治廿八年前半季ノ保險料ヲ拂込マサリシトノ被控訴人ノ主張ハ控訴人ノ認ムル處ナリ」云々ト説明シ現ニ被上告人カ九十日ノ繼續期間内ニ拂込ヲ爲サ、ルコトヲ確認セラレタリシニ拘ハラス其後段ニ於テ「右九十日ノ猶豫期間内ニ在テハ未タ控訴人ノ未拂込ヲ以テ當然保險契約消滅ノ原因アリト爲ヌヲ得サル」云々ト説明セシハ前後理由ノ齟齬タルヲ免カレヌ何トナレハ前ニハ九十日間内ニ拂込ヲ爲ストキハ其契約ヲ繼續シ得ヘキモノナリト云ヒ然シテ其九十日間内ニ保險料ノ拂込ナキヲ確認シナカラ後ニ至テ未タ控訴

人ノ未拂込ヲ以テ當然保險契約消滅ノ原因アリト爲ヌヲ得ストノ理由ナレハナリ故ニ前後事實理由ノ齟齬タル場合ハ果シテ何レヲ真正ナリト認知スルニ由ナシ乃チ裁判ニ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ」上告第三點ハ抑モ契約ノ猶豫期間ト繼續期間トハ其效果ニ於テ大ニ相違ヲ生スルモノニシテ猶豫ハ即チ其契約ノ成立中ニ與フル延期ヲ指シタルモノニシテ本件ノ如キ繼續期間ハ其契約ハ期日ニ至リ既ニ一旦消滅ニ歸シタルモノヲ更ニ存續セシムルノ意タルヤ明カナリ然ルニ原院ハ繼續期間ヲ以テ直ニ猶豫期間ト誤認シ被保人ノ死亡ノ時ニ於テ當然契約ハ繼續シ得タル時期ナリト断定セシハ所謂不當ニ事實ヲ確定シタル不法ノ裁判ナリ又被上告人ハ保險料拂込期日ハ勿論其繼續期間即九十日内ニモ保險料ヲ拂込マス尙其期ヲ過クル今日ニ於ケルモ之等ノ拂込ヲ爲サ、ルカ故ニ其契約ハ當然解除ニ屬シタルモノナリ然ルニ原院ハ果シテ被上告人カ契約ノ繼續ヲ爲スノ意旨アリタルヤ否ヤ又之レカ手順ヲ爲シタルノ事跡アリタルヤ否又果シテ其契約ハ存續シ得タルヤ否被上告人ハ保險料支拂期日迄ニ全ク已ムヲ得サル事故アリテ拂込ヲ延滞セシトノ證跡ヲ有スルヤ否又保險契約ヲ繼續セシムルト否トハ上告會社ノ權能ニ屬スルモノナリ其契約ノ繼續ニ付テハ上告會社ノ承認ヲ要スヘキモノナリトノ爭點ニ付テハ毫モ理由ヲ附セスシテ直ニ控訴人カ被控訴人ヨリ保險金ヲ受取ルヘキ權利ハ其危險到來即被保人ノ死亡ハ全時ニ發生シタルモノナリト断定セシハ理由ヲ缺キタル不法ノ裁判ナリト云ニアリ」上告第四點ハ原院ハ保險申込人ニ於テ期日ニ保險料ノ拂込ヲ

爲サ、ルモ期日後九十日以内ニ其拂込ヲ爲セハ當然保險契約ヲ繼續スルコトヲ合意シタルモノナリト云フ然シテ其九十日ノ期間内ニ被上告人ニ保險料ヲ支拂ハサリシ點ハ控訴人ノ認ムル處ナリト認定セラレタリ如斯原院ハ被上告人カ保險料ヲ支拂ハサリシコトヲ認定セラレタルニ拘ハラヌ本件契約ハ實際ニ繼續ヲ爲シ得タルモノニシテ上告人ニ保險金支拂ノ義務アリト判定セラレタルハ不法ノ裁判ナリト信ス加之保險契約ノ性質上ニ於テモ契約ノ目的タル被保人死亡後ニ至テハ既ニ契約ノ目的タル原因ヲ欠キタルモノナレハ其後ニ於テハ到底其契約ヲ存續セシムルコトハ爲シ克ハサルノ法理タリ然ニ原院ハ該契約ノ繼續ヲ爲シタル事跡ハ毫モ看ルヘキモノ無之ニ拘ハラヌ當然其契約ヲ存續シタルモノト推定シ被保人ノ死亡ト同時ニ被上告人カ保險金ヲ受取可キ權利ノ發生シタルモノナリト判定セシハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

然レトモ原裁判ハ上告人ノ論據トスル甲第一號證書而第五項ヲ解釋シ保險料ハ期日迄ニ拂込ムヘキモノトス若シ……云々九十一日……看做シ云々トアル文而ニ依レハ保險申込人ニ於テ期日ニ保險料ノ拂込ヲ爲サ、ルモ期日後九十日以内ニ其拂込ヲ爲セハ利子ヲ付セシメテ當然保險契約ヲ繼續スルコトヲ合意シタルモノニシテ即チ拂込期日ニ九十日間ノ猶豫ヲ置キタルモノナルコトヲ認ムルニ十分ナリ今控訴人カ右九十日ノ猶豫期間ニ於テモ尙明治廿八年前半季ノ保險料ヲ拂込マサリシトハ控訴人ノ認ムル處ナレトモ右九十日ノ猶豫期日内ニ在リテハ未タ控訴人ノ未拂込ヲ以テ當然保險契約

消滅ノ原因アリト爲スヲ得サルコトハ前掲契約ノ文面ニ依リ明ナリ云々即チ保險料拂込カ延滞スルコトアルモ九十日以内ハ猶豫期間トシテ之ヲ許シ九十日以上ニ爲ルトキニ於テ始テ保險契約ヲ解除スヘキ規約ナリト説明セリ而シテ被保險人カ右九十日ノ猶豫期間内ニ死亡シタルコトハ當事者間ニ爭ヒナキ事實ナルヲ以テ被控訴人カ保險シタル危險ハ保險契約有效ノ期間内ニ於テ已ニ到來シタルモノニシテ控訴人カ被控訴人ヨリ保險金ヲ受取ルヘキ權利ハ其危險ノ到來ニ依リ發生シタルモノナルヲ判斷シタリ夫レ然リ拂込延滞ノ九十日以上ニ及ンテ始テ契約ヲ解除スヘキコトノ規約ナリト解釋スル以上其猶豫期間内ニ在ル未拂ノ事故ノ如キ原裁判ノ重キヲ措カサル處ナルノミナラス上告人モ亦之ヲ必要トシテ原裁判所ニ主張シタルモノアルヲ見ス要スルニ論旨ハ上告人自己ノ意見ヲ述ヘ以テ原裁判ヲ非訴スルニ外ナラス畢竟證書ノ解釋事實ノ認定ヲ批難スルニ過キスシテ一モ適法ノ理由ナキモノトス

上告第五點ハ原院ハ判決主文ニ於テ第一審ノ判決ヲ變更シテ被上告人ノ控訴ヲ理由アルモノト判決セラレタリ然ニ理由ノ末段ニ於テ民訴四百二十四條ニ從ヒ主文ノ如ク判決スル法條ヲ適用セラレタリ判決主文ヲ以テ果シテ正當ノ判定ナリトセハ即該條ヲ適用シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリ又該法條ヲ適用シタルハ正當ナリトセハ右判決ハ誤謬ニ出テタル不法ノ裁判ナリ要スルニ判決主文ト法條ノ適用ト齟齬アルハ法律ニ違背シタル不法ノ裁判ナリト云フニアレトモ判決ニ於テ第一

審判決ヲ變更シタルニ拘ハラヌ控訴棄却ノ法條即民訴第四百二十四條ヲ掲タルハ是著シキ誤謬ト認
メ得ヘキヲ以テ破毀ノ理由ト爲ヌヲ得ヌ

以上ノ理由ナルヲ以テ民訴第四百三十九條ニ從ヒ主文ノ如ク本上告ヲ棄却スルモノナリ

明治廿九年十月廿七日

大審院第一民事部

裁判長判事 中村 元嘉 判事 小松 弘隆 判事 岡村 爲藏 判事 井上 正一
判事 小澤 正温 判事 西川 鉄次郎 判事 中尾 眞晃

附 言

被告會社カ第二審ニ於テ第一審ニ於ケル主張ニ加ヘテ猶豫期間内ニ於ケル契約ノ繼續ハ會社ノ承諾
ヲ俟テ後ニ有效ナリト蛇足ヲ加ヘ第三審ニ於テ更ニ其主張ヲ推擴メ九十日ハ拂込猶豫期間ニアラ
スシテ繼續期間ナリトシ且繼續期間ノ性質ヲ説明シテ死亡ノ場合ニ適用セスト論シ且止ムヲ得サル
事故ニ因スル延滞ニアラサレハ繼續ヲ承諾セスト云フカ如キ數種ノ獨斷的主張ヲ爲シタルハ訴訟ノ
外面ヲ損スルコト頗ル大ニシテ判事カ悉ク是等ノ論旨ヲ排却シタルハ當然ナリ又猶豫期間ノ性質並
ニ恰好本訴訟ノ争點タル會社ノ之ニ關スル規定ノ解釋ニ就テハ粟津清亮著保險論集自第二百五十九
頁至第二百六十七頁及自第三百十二頁至第三百七十一頁ニ詳細ノ議論アリ就テ參觀スヘシ

(七) 豊田好雄豊田タケ對大日本生命保險會社事件(始審)

判決要旨

保險料拂込猶豫期間内ノ死亡ニ對シテハ保險者保險金ヲ支拂フ責ニ任ス

判決正本

群馬縣佐位郡境町大字境町五十六番 群馬縣佐位郡境町二丁目四番地
原告 豊田 好雄 被告 大日本生命保險會社
全縣前橋市壘町七十五番地寄留
右後見人 園田 長治 右専務取締役 小松 恒太郎
全縣佐位郡境町大字境町五十六番
原告 豊田 タケ 右訴訟代理人辯護士 豊田 鉦三郎
右兩名訴訟代理人辯護士 栗原 藤太郎

右當事者間ノ明治廿九年(第一〇九號)保險料提供承諾並保險金請求訴訟事件ニ付當地方裁判所ハ判
決スルコト左ノ如シ

被告ハ原告豊田好雄ヨリ金拾五圓六拾五錢ト之ニ對スル明治廿八年十一月廿四日ヨリ同廿九
年二月廿日ニ至ル年六朱ノ利子トヲ受取リ保險金五百圓ヲ同人ニ支拂フヘシ
被告ハ原告豊田好雄ヨリ金九圓五拾三錢六厘ト之ニ對スル明治廿九年一月四日ヨリ同年二月

廿日ニ至ル年六朱ノ利子トヲ受取テ保險金二百圓ヲ原告豊田タケニ支拂フヘシ
訴訟費用ハ被告ノ負擔タルヘシ

事 實

原告豊田好雄ニ於テハ被告ハ原告ヨリ保險料金二十五圓六十五錢ト之ニ對スル明治廿八年十一月廿四日以後同廿九年二月廿日ニ至ル年六朱ノ利子トヲ受取リ保險金五百圓ヲ原告ニ支拂フヘシト判決アラシコトヲ求ムル旨一定ノ申立ヲナシ原告豊田タケニ於テハ被告ハ原告豊田好雄ヨリ保險料金九圓五十三錢六厘ト之ニ對スル明治廿九年一月四日以後同年二月廿日ニ至ル年六朱ノ利子トヲ受取リ保險金二百圓ヲ原告ニ支拂フヘシトノ判決ヲ求ムル旨一定ノ申立ヲナシ被告ハ原告請求ハ共ニ棄却アラシコトヲ請求セリ

原告豊田好雄演述要旨ハ原告實父豊田實ハ明治廿七年十一月廿四日被告會社ト終身生命保險契約ヲ爲シ被保人豊田實保險金受取人豊田好雄保險金五百圓保險料一ヶ年拾五圓六十五錢保險料拂込期日毎年十一月廿四日五月廿四日ノ兩度トシ尙拂込期日ニ保險料ヲ拂込サルキハ九十日以内ハ相當利息ヲ拂フノ義務ヲ負フ迄ニテ他ニ契約違反ノ責ヲ負ハサルコトヲ約シタリ而シテ被保人實ハ明治廿九年一月七日癌腫性胃管狹窄症ニテ病死シタリ然ルニ全人ハ病氣ノ爲メ明治廿八年十一月廿四日ニ支拂フヘキ保險料ノ支拂ヲナサスシテ死亡シタルニ付原告ハ承繼人トシテ契約ノ趣旨ニ從ヒ保險料及ヒ

其利子ヲ支拂ヒタル上保險金ヲ受取ラントスルモ被告ハ之ニ應セス依テ本訴ノ請求ヲナスト云フニ在リ

原告豊田タケ演述ノ要旨ハ原告夫豊田實ハ明治廿八年一月四日被告會社ト六十歲滿期ノ養老生命保險契約ヲ爲シ被保人豊田實保險金受取人豊田タケ保險金二百圓保險料一ヶ年九圓五十三錢六厘保險料拂込期日毎年一月四日七月四日ノ兩度ニシテ同日保險料拂込ヲナサハルモ九十日以内ハ相當利息ヲ負擔スルニ止マリ他ニ責任ヲ負ハサル旨ヲ約シタリ而シテ被保人實ハ明治廿九年一月七日癌腫性胃管狹窄症ニテ病死シ全月四日拂込ムヘキ保險料ヲ支拂ハサリシニ付死后其承繼人タル豊田好雄ヨリ保險料及其利子ヲ支拂ハントスルモ被告ハ之ヲ拒絶スルノミナラス原告ニ對シ保險金ノ支拂ヲナサハルニ付止ムヲ得ヌ本訴ニ及フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ被告ハ亡豊田實ト原告兩名主張ノ如キ保險契約ヲナシタルハ事實ナリ然レモ其終身生命保險契約ニ付テハ明治廿八年十一月廿四日ノ拂込期日ニ保險料ヲ拂込マス又養老生命保險契約ニ付テハ明治廿九年一月四日ノ拂込期日ニ保險料ヲ拂込マスシテ右豊田實カ死去シタルコトハ原告ノ認ムル處ナリ而シテ斯ル場合ニハ其契約自然消滅ニ歸シ被告會社ニ保險金支拂ノ義務ナキハ被告會社ノ規則ニ明カナレハ原告請求ハ共ニ理由ナシト云フニアリ立證トシテ原告ハ甲第一號乃至四號證被告ハ乙號證ヲ提出シタリ

理由

甲第一號一二ノ保險證書ハ亡豊田實ト被告會社トノ間ニ締結サレタル保險契約ノ條項ヲ證スル爲作
 成セラレタルモノナリ今兩證裏面ノ記載ヲ見ルニ共ニ「保險料ハ期日迄ニ拂込ムヘキモノトス若シ
 止ヲ得サル事故アリテ其拂込延滞スル時ハ其日數九十日以内ハ相當ノ利子ヲ拂ハシメ保險ノ契約ヲ
 繼續スト雖モ若シ九十一日以上ニ及フモノハ本社ニ於テハ保險契約ヲ解除セシ者ト看做シ本社ヘ拂
 入タル金額ハ被保人ノ損害タルヘシ」トアルニ依リ本件二個ノ保險契約ハ止ムヲ得サル事故アリテ
 期日ニ保險料ヲ拂込マスト雖モ期日以後九十日間ハ當然解除ニ至ラサルノ趣旨ナリト解釋セラルヘ
 カラス何トナレハ其末段ニ於テ特ニ延滞九十日以上ニ及フ者ハ保險契約ヲ解除セシモノト看做スト
 足ルヲ以テ見レハ反對ノ推理ニ依リ九十日以内ハ解除セシモノト看做サ、ルノ主意ナルヤ明ラカナ
 レハナリ其レ然而シテ被保人豊田實ノ死亡ハ明治廿九年一月七日ニシテ保險料拂込期日タル全廿
 八年十一月廿四日及全廿九年一月四日ヨリ未タ九十日ヲ經過セサルノミナラス甲第三號證ニヨレハ
 豊田實ハ右拂込期日ニ於テ已ニ疾病ニ罹リ居リタルヲ以ツテ該期日ニ保險料ヲ拂込マサリシハ止ム
 ヲ得サル事故ニ出ツルモノト謂フヲ得ヘキニ付前説明ノ理由ニ因リ拂込期日後九十日間保險契約ハ
 固ヨリ其効力ヲ失ハサルモノト論定セサルヘカラス故ニ被告ニ於テ被保人死亡ノ事實ヲ争ハサル上
 ハ延滞保險料ヲ受取り保險金取受人タル原告ニ對シテ保險金ヲ支拂フヘキハ當然ナリトス乙第一號

證ハ明治廿八年十一月以來實行セル被告會社ノ規則ナリトハ被告ノ陳スル所ナリ然ルニ本件保險契
 約ハ其以前ノ締結ニ係ルヲ以テ該證ノ趣旨如何ニ拘ラス本訴ニ於テハ被告ノ期スル如キ證據ノ效用
 ヲ爲サ、ルモノトス以上ノ理由ニ因リ原告請求ヲ至當トシ訴訟費用ニ付テハ民事訴訟法第七十三條
 ヲ適用シ主文ノ如ク判決スルモノナリ

明治廿九年三月廿七日

東京地方裁判所民事第一部

裁判長判事

田 中 浪 江

全 齋 藤 十 一 郎

全 中 村 菊 之 助

附 言

本件モ亦前件ト同シク大日本生命保險會社ノ保險料拂込猶豫期間ニ關スル規定ノ解釋問題ニシテ被
 告ノ主張ハ牽強附會ト謂ハサルヘカラス之ニ對スル裁判官ノ論旨ハ至當ナリ

(八) 森ツ子對内國保險株式會社事件(始審)

判決要旨

被告ノ抗辯ニ就テ信憑スヘキ證據ナキカ故ニ其申立相立タス

判決正本

岐阜縣岐阜市上加納町金澤大門通千二百五十八番戸平民農

東京府東京市京橋區三丁目五番地

原告 森

ツネ

被告

内國保險株式會社

右訴訟代理人

國島

博

右訴訟代理人辯護士

關

直彦

右當事者間ノ保險金請求事件ニ付キ當裁判所ハ判決スル如左

被告ハ金貳千圓ヲ原告ニ支拂フヘシ

訴訟費用ハ被告負擔スヘシ

事實

原告ハ被告ハ原告ニ對シ金貳千圓ヲ支拂フヘシ訴訟費用ハ被告ニ於テ負擔スヘシト判決ヲ受ケタシト申立テ其事由ハ原告ノ實兄五藤佐四郎ハ明治廿六年十二月廿六日金壹千圓全廿七年五月二日金壹千圓ノ生命保險ヲ被告會社ト契約シ該保險金受取人ヲ原告ト定メ爾來佐四郎ハ毎月滞リナク第一ノ分ニ付テハ一ヶ月金三圓三十八錢第二ノ分ニ付テハ一ヶ月金三圓五十一錢宛ヲ支拂ヒ來リタルニ佐四郎ハ明治廿八年四月九日病死セルヲ以テ原告ハ其旨ヲ被告會社ニ通知セリ佐四郎ハ半身不隨症タリシヲナク又月掛金ヲ淹滞シタルヲモナシト云フニ在リテ立證トシテ甲第一號乃至第五號證ヲ提出セリ

被告ハ原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ニ於テ負擔スヘシトノ判決ヲ受ケタシト申立テ其事由ハ

五藤佐四郎ハ兩度ニ金貳千圓ノ生命保險ヲ被告會社ト契約シタルヲ原告ハ右保險金ノ受取人タルニ相違ナキモ第一本訴ノ保險料ハ毎月之ヲ拂込ム約ニシテ佐四郎ハ第一保險料ニ付テハ明治廿八年二月廿六日以後ノ分ヲ拂込マス又第二保險料ニ付テハ明治廿八年三月二日以後ノ分ヲ拂込マスシテ死去シタリ第二五藤佐四郎ハ明治廿六年十一月六日愛知病院ニ於テ腦動脈トロンボジス症ノ診斷ヲ受ケ其際佐四郎ハ此疾病ハ二十年來ノ痼疾ナルヲ係醫師ニ明言セリ而シテ其翌月及ヒ翌年ノ兩度ニ被告ト生命保險契約ヲ結フニ當リ故ラニ此重要ナル事項ヲ隱蔽シ詐欺ノ申込ヲ爲シテ被告ヲシテ結約スルニ至ラシメタルモノナリ

以上ノ理由ニヨリ被告ハ原告ニ佐四郎ノ保險金ヲ支拂フ義務ヲ生セスト云フニ在リテ立證トシテ乙第一號乃至第四號證及稻田宣四郎ノ證言ヲ提出セリ

理由

第一五藤佐四郎カ最終ニ支拂ヒタル甲第三號證ノ十六及甲第四號證ノ十一ヲ見レハ三號ノ分ハ「自明治廿八年一月二十六日至明治全年二月廿五日」トアリ又四號ノ分ハ「自明治二十八年二月二日至明治全年三月一日」トアリテ之ニヨツテ見レハ被告カ第一ノ抗辯ハ其理由アルカ如キモ被告カ否認セル甲第三號證ノ二、三、五、七及ヒ甲第四號證ノ二ニヨレハ「内國生命病災保險會社若クハ名古屋出張所副支配人中島延之」トアリテ此假證ヲ被告カ認メタル他ノ受取證ト對照シ且ツ被告カ甲第

三號證ノ四ニ於テ明治廿七年四月廿五日迄ノ受領證ノ如キ又甲第四號證ノ三明治二十七年八月一日迄ノ受領證ヲ差出シタルヨリ見レハ佐四郎カ右五口ノ保険料ヲ被告ニ拂込ミタルコトヲ認ムルニ充分ナリトス加之被告ハ甲第三號證ノ二、三、五、七、及甲第四號證ノ二中島ニ於テ差出シタルヤモ知レサレトモ會社ノ式ニ違ヒタル受領證ナレハ認メスト云フモ受領書ノ違式ナルト否トハ保險金ノ未拂ナルト否トニ關係ナキヲ以テ此陳述ニヨルモ前段ノ認定ハ相當ナリトス又甲第三號證ノ十二、及十三、ハ一ハ明治廿六年十一月十九日一ハ全年十二月十二日付受取證ナルニ拘ハラズ其保險月ハ二者同一ナリ被告ハ之ヲ説明シテ其際ハ銀行ヨリ會社ノ岐阜代理店ニ事務引繼ヲ爲シタルヲ以テ誤テ同一ノ受領證ヲ兩度ニ差出シタルモノナリト云フモ其證明ヲサハルヲ以テ信憑スルニ足ラス前說明ニヨレハ甲第三號證ノ六ハ明治廿七年四月廿六日ヨリ全年五月廿五日迄トアルモ其實五月廿六日ヨリ六月廿五日迄ノ誤記ナリシコト明ラカナルヲ以テ以下十二迄ハ順次ニ一ヶ月ヲ繰下クヘク又十三以下十六迄ハ順次ニ二ヶ月ヲ繰下ケサルヘカラス

之ニヨリテ見レハ被保人五藤佐四郎ハ保險契約締結ノ時ヨリ一ヶ月タリトモ拂込ノ淹滞シタル事實ナク第一ノ保險料ハ明治廿八年四月廿五日迄第二ノ保險料ハ全年全月一日迄ノ納入済ナリシコト明カナリトス故ニ被告ノ第一點ノ抗辯ハ理由ナキモノトス

第二五藤佐四郎ハ廿年來腦動脈トロンボジス症ノ痼疾アリシニ拘ハラズ此事情ヲ隱蔽シテ保險契約

ヲ爲シタルモノナルヲ以テ該契約ハ無効ナリト主張シ乙號證及愛知病院ノ醫師稻田宣四郎ノ證書ヲ提出セリ而シテ證人ノ陳述ニヨレハ要スルニ乙第一號證ハ證人自身ニ實見シタル事實ヲ證明シタルニアラスシテ單ニ病院備付ノ處方録ニ後藤佐四郎痲疾腦動脈トロンボジストアリ被告ノ雇人鹽澤ナル者乙第一號證ヲ請求ノ際「後」ノ字ハ「五」ノ誤ナリト云フニヨリ五藤ト改メ證明シタルニ過キスシテ處方録ニ後藤トアルハ本件被保人タル五藤佐四郎ト同一ノ人タルコトヲ知ルニ足ラス從テ此事情ノ下ニ成立シタル乙第一號證ノ信ヲ措クニ足ラサルコト勿論ナリトス故ニ乙第二三號證ハ正當ノ申込書ニシテ被告ノ第二ノ抗辯モ亦理由ナキモノトス

明治廿九年十二月三日

東京地方裁判所民事第五部

裁判長判事 小 山 温 判事 潮 恒 太郎 判事 濱 田 道 紀

附 言

本件ハ保險料ノ不拂及既往症隱蔽ノ二箇ノ争點ヲ有セル趣味アル事件ナルモ共ニ證據問題ノ範圍ニ止マリ結局保險者ノ舉證不充分ノ爲敗訴ニ歸シタルナリ 但シ事實ノ真相ハ固ヨリ之ヲ知ルヘカ

(九) 森ッネ對内國保險株式會社事件(控訴)

判決要旨

甲 第一審判決ニ同シ

乙 凡一ヶ月半ニテ治愈シタル疾病ハ重要ナリト認メヌ又八九年ヲ經過シタル以前ノ疾病ノ不陳ハ故意ノ隠蔽ト認メ難シ

判決正本

東京市京橋區三十間堀三丁目五番地

岐阜縣岐阜市上加納町金津大門通千二百五十九番地平民農

控訴人	内國保險株式會社	被控訴人	森	ツ	ネ
右會社取締役	大野清敬	右訴訟代理人辯護士	高木祖來		
右訴訟代理人	岡村輝彦		國島博		
辯護士	石原毛登馬				
	高橋織之助				

右當事者間ノ明治廿九年ネ第二百十九號保險金請求事件ノ控訴ニ付當院ハ判決スル左ノ如シ

本件控訴ハ之ヲ棄却ス

訴訟費用ハ控訴人ノ負擔トス

事實

控訴代理人ハ第一審判決ノ全部ヲ廢棄シテ被控訴人ノ請求ヲ棄却シ訴訟費用ハ被控訴人ノ負擔タルヘキ機判決ヲ求ムト申立被控訴代理人ハ控訴ヲ棄却シ訴訟費用ハ控訴人ヘ負擔セシメラレ度ト申立タリ而シテ事實上ニ於ケル當事者ノ陳述ハ控訴代理人ニ於テ被控訴人ハ明治十八年中指瘡瘡ヲ患ヒ醫師ノ治療ヲ受ケタリトノ一事ヲ増加シタル外總テ第一審判文ニ摘示スル所ト全一ナルヲ以テ之ヲ引用ス

理由

控訴人ハ甲第三號證ノ二、三、五、七、及ヒ甲第四號證ノ二ヲ否認シ併セテ其入金ヲ認メサルモ該證書ハ現ニ控訴會社ノ副支配人ナル中島延之カ保險料ノ受取書トシテ差出シタルモノナルコトハ控訴人モ爭ハサルノミナラス若シ被控訴人カ此受取書ニ記載セル金額ノ拂込ヲ爲サルモノトセハ乙第四號證ノ條款ニ照ラスモ其際ニ於テ既ニ保險契約ハ無効トナルヘキニ因リ控訴會社カ其已後ニ於テ保險料ヲ受取ルヘキ理由ナキニ拘ハラヌ控訴會社カ其已後ニ於テ引續キ保險料ヲ受取り來レルノ事實ニ依ルモ甲第三號證ノ二、三、五、七、及甲第四號證ノ二ニ於ケル保險料ハ何レモ控訴會社ヘ領收シタルモノト認ムルニ充分ナリ果シテ然ラハ被控訴人主張ノ如ク第一ノ保險契約ニ付テノ保險

料ハ明治廿八年四月廿五日分迄第二ノ保險契約ニ付テノ保險料ハ明治廿八年四月一日分迄其拂込ヲ爲シタルモノナルコトハ疑ナキ事實ナリトス然ルニ第二ノ保險料ニ付控訴人ハ假リニ被控訴人主張ノ如ク四月一日分迄拂込ミタルモノトスルモ被保險人ノ死亡ハ全月ナルヲ以テ其全月分ハ尙ホ被保險人ニ保險料ヲ拂込ムノ義務アリ而シテ保險料ハ前月廿五日ヲ拂込ノ期日トナシ万一期日後十日以内ニ拂込マサルハ保險契約ハ無効タルヘキノ約款アリテ被保險人ハ此約款ニ違背スルヲ以テ被控訴人ニ本訴請求ノ權利ナキ旨抗辯スルモ控訴人ノ認ムル甲第四號證ノ三乃至七ノ領收證ヲ閱スルニ皆其月ニ於テ其月ノ保險料ヲ拂込ミ來レルヲ以テ觀レハ當事者間ニ於テハ必スシモ前月廿五日ヲ拂込期日ト定メタルモノニアラサルヲ徵スルニ足ル故ニ此點ニ對スル控訴人ノ抗辯モ亦其理由ナキモノトス又控訴人ニ於テ被保險人ハ二十年來腦動脈トロンボジス病ニ罹リ愛知病院ノ診察ヲ受ケタルコトアルノミナラス明治十八年中指痘瘡ヲ患ヒ醫師ノ治療ヲ受ケタルコトアリシニ此等ノ事實ヲ隱蔽シテ保險ノ申込ミ爲シタルハ即チ乙第四號證裏面ノ初項ニ所謂詐欺ノ廉アルモノニ該當シ保險契約ハ無効ナリト主張スルモ腦動脈トロンボジス病ノ點ニ付控訴人ノ引用セル稻田宣四郎ノ第一審公廷ニ於ケル證言ニ依レハ愛知病院ニ來リ診察ヲ受ケタル後藤佐四郎ナルモノハ明治廿六年十一月中二十年來半身不隨ナリト診察ヲ受ケタリト云ヘリ若シ果シテ此者カ被保險人五藤佐四郎ナリトセハ保險契約ヲ爲シタルハ其翌月ナルヲ以テ契約申込人ハ半身不隨ノ者ナリト爲サ、ル可ラス隨テ控

訴會社カ其身體ヲ検査スルニ際シ之ヲ發見セサル理由ナシ然ルニ乙第二三號證ニ依レハ被保險人ハ現今健康ナリトアリ由此觀之愛知病院ノ診察ヲ受ケタル後藤佐四郎ハ被保險人ナル五藤佐四郎トハ別人ナリトノ被控訴人ノ主張ハ其理由アルモノトス又被保險人カ指痘瘡ヲ患ヒタリトノ點ニ付證人則武章市ノ陳述ニ依ルニ凡ソ一ヶ月半程ノ治療ニシテ全治シタリト云フニアルヲ以テ敢テ重要ノ病ナリト認ムルヲ得ス況ンヤ八九年ノ久シキヲ經過シタル後ナレハ被保險人カ假令控訴會社ノ質問ニ逢ヒ之ヲ黙過シタリトスルモ之ヲ以テ故意ニ隱蔽シタリトハ認メ難キニ於テヤ故ニ保險申込ニ詐欺ノ廉アリトノ控訴人ノ主張モ亦其理由ナキモノトス仍テ當院ハ原判決ハ結局相當ニシテ控訴ハ其理由ナキヲ認メ主文ノ如ク判決ス

明治三十年七月廿日

東京控訴院民事第二部

裁判長判事 前田 孝 階
判事 羽生 顯 親
判事 鹽 野 宣 健

判事 鈴木 宗 言
判事 中島 正 司

附 言

本判決モ亦第一審ニ於ケルカ如ク保險者ノ提出シタル證據ヲ不充分ナリトシタルモノニシテ此點ニ關シテハ茲ニ批評スルノ餘地ナシト雖トモ保險者カ新ニ提出シタル證據ニ對シ裁判官ノ之ヲ是認シ

カラ一ヶ月半程ノ治療ニ依リテ全治シタル疾病ヲ重要ナル疾病ト見做サヌ又八九年ノ久シキヲ經過シタル後ナレハ被保險者カ保險者ノ質問ニ會ヒテ之レヲ默過シタリトスルモ之ヲ以テ故意ノ隠蔽ト認メ難シトハ頗ル失當ナル認定ト謂ハサルヘカラス感冒ノ爲ニ三日臥床シタルカ如キハ世人一般ニ重病トモ思ハヌ又失念スヘキモノナルヘシト雖トモ如何ナル性質ノ疾病ニセヨ一ヶ月半ヲ治療ニ費ス程ノモノハ決シテ一般人カ忘レ去ルヘキ程ノモノニアラス況ンヤ重要ナル疾病ハ八年立ツトモ十年立ツトモ被保險者ノ身體ニ影響ヲ及ホスヘキモノニシテ且保險契約ニ對スル被保險者ノ陳示ノ義務ハ年數ノ經過ト共ニ假借セラルヘキモノニアラサルヲヤ裁判官ハ或ハ指痘瘡ノ如キ疾病ニシテ死因タル疾病ト何等ノ關係ナキカ如クニ見ユルヲ以テ判決ノ如キ論結ヲ下シタルヤモ知ルヘカラスト雖トモ果シテ然ラハ之ヲ以テ理由トセサルヘカラス而シテ假ニ之ヲ理由トスルモ既往ノ疾病カ將來ノ疾病ト如何ナル關係ヲ有スルヤ又既往ノ疾病カ將來被保險者ノ抵抗力ニ如何ナル影響ヲ與フルヤハ法律家タル裁判官ノ獨斷スヘカラサル技術的問題ニシテ保險者ハ之ヲ以テ重大ナル關係ヲ有スルモノト認ムルカ故ニ保險契約ノ當時其陳述ヲ要求スルナリ而シテ之ニ對シテ默過スルモ故意ノ隠蔽ナリト見做サヌトハ何等ノ偏頗ナル認定ソヤ何ソ保險契約ニ於ケル陳示ノ義務ヲ輕視スルノ甚シキヤ況ンヤ本件ノ指痘瘡ナルモノ決シテ死因ト關係ノ想像シ難キモノナラサルヲヤ

(十) 森ツ子對内國保險株式會社事件(上告)

判決正本

東京市京橋區三丁目五番地

上告人

内國保險株式會社

右會社取締役

大野 清 敬

右訴訟代理人辯護士

岡村 輝 彦
石原 毛 登 馬

岐阜縣岐阜市上加納町金澤大門通千二百五十九番地
平民農

被上告人

森

ツ

子

右當事者間ノ保險金請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十年七月九日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判 決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理 由

上告第一點原判決ニ「第二ノ保險契約ニ付テノ保險料ハ明治廿八年四月一日分迄其拂込ヲ爲シタルモノナルコトハ疑ナキ事實ナリトス然ルニ第二ノ保險料ニ付控訴人^{上告人ノ}ハ假リニ被控訴人^{被上告人ノ}以下主張ノ如ク四月一日分迄拂込ミタルモノトスルモ被保險人ノ死亡ハ同月ナルヲ以テ其全月分ハ尙被保險人ニ保險料ヲ拂込ムノ義務アリ而シテ保險料ハ前月廿五日ヲ拂込ノ期日トナシ万一期日後十日以内ニ拂込マサルトキハ保險契約ハ無効タルヘキノ約款アリテ被保險人ハ此約款ニ違背スルヲ

以テ被控訴人ニ本訴請求ノ權利ナキ旨抗辯スルモ控訴人ノ認ムル甲第四號證ノ三乃至七ノ領收證ヲ
 閱スルニ皆其月ニ於テ其月ノ保險料ヲ拂込ミ控訴會社ハ之ニ對シ正式ノ領收證ヲ發シ來レルヲ以テ
 觀レハ當事者間ニ於テハ必シモ前月廿五日ヲ拂込期日ト定メタルモノニアラサルコトヲ徵スルニ足
 ル故ニ此點ニ對スル控訴人ノ抗辯亦其理由ナキモノトス」トアリ該判文中摘示スル所ノ如ク上告人
 抗辯ハ要スルニ四月一日ヨリ以後ハ保險料ノ支拂ナシ故ニ保險金支拂ノ責ナシト云フニ在リ故ニ上
 告人ヲシテ保險金ヲ支拂ハシムヘキ旨ノ判決ヲ與ヘラレンニハ右保險料ノ支拂ナシト云フト雖モ尙
 保險金支拂ノ責アル所以ノ理由ヲ説明セラルヘキナリ然ルニ原判決ハ右判文摘示ノ如ク「甲第四號
 證ノ三乃至七ノ領收證ヲ閱スルニ皆其月ニ於テ其月保險料ヲ拂込ミ云々必シモ前月廿五日ヲ拂込期
 日ト定メタルモノニアラサルヲ徵スルニ足ル」ト云フノミナレハ保險料支拂期日如何ニ付テ判斷ヲ
 ナシタルノミト云ハサルヘカラス然ルニ本件ノ爭ハ寧ロ四月一日後保險料支拂ナキニ關セスシテ尙
 保險金支拂ノ責アリヤ否ト云フニ在リテ此點ニ對スル裁判理由ヲ付セスシテ上告人ノ抗辯ヲ理由ナ
 シトシタルハ不法ナリト云ニ在レトモ原判文ニ記載セル上告人ノ抗辯ヲ考査スルニ保險料ハ前月廿
 五日迄ニ必ス拂込ムヘシ萬一期日後十日以内ニ拂込マサルトキハ保險契約ハ無効タルヘシトノ約款
 アリ故ニ被上告人所論ノ如ク假リニ四月一日分マテ拂込ミタルモノトスルモ尙ホ被保險人死去ノ月
 即チ四月分ノ保險料ハ該約款ニ基キ其前月即チ三月廿五日ヨリ十日以内ニ拂込ムベキモノナルニ之

ヲ拂込マサルヲ以テ保險契約ハ無効ニ歸シタルカ故ニ被上告人ニ保險金請求ノ權ナシト云フニ在リ
 テ上告論旨ノ如ク其拂込期日ニ關係ナクシテ單ニ四月一日以後ハ保險料ノ支拂ナシ故ニ保險金支拂
 ノ責ナシト云フニ在ラザリシナリ然ルヲ以テ原院ハ其保險料拂込期日タルヤ實際ニ於テハ必スシモ
 前月廿五日ヨリ十日以内ヲ以テ拂込期日ト爲シタルモノニアラズシテ其月ニ於テ其月ノ保險料ヲ拂
 込ムモノタルコトヲ斷定シタルモノナリ而シテ其期日カ原院ノ斷定シタル如クナルトキハ被保險人
 ノ死去ノ日ハ未タ其四月分ノ保險料拂込ノ期限ヲ經過セサルモノナルヲ以テ從テ保險契約ハ無効ニ
 歸スヘキモノニアラサルカ故ニ原院カ上告人ノ抗辯ヲ排斥シタルモノナレハ原判決ハ上告論旨ノ如
 キ不法アルコトナシ

上告第二點上告人抗辯ノ一タル被保險人ハ明治二十六年十一月中愛知病院ニテ腦動脈トロンボジス
 病ナリトノ診斷ヲ受ケタルコトアル如キ重患アルコトヲ隱蔽シテ保險申込ヲナシタルハ乙第四號證
 裏面初項ニ謂ユル詐欺ノ廉アルモノニ該當シ契約ハ無効ナリトノ點ニ對シ原判決理由ニ「證言ニ依
 レハ愛知病院ニ來リ診察ヲ受ケタル後藤佐四郎ナルモノハ明治廿六年十一月中廿年半身不隨ナリト
 シ診察ヲ受ケタリト云ヘリ若シ果シテ此者カ被保險人五藤佐郎四ナリトセハ保險契約ヲ爲シタルハ
 其翌月ナルヲ以テ契約申込人ハ半身不隨ノ者ナリト爲サ、ル可カラス隨テ控訴會社カ其身体ヲ檢査
 スルニ際シ之ヲ發見セサル理由ナシ然ルニ乙第二三號證ニ依レハ被保險人ハ現今健康ナリトアリ由

此觀之愛知病院ノ診察ヲ受ケタル後藤佐四郎ハ被保險人ナル五藤佐四郎トハ別人ナリトノ被控訴人ノ主張ハ其理由アルモノトス」ト云フト雖トモ腦動脈トロンボジスガ諸他皮膚病ノ如ク一見シテ之ヲ患フルモノナルコトヲ知ルヲ得ヘキ病質ナレハ上告人會社カ之ヲ發見セサル筈ナカルヘキモ鑑定人三浦謹之助ノ陳述スルカ如ク本人ヲ外面ヨリ視タルノミニテハ知ルコト能ハサルモノナレハ被保險人ハ秘シテ言ハサレハ之ヲ發見シ能ハサルハ其所ナリ若夫レ發見シ得ヘキ病者ナルヲ發見シ得サリシコトヲ以テ後藤佐四郎ト五藤佐四郎トカ別人ナリト判斷スルニ足ルヘキ理由トセラレンニハ先以テ腦動脈トロンボジス病カ容易ニ發見シ得ヘキ病質ナルコトノ確定セラレテ後ナラサルヘカラス然ルモ原判決カ病質ノ容易ニ發見シ得ヘキモノナルヤ否ヲ判別セシテ單ニ該病アルコトヲ發見セサリシヲ以テモ愛知病院ニテ診察ヲ受ケタル後藤佐四郎トハ別人ナル旨判定セラレタルハ條理ニ反シテ事實ヲ確定セラレタルハ不法ナリ又被保險人カ病人ナルヤ否判別ノ不能ハ上告人ノ知能ノ程度ニ關スル問題ニシテ病人カ誰ナルヤ否ハ人ノ區別ニ關スル事實上ノ問題ナリ故ニ論理上因果相關セズ是ヲ以テ知能ノ程度ヲ以テ本件被保險人カ果シテ愛知病院ニテ診察ヲ受ケタル人ナルヤヲ判斷セントスルハ論理ニ適セサル推理方法ナリ原判決カ若シ愛知病院ニテ腦動脈トロンボジス患著ナリトノ診察ヲ受ケタル者被保險人ナリシナラハ保險申込ノ際上告人會社カ之ヲ發見セサリシ理由ナシ云々ト説明シテ以テ被保險人ト後藤佐四郎トハ別人ナルヘキ旨認定セラレタルハ論理ニ違背シテ

事實ヲ確定シタル不法アリト云フニ在レトモ其前段ノ論告ニ因リ鑑定人三浦謹之助ノ訊問調書ヲ查閱スルニ外面ヨリ本人ヲ視タル式ケニテハ分ラヌ醫師カ能ク診察セサレハ明瞭セストアリ此陳述ニ依レハ單ニ外貌ヨリ視レハ分明セサルモ醫師カ能ク診察スレハ分明スト云フニ在リテ上告論旨ノ如ク被保險人カ秘シテ言ハサレハ之ヲ發見シ能ハサルモノニアラス故ニ原院カ上告會社ニ於テ其身体ヲ検査スルニ際シ之ヲ發見セサル理ナシ云々ト説明シタルモ不法ニアラサルナリ何トナレハ上告會社ハ是等事實ヲ發見センカ爲メニ特ニ醫師ヲシテ能ク被保險人ノ身体ヲ検査セシムルモノナルカ故ニ單ニ外貌ヨリ視タルノミニアラヌシテ醫師ヲシテ能ク診察セシメタルモノナレハ若シ被保險人ニ半身不隨ノ疾病アリシナラバ醫師ハ必ス之ヲ發見シ得ヘケレハナリ故ニ原院カ原判文ニ説明セシ理由ヲ以テ被保險人ナル五藤佐四郎ハ愛知病院ノ診察ヲ受ケタル後藤佐四郎ト別人ナリトノ判定ヲ爲シタルモ上告論旨ノ如キ不法アルコトナシ要スルニ此點ハ原院カ爲シタル事實ノ判定ヲ批難スルニ止マリ適法上告ノ理由ナシ其後段モ亦適法ノ上告理由アルコトナシ何トナレハ本論告ノ問題ハ被保險人カ半身不隨ノ疾病者タリシヤ否ヤニ據テ其人ヲ區別シ得ヘキ場合ナルカ故ニ其疾病ヲ知り得ヘキ知能カ其人ノ區別ニ關聯セルヲ以テ原院ノ判定ハ上告論旨ノ如ク論理ニ背反シテ事實ヲ確定シタルモノニサラサレハナリ

上告第三點原判決中「又被保險人カ指痘瘡ヲ患ヒタリトノ點ニ付證人則武章甫ノ陳述ニ依ルニ凡ソ

一ヶ月半程ノ治療ニシテ全治シタリト云フニ在ルヲ以テ敢テ重要ノ病ナリト認ムルヲ得ス況ンヤ八九年ノ久シキヲ經過シタル後ナレバ被保險人カ假令控訴會社ノ質問ニ逢ヒ之ヲ默過シタリトスルモ之ヲ以テ故意ニ隱蔽シタリトハ認メ難キニ於テ「ヤ云々」トアリト雖モ上告人ハ被保人カ瘰癧ヲ患ヒタルコトヲ隱蔽シタリシコトヲ以テ一抗辯トシタルコトハ一件記録ニ明カナルノミナラス證人ニ於テモ曾テ指瘰癧ニ關スル陳述ヲナサス指瘰癧ト瘰癧トハ全ク別異ノ症ニシテ瘰癧ハ指端ヨリ骨肉ノ腐敗シ去ル症ナレハ被保人致死ノ原因タル脫疽ト同一種ナリ豈重要ノ病ニアラスト云フヲ得ンヤ病症ノ輕重ハ暫ク措テ指瘰癧ヲ患ヒタルコトヲ被保人カ隱蔽シタリトハ上告人カ原院法廷ニ曾テ呈出セサル事實ナリ然ルヲ原判決カ此呈出セラレサル事實ニ就テ判決説明ヲナスニ至リシハ不法ナリト云フニ在レトモ證人則武章甫ノ訊問調書ヲ查閱スルニ瘰癧病ナルモノハ俗ニ云フ所ノ指瘰癧ナル旨ヲ陳述シアリ故ニ指瘰癧トハ瘰癧病ノ俗稱タルニ過キスシテ彼是同一ナルヲ以テ原院カ指瘰癧云々ト説明シタレハトテ上告論旨ノ如ク上告人ノ提出セサル事實ニ就テ判斷シタリト云フヲ得サルモノナリ

以上説明セシ如ク上告論旨ハ總テ適法ノ理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ照ラシ本件上告ヲ棄却スル所以ナリ

明治三十一年一月廿七日

大審院第一民事部

- | | | | | | |
|-------|-------|----|-------|----|--------|
| 裁判長判事 | 中村 元嘉 | 判事 | 井上 正一 | 判事 | 小松 弘隆 |
| 判事 | 岡村 爲藏 | 判事 | 本多 康直 | 判事 | 西川 鏡次郎 |
| 判事 | 河村 善益 | | | | |

(十一) 飯岡淺吉對有隣生命保險株式會社事件(始審)

判決要旨

被保險者ノ年齢ヲ減少シテ申込ミタル契約ハ無効ナリ

判決正本

- | | | | |
|--------------|-------|--------------|------------|
| 原告 | 飯岡 淺吉 | 被告 | 有隣生命保險株式會社 |
| 大坂地方裁判所々屬辯護士 | 竹澤 節藏 | 大津地方裁判所々屬辯護士 | 由利 公正 |
| 右訴訟代理人 | 望月 長夫 | | |

右當事者間ノ保險契約金請求事件ニ付當裁判所ハ判決スルコト左ノ如シ
原告ノ請求ハ之ヲ棄却ス

原告ハ保險金貳百九拾八圓六拾錢ニ起訴ノ日ヨリ判決執行迄ニ至ル法律上ノ利息ヲ添テ支拂ヲ求ムト申立テ其事實ハ原告ハ其親友同町ニ住居伊藤源右衛門ノ尋常終身生命保險ヲ被告會社ニ囑托シ甲第一號證ノ通明治二十八年十二月十二日ヲ以テ保險契約ヲ爲シ原告ハ定期ニ保險掛金ヲ拂込ミ被告會社ハ若シ被保人源右衛門死亡スルトキハ會社カ其死亡證書ヲ受取リタルヨリ郵便日數ヲ除キ六拾日以内ニ保險金參百圓ヲ原告ニ支拂フヘキ約束ヲ爲シタリ原告ハ甲第二號乃至第五號證ノ通保險掛金拂込ノ義務ヲ盡シタリ而シテ被保人源右衛門ハ甲第六號證第七號證ノ通明治廿九年九月廿九日死亡シタルニ依リ同年十月中之ヲ被告會社ヘ通知シタリ然ルニ被告會社ハ契約ノ保險金ヲ支拂ハス故ニ已ヲ得ヌ本訴ヲ提起シタリ尤モ甲第一號證ニハ保險金參百圓トアレトモ原告ヨリ拂込ムヘキ保險掛金第四回目ノ分ニ掛不足金壹圓參拾貳錢並ニ淹滯利金七錢八厘ノ未拂アルヲ以テ此未拂金ヲ控除シ其殘額金貳百九拾八圓六拾錢貳厘並ニ此金ニ對シ年六分ノ割合ヲ以テ起訴日ヨリ判決執行迄ノ利子ヲ添ヘ速ニ原告ニ支拂フヘキ事ナリト云ヒ甲第一號乃至第七號證ヲ提出シ而シテ乙第一二號證ヲ認メ乙第三號證ハ書面ヲ認メ立證ノ趣旨ヲ否認シタリ

被告ハ原告ノ請求ヲ棄却アリタシト申立テ其事實ハ原被告間保險契約締結ノ際乙第一號證ノ通被保

人源右衛門ハ其生年月ヲ弘化三年八月生ナリト申込ヲ爲シタルヲ以テ其年齡ニ應シタル保險料ヲ拂込マシムヘキ約束ヲ爲タリ而シテ乙第二號證戶籍寫ニハ同人ハ弘化二年八月生トアリ是レ保險契約ノ基本タル申込事項ニ關シ虛偽ハ申込ヲ爲シタルモノナレハ保險契約ハ無効タリ又原告ト被保人ト親友ナリト稱スレトモ全ク何等ノ關係ナキモノニシテ畢竟他人ノ生命ニ付保險契約ヲ爲シタルモノナレハ保險契約トシテ成立セス假ニ保險契約ハ有効ナリトスルモ原告ハ保險料ヲ定期ニ支拂ハサリシヲ以テ被告ハ原告ノ請求ニ應スルコト能ハスト云ヒ乙第一號乃至第三號證ヲ提出シ而テ甲第一號乃至第四號第六號第七號證ハ之ヲ認メ甲第五號證ハ書面ヲ認メ立證ノ趣旨ヲ否認セリ

本訴ノ爭點ハ第一保險契約ノ際被保人ノ年齡ヲ減少シ申込ヲ爲タルコトハ其契約ヲ無効ニ歸セシムヘキヤ否ヤ第二原告ト被保人トハ親友ナルヤ否ヤ第三原告ハ保險掛金ノ義務ヲ盡シタルヤ否ヤニアリ

第一爭點 原告カ保險契約ヲ爲ス際被告會社ニ申込ミタル事項中被保人源右衛門ノ年齡ヲ弘化三年八月生トシテ申込タルコトハ乙第一號證ニ因テ明カナルノミナラス原告ノ認ムル所タリ而シテ源右衛門ノ真正ノ年齡ハ乙第二號證戶籍寫ニ記載スル通弘化二年八月生ナルコトモ亦原告ノ爭ハサル所タリ抑モ原被告間ノ保險契約ハ原告ニ於テハ被告會社ニ對シ被保人ノ年齡及體質ニ依リ定期ニ一定

ノ保険料ヲ支拂フ義務ヲ負ヒ被告會社ハ被保人ノ年齢ニ應シ一定ノ保険料ヲ原告ヨリ支拂ハシメ被保人死亡スルトキハ直ニ約束ノ保険金ヲ原告ニ支拂フヘキ義務ヲ負フモノニシテ原告被告間ハ被保人ノ年齢ニ基キ契約ヲ爲スモノタリ殊ニ原告ノ認ムル乙第三號證保險規則第六章第一項ニ「本社ハ申込證書ニ基キ醫師ノ体格診査ヲ經テ契約ヲ取結フニアリ若シ該申込書ハ勿論醫師ヘノ陳述ニ詐偽或ハ隱蔽ノ廉アルトキハ契約ハ無効ニ屬スルモノトス云々」トアリ被告會社ハ申込證書ニ基キ保險契約ヲ爲スコトヲ明記セリ故ニ原告ヨリ保險契約ヲ爲ス際被保人ノ年齢ヲ減少シ申込ヲ爲シタルトキハ被告會社ハ保險契約ヲ爲シタル重要ナル事項ニ付錯誤アリタルモノナレハ其契約ハ無効タリ隨テ原告ヨリ甲第一號證ニ基キ保險金ヲ請求スルコト能ハス

既ニ保險契約ハ無効ナリト論定シタルヲ以テ其他ノ論點ハ一々論明ヲ與ヘス
以上ノ理由ニ基キ主文ノ如ク判決ス

明治三十年三月十七日

京都地方裁判所民事部

裁判長判事 横山 寛平 判事 樋山 廣業 判事 膳 鉦次郎

附 言

本件ニ於テハ裁判官カ被保險者ノ年齢相違ヲ以テ直チニ申込人カ故意ニ年齢ヲ減少シテ申込ミタル

モノト認定シ之ヲ詐欺隱蔽又ハ重大ナル事項ノ錯誤ト見做シテ契約無効ヲ宣告シタルナリ然レトモ是レ甚苛酷ナル認定ニシテ實際ト記憶又ハ戸籍面トカ相違スルコトハ屢存在スル所ノ事實ニシテ保險者ハ保險料ノ差額サヘ請求スレハ契約ヲ有效ナラシムルニ於テ些ノ損害ナシ故ニ保險社會ノ習慣上年齡相違ハ無効ノ原因トナサ、ルナリ之ニ就テハ粟津清亮著保險論集自第二百八十三頁至二百八十六頁及自第四百九十五頁至第五百六頁ニ詳論セリ

(十二) 飯岡淺吉對有隣生命保險株式會社事件(控訴)

判決要旨

第一審判決ニ同シ

判決正本

福井縣越前國大野郡勝山町字上元録廿番地平民農

控訴人 飯岡 淺吉

京都府京都市下京區東洞院通六角上ル三文字町廿五番戸
有隣生命保險株式會社專務取締役

被控訴人 由利 公正

大坂地方裁判所々屬辯護士

右訴訟代理人 竹澤 節藏

大津地方裁判所々屬辯護士

右訴訟代理人 望月 長夫

右當事者間ノ明治三十年大阪控訴院(子)第三百三號保險契約金請求控訴事件ニ付判決ヲナスコト左ノ

如シ

判決主文

本件控訴ハ之ヲ棄却ス

控訴ノ訴訟費用ハ控訴人ノ負擔トス

事實

控訴人ハ原判決廢棄ノ上被控訴會社ハ保險金參百圓ヨリ控訴人カ第四回ノ掛不足金壹圓參拾貳錢並ニ淹滯利子七錢八厘ヲ引去リ殘金貳百九拾八圓六拾錢貳厘ニ起訴ノ日以來法律上壹ケ年百分六ノ割合ヲ以テ利子ヲ付シ控訴人ヘ支拂フヘシトノ判決アリタシト申立テ被控訴人ハ控訴棄却ノ判決アリタシト申立テタリ而シテ双方事實上陳述ノ要旨ハ原判決ニ記載アル所ト異ラサルヲ以テ其摘示ニ付テハ原判決ヲ引用ス

理由

控訴人カ弘化二年八月三日生ナル伊藤源右衛門ニ對スル保險ヲ被控訴會社ニ托スルニ當リ被控訴會社ニ對シ源右衛門ノ生レカ弘化三年八月ニ在ルモノ、如ク陳述シタルハ控訴人ノ認ムル所ナルヲ以テ判斷ヲ要セス而シテ此不實ノ陳述ハ當然拂フヘキ保險料ヨリモ少額ナル保險料ヲ拂ヒ以テ損失ヲ被控訴會社ニ蒙ラシムルノ原因ヲ成セシモノナルニ付其惡意ニ出テタルト否トヲ問ハス保險契約上

ニ在テハ之ヲ詐僞ト謂フテ可ナルモノトス況ンヤ此ノ如ク事ニ害アルノ結果ヲ惹起シタル不實ノ陳述ハ其惡意ニ出テサル限リハ惡意ニ出テタルモノト推定セサルヲ得サルニ於テオヤ又此詐僞ハ控訴人ニ於テ被控訴會社ニ與ヘタル損失ヲ補償スルノ手段ニ因リ以テ之ヲ抹殺セントスルモ固ヨリ許スヘキ條理アラサルモノトス何トナレハ若シ補償ニ因リ詐僞ヲ抹殺シ得ヘシトセハ詐僞ノ發覺セサルヘキヲ僥倖シテ之ヲ行フモノ續出スヘケレハナリ既ニ控訴人ノ右ノ陳述ヲ詐僞ト判斷スル上ハ本件保險契約ハ乙第一號證ニ此申込證書ニ記載ノ條項及診查醫ニ對スル陳述ニ詐僞隱蔽ノ廉アルカ云々渾テ契約ハ無効ニ歸シ保險金ヲ要求スルノ權利ヲ失ヒ云々トアル明文及ヒ被控訴人ノ援用スル甲第八號證ニ若シ該申込證書ハ勿論醫師ヘノ陳述ニ詐僞或ハ隱蔽ノ廉アルトキハ契約ハ無効ニ歸スルモノナリ云々トアル明文ニ該當スルコト論ヲ俟タサルモノナルニ付控訴人ハ保險金ヲ被控訴會社ニ對シ要求スルノ權ナキモノトス由テ控訴人ノ他ノ論旨ニ對シテハ一々説明ヲ與フルヲ要セサルモノトシ主文ノ如ク判決ス

治三十年五月廿六日

大阪控訴院民事第三部

裁判長判事 掛下重次郎

判事 高海速太

判事 遠山正綱

判事 池田正誠

判事 西川漸

(十三) 石川潮太郎對職工生命保險株式會社事件(始審)

判決要旨

保險者カ保險料ノ取集ヲ特約シタルトキハ保險契約者ハ拂込期日ニ拘束セラレ、コトナシ

判決正本

東京市本所區中之郷元町一帯地平民塗師職

原告 石川潮太郎

全市日本橋區本町一丁目九番地
職工生命保險株式會社社長

被告 小林好愛

右訴訟代理人辯護士

鴨志田直

右訴訟代理人辯護士

北井波治目

右當事者間ノ明治三十年ハ第二四七七號生命保險金請求訴訟事件ニ付當裁判所ハ審理判決スル左ノ如シ

判決

被告ハ原告ニ對シ金五拾圓ヲ辨濟ス可シ

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事實

原告ハ其妻リキカ明治廿七年一月ヨリ被告會社ノ被保險人トナリ一ヶ月金三拾錢ツ、ノ掛金ヲ爲シ來リ明治三十年七月廿日病死セシヨリ以テ直ニ被告會社へ届出テ翌廿一日會社ノ差圖ニ依リ夫々書面

ヲ差出置タルニ全月廿九日ニ至リ被告會社ハ保險規則第廿七條ニ該當スルヲ以テ保險金支拂ノ義務ナシト主張スルニ付本訴ニ及ヒタリ依テ被告ニ對シ保險金五十圓ヲ請求スト申立タリ
被告ハ原告申立ノ如ク保險契約ヲ爲シタルハ相違ナキモ石川リキカハ明治三十年六月九日ヨリ全年七月廿日迄保險掛金ヲナササルヲ以テ會社ノ規則第廿七條ニ三十日間掛金ヲ怠ルトキハ契約解除スル旨記載アルヲ以テ被告ハ原告ニ對シ保險金支拂ノ義務ナシ依テ原告ノ請求ハ棄却アリタシト申立タリ

理由

本訴ハ石川リキカ被告會社ノ被保險人タルコト右リキカ病死セシメ其保險金ハ金五拾圓ニシテ原告カ其受取人タルヲ付テハ當事者間ノ争ハサル所ナリ特ニ争フ所ハ被保險人リキカ三十日間掛金ナキヲ以テ會社規則第廿七條ニ依リ保險契約ヲ解除セラレタルモノナルヤ否ニアリトス依テ各證據物件ニ徴シ審案スルニ乙第一號證ニ保險掛金延滞シテ三十日ヲ經過シタルトキハ保險契約ハ當然解除セラレタルモノト見做シ更ニ拂込タル保險掛金ハ之ヲ償還セストアリテ被保險人リキカ明治三十年六月八日ヨリ全年七月廿日迄ノ保險掛金ヲ支拂ハサリシハ甲第一號證ニ依テ知ルベシ然レモ該掛金ハ被保險人ヨリ持參スベキモノニアラズシテ被告會社ヨリ取集メニ參ルエエ其者ニ御渡シニ成レハ宜シイノテアルト記載シアレハ縱令何十日遲延スルモ取集人來ラサル以上ハ被保險人ニ遲滞ノ責ナキハ勿論

ナリ現ニ甲第一二號證ニ明治廿九年十二月十一日ヨリノ掛金ヲ明治三十年一月十六日ニ受取リアリ
テ三十日ヲ經過シアリ被告カ唯一ノ抗辯トスル明治三十年六月八日ヨリ全年七月廿日迄被保人カ掛
金ヲ爲サストノ主張ハ畢竟被告會社カ取集ニ出張セサル爲メニシテ被保人ニ遲滞ノ責任ナキハ甲第
二號證原告ノ保險料受取證ニ明治三十年六月八日ヨリ全年七月七日迄ノ掛金ヲ全年七月廿一日ニ受
取アルヲ以テ知ルニ足ル以上視易キ點アルニモ拘ハラス被告會社カ他人ノ財物ヲ受取置クハ本訴原
告ノ請求ヲ拒ムハ最モ不當ナリトス依テ主文ノ如ク判決ス

明治三十年九月廿七日

東京區裁判所

判事 中山 要人

附 言

保險料ノ拂込ハ保險契約者カ保險者ノ營業所ニ就キテ爲スヲ原則トス何トナレハ保險者カ拂込期日
毎ニ多數ノ保險契約者ニ就キテ之ヲ請求スルト云フコトハ殆ント不可能ノ事ニ屬スレハナリ故ニ保
險會社ノ多クカ集金人ヲ差出スコトハ單ニ契約者ノ便利ヲ圖ルニ過キス之カ義務タラサルハ勿論之
ニ拘束セラルハコトモ無キナリ故ニ保險契約者ハ集金人ノ來否ニ關セス期日ニハ保險料ヲ持參シテ
拂込ムヘキモノトス然ルニ本件ニ於テハ保險者カ書面ノ上ニ於テ保險料ハ持參スルニ及ハス會社ヨ

リ取集メニ行クト明記シタルカ故ニ一ノ特約ト見做サレタルナリ然レトモ此特約カ果シテ本來ノ規
定即チ「三十日間掛金ヲ怠ルトキハ契約ヲ解除スル」旨ノ約款ヲ全然打消スモノナリヤ又ハ之ト兩立
スルモノナリヤハ尙進ンテ一考スルノ價值アリ即チ前記ノ約款ハ會社ノ解除權ニ就テ規定シタルモ
ノニシテ所謂特約ナルモノハ單ニ保險料拂込方法ニ關スル手續ニ過キス其應用ハ勿論約款ノ範圍内
ニ止マリ三十日以内ニ保險料ノ授受ナキ場合ニハ會社ハ解除權ヲ行ヒ得ルモノナリトノ解釋ナキニ
アラス故ニ裁判官カ特ニ論據ヲ示サスシテ特別ノ約束ヲ以テ會社カ本來ノ規定ヲ全然抹殺シタリト
速斷スルハ早計ナリ又裁判官カ現ニ會社カ三十日以上ヲ經過シテ保險料ヲ受取リタル例ヲ引證シテ
其論旨ヲ確メントスルハ誤レリ何トナレハ會社ハ猶豫期間ヲ經過シタル後ト雖トモ隨意ニ保險料ヲ
受取リテ契約ノ繼續ヲ承諾スルコトヲ得レハナリ

(十四) 上島金吾森田クマ對共濟生命保險合資會社事件(始審)

判決要旨

- 甲 既往症ヲ知ラスシテ陳述セサリシハ隱蔽ニアラス
- 乙 一ヶ月間皮膚病ニ罹リシコトヲ陳述セサルモ隱蔽ニアラス
- 丙 申込書ニ他會社ニ於テ診査ヲ受ケタルコトヲ記載セサルモ保險者ノ要求スル所ニ反セス

判決正本

鳥取縣鳥取郡若槻町四十五番地平民雜業

原告 上 島 金 吾

同縣氣高郡美穗村大字上味軒四十一番地平民雜業

原告 森 田 夕 馬

右訴訟代理人辯護士 玉 置 剛 一郎

東京市日本橋區小舟町三丁目九番地

被告 共濟生命保險合資會社

右法律上代理人社長 安 田 善 四 郎

右訴訟代理人辯護士 岸 本 辰 雄

小 出 五 郎

右當事者間ノ保險金請求事件ニ付當裁判所ハ判決スルコト左ノ如シ

被告ハ原告金吾及夕馬ニ各金壹千圓ヲ支拂フヘシ

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事 實

原告兩名ハ各金壹千圓ツ、ノ支拂ヲ被告ニ請求シ其事實ハ鳥取縣氣高郡美穗村大字上味野森田爲吉ハ明治二十九年九月二十二日被告ト尋常終身生命保險契約ヲ結ヒタリ而シテ被告ハ爲吉死亡セハ原告ニ金壹千圓ツ、ヲ拂渡ス義務ヲ負ヘリ然ルニ同年十一月十一日午後五時爲吉ハ急性汎發腹膜炎ヲ發シ翌日午前二時心臟麻痺ニテ死亡シタリ依テ保險金ノ支拂ヲ請求スト主張セリ
被告ハ原告ノ請求ヲ棄却セラレ度其事實ハ保險契約締結ノコト及爲吉死去ノコトハ原告主張ノ通ナルモ第一爲吉ハ二十七年一月中急性肺炎ニ罹リ凡ソ半ヶ月程ト二十九年六月上旬皮膚病(傳染性全

身病即チ遺傳癩病)ヲ發シ凡ソ一ヶ月間醫士吉田久治ノ治療ヲ受ケシニ拘ハラヌ保險申込書ニ之ヲ載セス第二同人ハ二十九年七月中大東生命保險會社ト保險契約ヲ爲シ醫士ノ診察ヲ受ケシニ拘ハラヌ保險申込書ニ亦之ヲ載セス斯ル事實ノ隱蔽ハ契約ヲ無効ナラシメ保險金支拂ノ義務ナキコト双方ノ明約スル所ナリ且被告ノ調査ニ依レハ爲吉ノ死亡ハ自殺ナリ同人ハ癩病ヲ發セン以來常ニ身ノ薄命ヲ悲ミ遂ニ世ヲ厭フノ念ヲ生シ二三年來屢親族知友ニ向ヒ自己ノ死期ヲ豫言セン程ナリシニ大東保險會社ニハ五百圓ノ保險ヲ約シ被告ニ向テハ身分不相應ニモ貳千圓ノ保險ヲ申込ミ其約ノ成ルヤ僅カニ月餘ニシテ急死セリ原告ハ之ヲ以テ病死ナリト裝フモ前述ノ事情及爲吉カ遺言書ヲ作リシコト死亡ノ前日居村賴行寺ニ行キ獨酌五合ノ酒ヲ盡シ醉後入浴セシ事アリシ事實并ニ名義上ノ主治醫小野清事實上ノ主治醫伊藤文藏實父房次郎等ノ當村ニ於ケル舉動其他因伯時報ノ奇人死亡豫言ノ適中ト題セル記事アリシ等ニ徴スレハ自殺ナルコト蔽フヘカラス故ニ此點ヨリ觀ルモ亦支拂ノ義務ナシト主張シタリ
原告ハ被告ノ主張ニ對シ大東生命保險會社ト契約ヲ爲シタルコトハ之ヲ承諾スレモ此事實ハ當時被告ノ遊説員小橋卓次ヲ經テ之ヲ被告ニ通シタリ又爲吉ハ二十七年六月中風邪ニテ二十九年中頑癩ニテ吉田久治ノ治療ヲ受ケシ外絶テ治療ヲ受ケシコトナシ且同人ハ自殺ニ非スト主張セリ
原告ハ甲一乃至五號證ヲ以テ其主張ヲ立證シ乙號證ハ一四五號證ヲ以テ其主張ヲ立證シ乙號證ハ

一、四、五號證ノ成立ヲ是認シニ二三號ヲ否認シ被告ハ乙一乃至五號證ヲ提出シ甲一號證ヲ引用シ證人加賀常源岡村彌吉郎吉田久治ノ調書ヲ以テ其主張ヲ立證シ甲一號證ハ一二三號證ノ成立ヲ是認シ四五號證ヲ否認セリ

理由

保險契約ノ一旦成立セシコト被告人カ表面病死ナルコトハ爭ナキニヨリ其契約ハ無効ノ原因ナク又被告人ハ自殺ニ非サルコトヲ一應推定スルニ足レリ然ルニ被告ハ第一爲吉ハ保險申込書ニ既往ノ病歴ヲ隱蔽セルヲ以テ契約無効ナリト云フモ二十七年一月爲吉ノ肺炎ヲ治療セリト稱スル證人吉田久治ハ爲吉ハ四五日前ヨリ熱發シ風ヲ引ヒ夕暮ナリトテ休ミ居ル云々十二日ニテ全治シタリ云々ト證言スルヲ以テ當時病勢ノ甚々重カラス且ツ爲吉ハ之ヲ以テ普通ノ風邪ト信シ居リシコトヲ知ルヘク而シテ他ニ爲吉カ自ラ其肺炎ナルコトヲ知リシト認ムヘキ形跡ナシ既ニ之ヲ知ラストセハ申込書ニ其記載ナキハ不知ノ結果ニシテ隱蔽ニアラス又皮膚病ニ付テハ吉田久治ヌラ未タ癩病ナリト診斷シタルニアラス殊ニ外見ニ現ハル、病質ハ被告モ身体診查ノ際之ヲ發見シ得ヘク從テ隱蔽ノ事實ヲ生セサルナリ

第二 爲吉カ大東生命保險會社ニ於テ醫士ノ診察ヲ受ケシニ拘ハラヌ申込書ニ之ヲ載セサルハ即チ事實ヲ隱蔽シタルモノ、如シ然レモ申込書ニ診察ヲ受ケシコトヲ記載スル所以ノモノハ保險契約前

ニ某醫ノ診察ヲ受ケ之ト共謀シ申込後其者ヲ指名シテ身体ノ検査ヲ受ケ以テ保險會社ヲ誤ラシムルカ如キ弊ヲ恐ルレハナリ被告ノ辯スルカ如ク身分不相應ノ申込ナルヤ否ヲ知ルカ爲ニアラス蓋シ生命ハ價額ヲ以テ算定スヘキニアラサルヲ以テ損害保險ノ如ク價額ノ超過若シクハ保險ノ重複ヲ見ルノ要ナク幾許ノ金額ト雖モ之ヲ保險スルヲ妨ケサレハナリ故ニ大東生命保險會社ニ關スル事實ヲ記載セサリシハ申込書ノ要求スル所ニアラサルニ由ルト認定ス

第三 自殺ニ付テハ適切ノ立證ナク且或ハ斯ル念慮ヲ起シタルコトアリト假定スルモ其意ヲ繼續シテ死ニ就キシト認ムヘキ形跡ナシ故ニ被告ノ抗辯ハ孰レモ理由ナシト認メ訴訟費用ニ付民事訴訟法第七十二條ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス

明治三十一年四月二十一日

東京地方裁判所民事第一部

裁判長判事 横山 寛平 判事 淺見 倫太郎 判事 宮崎 恒三郎

附言

本件ノ事實カ果シテ會社ノ主張スル如ク詐欺的保險ナルヤ而シテ會社カ充分其立證ヲ爲スコト能ハサリシ爲ニ敗レタリヤ否ヤヲ論スルハ別問題ナルモ裁判官ノ論旨ニ頗ル欲點多ク且自家撞着ノ甚シキモノアルハ茲ニ一言附記スルノ必要アリ

第一 裁判官ハ被保險者ノ罹リシ疾病ヲ自ラ肺炎ナリト知ラス普通ノ感冒ト思ヒ居タルカ故ニ陳述セザリシモノニシテ隠蔽ニアラス不知ナリト言ヒ肺炎不陳ハ隠蔽ナルモ感冒ノ不陳ハ隠蔽ニアラストノ誤解ニ陥リ又保險契約ノ效力ニ影響ヲ及ホスモノハ獨リ隠蔽ノミニアラステ不知モ亦然ルヲ知ラサルナリ隠蔽ハ惡意ナリ保險契約ハ惡意ニ因テノミ無効ナルニアラス重大ナル過失又ハ事實ノ錯誤モ亦契約ノ效力ヲ左右スヘキハ保險契約ノ性質ヲ知ル者ノ爭ハサル所ナリ

第二 被保險者カ一ヶ月間モ皮膚病ニ罹リシコトヲ告ケザリシモ亦隠蔽ニアラストシタルハ何故ソヤ皮膚病ト雖トモ亦疾病ニシテ屢重要ナル疾病タリ觀察此點ニ及ハサルハ遺憾ノ極ナリトス

第三 被保險者カ曩ニ大東生命保險會社ニ保險ヲ申込ミ醫師ノ診査ヲ受ケタルコトヲ告ケザリシハ明ニ會社ニ對シテ隠蔽ヲ爲シタルナリ此隠蔽カ契約ノ效力ヲ左右スルタケ重要ナル事項ナルヤ否ヤハ別問題ナルモ保險事業ノ實際ヲモ知ラサル裁判官カ勝手ニ會社ノ之ヲ申込書中ニ要求スル趣意ヲ製造シテ「申込書ニ診察ヲ受ケシコトヲ記載スル所以ノ者ハ保險契約前ニ某醫ノ診察ヲ受ケ之ト共謀シ申込後其者ヲ指名シテ身軀ノ検査ヲ受ケ以テ保險會社ヲ誤ラシムルカ如キ弊ヲ恐ルレハナリ」ト云フカ如キ事實アリ得ヘカラサル愚ニモ付カサル妄想ヲ學校ノ講義然ト堂々ト吐露スルニ至リテハ噴飯ニ堪エサルナリ況ンヤ會社所定ノ申込書ニハ明ニ他會社ニテ診査ヲ受ケタリシヤ否ヤニ付テ問フ所アルニモ拘ハラヌ「申込書ノ要求スル所ニアラサルニ由ルト認定シ」タルノ不理ニ於テヲヤ

予輩ハ裁判官ノ無能ヲ叫ハサラント欲スト雖トモ能ハサルナリ

(十五) 上高金吾森田クマ對共濟生命保險合資會社事件(控訴)

判決要旨

甲 輕微ノ病症ハ保險契約ニ際シテ其申立ヲ爲サルモ契約ヲ無効トスルノ理由トナラス
乙 保險申込書中ニ會社保險申込ノ目的ニテ診察ヲ受ケタルコトノ有無ヲ記載セシムルハ單ニ保險者ノ參考トシテ事實調査ノ便宜上ヨリセシムルニ過キスシテ契約ノ效果ニ及ボスヘキ重要事項ニアラス

判決正本

東京市日本橋區小舟町三丁目九番地

控訴人 共濟生命保險合資會社

右法律上代理人

安田善四郎

右訴訟代理人辯護士

岸本辰雄
小出五郎

鳥取縣鳥取郡若櫻村四十五番地平民雜業

被控訴人 上島金吾

右同 森田クマ

右訴訟代理人辯護士

玉置侗一郎

右當事者間明治卅一年(第百九十一號)保險金請求控訴事件ニ付キ當院ハ判決スルノ如左

主 文

本件控訴ハ之ヲ棄却ス

訴訟費用ハ控訴人ノ負擔トス

事 實

控訴代理人ハ第一審判決全部ヲ廢棄シ被控訴人ノ請求相立タス訴訟費用ハ被控訴人ノ負擔トストノ判決ヲ求メ被控訴代理人ハ本件控訴ハ之レヲ棄却ス訴訟費用ハ控訴人ノ負擔トストノ判決ヲ求ムト申立テ控訴代理人カ證人田村昌太郎ノ證言ヲ採用スルノ外事實及證據ハ何レモ第一審判決中ノ記載ト同一ナルヲ以テ之ヲ引用ス

理 由

第一 控訴人ハ保險契約人森田爲吉ハ保險申込書中二個ノ既往病歴ヲ隱蔽シタリ即チ其一ハ明治廿七年一月中急性肺炎病ニ罹リ凡ソ半ヶ月餘ノ治療ヲ受ケタルヲ其二ハ明治廿九年六月上旬ヨリ「レブラ」少クトモ悪性皮膚病ニ罹リ凡ソ二ヶ月間治療ヲ受ケタル事實タルニ拘ハラヌ保險契約申込書ニ其事實ヲ申立テサリシニ依リ保險契約ハ無効ニ屬スヘキモノナリト云フニ在レテ證人吉田久治ノ證言ニ徴スルニ明治廿七年一月中爲吉宅ニ往診シタルヲナク爲吉ハ四五日前ヨリ熱發寒胃ノ模樣ナリト云ヒ相當ノ手當ヲ爲シタル末十二月ニテ全癒シタリ又明治廿九年六月中爲吉ハ證人宅ニ來リ「タムシ」様ノモノ發生シタリトテ診察ヲ乞ヒ能ク診ズルニ通常ノ「タムシ」トモ云ヘヌ大ニ疑ヲ懷キ

試験的ニ投藥シタルヲアリ若シ該病因果シテ「レブラ」ナリシトスレハ僅カニ三ヶ月後保險申込ノ當時控訴人モ身体検査ノ際之ヲ發見セサル謂レナケレハ其真正ノ「レブラ」ニ非サリシヲ推シテ知ルヘシ又前發ノ病症ハ僅カニ十二月ニシテ全癒シ其後三ヶ年ノ久シキ爲吉ニ於テハ毫モ身体ニ異常ヲ自覺シタルノ形跡ナケレハ頗ル輕微ノ病症ト謂ハサルヲ得ヌ元來生命保險契約申込書ニ記載スヘキ病歴トハ何等將來害ナキノ病症ヲモ包含スヘキモノニアラス將來少クトモ身体ノ健康ニ影響ヲ及ボスヘキ病症ナリト解釋スルヲ至當トス果シテ然ルハ爲吉ノ病狀ノ如キハ輕微無害ノモノニシテ其申立ヲナサハルモ敢テ契約ヲ無効トスルノ理由トナラス況ンヤ爲吉ニ於テ故ラニ之ヲ隱蔽シタリト認ムヘキ事實ノ見ルヘキナキニ於テヤ

第二 爲吉カ保險申込ニ際シ會テ大東生命保險會社ノ保險申込ヲナシタル事實アルニ拘ラス全ク之ヲ隱蔽シ其事實無之旨ヲ記載シタルハ保險契約ヲ無効ニ屬スヘキモノナリト云フニ在レテ元來生命保險契約書ニ會テ保險申込ノ目的ニテ診察ヲ受ケタルコト有無ヲ記載セシムルハ單ニ保險者ノ參考トシテ事實調査ノ便宜上之ヲ記載セシムルニ過キササルモノニシテ直接被保險者ニ對シ其効果ニ及ボスヘキ重要事項ニ非ス故ニ此記載ナキノ一事ヲ以テ保險契約ヲ無効トスルノ謂レナシトス

第三 爲吉ノ死亡ハ普通ノ病症ニアラスシテ自殺ニ原因シタルモノナリト云フニアレテ之ヲ乙號證ニ徴スルニ毫モ其形跡ヲ認ムルニ由ナシ

以上ノ理由ニ依リ控訴人ノ抗辯ハ一モ其理由ナキヲ以テ民事訴訟法第四百廿四條第七十二條ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス

明治三十二年三月二日

東京控訴院民事第一部

裁判長判事 齋谷維太郎 判事 柳原幾久若 判事 高橋文之助

判事 堀田馬三 判事 平島及平

右原本ニ依リ此正本ヲ作ルモノ也

附言

本判決ハ第一審ノ判決ニ比スレハ理義稍明白ナリ然レトモ被保險者ノ隠蔽シタル二箇ノ疾病カ果シテ裁判官ノ認定スル如ク輕微ナリシカ將又保險者カ申込書中ニ曾テ保險申込ノ爲ニ診察ヲ受ケタルコトノ有無ヲ記載セシムルハ裁判官ノ思惟スルカ如ク不重要な事項ナルカハ一考スヘキ問題ナリ前者ニ付テハ茲ニ批判ヲ被ムヲ得スト雖トモ後者ニ關シテハ一言ヲ費ササルヘカラス參考ノ爲又ハ事實調査ノ便宜上トハ何ノ參考ニ資シヌ如何ナル事實ヲ調査スル爲ナルヤト云フニ當該被保險者カ既ニ保險ヲ申込ミテ合格セルヤ又ハ謝絶セラレタリヤ又ハ長期ノ契約ヲ承諾セラレシヤ又ハ多額ノ保險金ヲ契約スルニ足ルヤ等ノ調査ノ索引ノ爲ニスルナリ而シテ此調査ノ目的ハ被保險者ノ身体ノ

保險上ノ價值ヲ定ムルニアリテ契約ノ諾否ニ重キ關係ヲ有スルモノタリ裁判官カ之ヲモ亦輕微ナリトスルハ根據ナキ妄說ナリ

(十六) 上島金吾森田クマ對共濟生命保險合資會社事件(上告)

判決正本

東京市日本橋區小舟町三丁目九番地

上告人 共濟生命保險合資會社

鳥取縣鳥取郡若櫻町四十五番地平民雜業

被上告人 上島金吾

右法律上代理人社長 安田善四郎
右訴訟代理人辯護士 太田資時

同 谷口クマ
右訴訟代理人辯護士 玉置侗一郎

右當事者間ノ保險金請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十二年二月二十二日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ被上告人ハ上告棄却ノ申立ヲ爲シタリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ差戻ス

理由

上告理由ノ第二ハ上告人カ第一審以來被上告人カ大東生命保險會社ト保險契約ヲ爲シ醫師ノ診察ヲ

受クシニ係ハラス保險申込書ニ之ヲ記載セス斯ル事實ノ隠蔽ハ保險契約ヲ無効ナラシメ上告人ニ保險金支拂ノ義務ナキコト双方ノ明約スル處ナリト主張シタルコトハ原院ノ引用セル第一審判決ノ事實表示ニ記載アリ又斯ル事實ノ隠蔽アレハ保險契約ノ無効ニ歸スルコトハ被上告人ニ於テモ敢テ争ハサル所ニシテ被上告人ハ單ニ事實ヲ隠蔽セスト云フコトヲ以テ上告人ノ此抗辯ニ對スル主張ト爲セリ即チ上告人ノ控訴答辯書ニハ「事實及證據方法ハ第一審ノ通」トアリ而シテ第一審明治三十年十月二十九日ノ辯論調書ニ曰ク「原告(被上告)代理人ハ申込書ニ不實ノ事實アランカ又ハ自殺ヲ爲シタル場合ニハ保險契約カ無効ニナルコトハ其ノ通ナリ」トアリテ上告人ノ主張ノ如ク事實ヲ隠蔽シテ保險申込書ニ記載セサルトキハ契約カ無効ニナルコトニ付テハ一致シテ争ハス而シテ被上告人ノ主張ハ原院ノ引用セル第一審判決事實ノ摘示ニ據レハ大東生命保險會社ト契約ヲ爲シタルコトアルモ此事實ヲ隠蔽セス上告人ノ遊説員ヲ經テ上告人ニ通知シタリト云フニアリ斯ノ如ク上告人及被上告人ノ間ニ於テハ大東生命保險會社ニ保險ヲ申込ミタル事實アル場合ニ此事實ヲ隠蔽スルトキハ保險契約ノ無効ニ歸スル點ニ於テ共ニ争ハサル處ナルニ拘ハラヌ原判決ハ「元來生命保險契約書ニ會テ保險申込ノ目的ニテ診察ヲ受ケタルコトノ有無ヲ記載セシムルハ單ニ保險者ノ參考トシテ事實調査ノ便宜上之ヲ記載セシムルニ過キサルモノニシテ直接被保險者ニ對シ其効果ヲ及ホスヘキ重要事項ニアラス故ニ此記載ナキノ一事ヲ以テ保險契約ヲ無効トスル謂ハレナント判示シタルハ明カニ

被上告人カ第一審ノ調書及判決ノ上ニ於テ上告人ノ主張ヲ甘諾シテ争ハサル事實ニ反シ恰カモ争ヒタルカノ如ク不當ニ事實ヲ確定シタル不法アルモノト信ス原院明治三十一年十月二十六日ノ調書ニ據レハ被上告人ハ「被控訴人(被上告人)ノ主張ハ契約締結ノ趣旨ニ反セス假リニ風邪ヤ田虫ヲ病ミタルコトヲ申サハリシトテ契約ハ無効トハ爲ラスト云フニアリ」ト主張スルニ止マリ大東生命保險會社ニ保險申込ヲ爲シタル事實ヲ隠蔽スレハ契約カ無効ニ歸ストノコトニ付テハ被上告人ハ其引用セル第一審調書及判決記載ノ事實ニ反スル申立ヲ爲シタルコトナシ由之觀之大東生命保險會社ニ關スル保險申込ノ事實ハ徹頭徹尾上告人ニ通知シタリト被上告人ノ主張ニシテ之ヲ隠蔽シタル場合ニ保險契約ノ無効ニ歸スルコトハ第一審調書ニ於ケル如ク敢テ争ハサルコトヲ知ルニ足ル斯ノ如ク當事者間ニ争ナキ事實ナルニ拘ハラヌ原判決カ争アルカノ如ク判示シタルハ民事訴訟法第二百三十條ヲ適用セサルノミナラス法則ニ違背シテ不當ニ事實ヲ確定シタル不法アリト云ヒ其四ハ被上告人ノ提出セル甲第一號證保險契約ノ條項ニ「左ノ場合ニ於テハ保險契約ハ無効ニ屬シ既ニ拂込マレタル保險料ハ第八項ノ解約ニ準シテ處分スヘシ」「一保險申込證書其他保險契約ノ爲ニ保險人若シクハ被保人ヨリ當會社ニ差出サレタル書類若シクハ陳述ニ詐僞又ハ隠蔽ノ廉アルカ若シクハ事實ニ相違ノ告示ヲセラレシトキ」トアリテ此甲第一號證ハ上告人モ亦之ヲ引用セリ故ニ乙第一號證ノ保險申込書ニ事實ニ相違スル記入ヲ爲スカ又ハ詐僞隠蔽ノ廉アレハ保險契約無効ニ歸スルコトハ本件當

事者ノ相一致シテ争ハサル處ナリ而シテ被保人爲吉カ會テ大東生命保險會社ト保險契約ヲ爲シ醫師ノ診斷ヲ受ケタル等ノ事實アルニモ拘ハラズ右乙第一號證ニハ「被保人ハ會テ其生命ヲ保險スル目的ヲ以テ醫師ノ診察ヲ受ケシコトナシ」トノ事實ニ相違スル告示ヲ爲シタルハ當事者間ニ争ナキ保險契約ノ真意明文ニ徴シ該契約ノ無効ニ屬スルコトハ必然ノ結果ナリ然ルニ原判決ハ此契約ノ真意明文ニ反對スル證據ノ一モ存在セサルニ拘ハラズ「元來生命保險契約書ニ會テ保險申込ノ目的ニテ診察ヲ受ケタルコトノ有無ヲ記載セシムルハ單ニ保險者ノ參考トシテ事實調査ノ便宜上之ヲ記載セシムルモノニシテ（中略）此記事ナキノ一事ヲ以テ保險契約ヲ無効トスルノ謂ハレナシ」ト判示セラレタルハ證據ニ基カスシテ契約ノ真意ニ反シ不當ニ事實ヲ確定シタル違法ノ裁判ナリト謂フニ在リ

案スルニ保險契約者又ハ被保險者契約ヲ爲スニ際シ或事實ニ關スル不實ノ告示ヲ爲シタル場合ニ於テ事實裁判所カ其事實ノ輕重ヲ較量シテ保險契約ノ効力如何ヲ判定スヘキハ保險契約當事者カ其事實ニ關スル不實ノ告示ヲ以テ契約無効ノ原因ト定メ其一條項ト爲サトリシ場合ナラサルヘカラス何トナレハ適法ナル契約ノ條項ハ其輕重如何ニ拘ハラズ當事者ヲ羈束スヘキモノニシテ事實裁判所カ其條項ノ重要ナラサルヲ理由トシ其條項ニ違反シテ契約ノ効力ヲ判定スルコトヲ得サルヤ勿論ナレハナリ然ルニ本件保險契約ヲ爲スニ際シ契約當事者ノ一方タル被保險者カ上告人ニ不實ノ告示ヲ爲

シタルカ故ニ甲第一號證ノ明文ニ依リ保險契約ノ無効ナル旨ノ上告人ノ抗辯ニ對シテ原院カ「元來生命保險契約書ニ會テ保險申込ノ目的ニテ診察ヲ受ケタルコトノ有無ヲ記載セシムルハ單ニ保險者ノ參考トシテ事實調査ノ便宜上之レヲ記載セシムルニ過キササルヲ以テ直接被保險者ニ對シ其効果ヲ及ホスヘキ重要事項ニ非ラス故ニ此記載ナキノ一事ヲ以テ保險契約ヲ無効トスルノ謂レナシ」ト判定シタルハ即チ當事者ヲ羈束スヘキ契約ノ條項ヲ無視シタルモノニシテ要スルニ原判決ハ法則ヲ不當ニ適用シ從ツテ破毀ヲ免カレサルモノトス既ニ原判決破毀ノ理由以上ノ如クナル上ハ他ノ上告理由ニ付キ逐一説明スル要ナシ

以上説明ノ如ク本件上告ハ民事訴訟法第四百四十七條第一項同第四百四十八條第一項ニ依リ主文ノ如ク判決ス

明治三十二年九月廿五日

大審院第一民事部

裁判長判事男爵 南部 豊男 判事 井上 正一 判事 岡村 爲藏

判事 今村 信行 判事 本多 康直 判事 和田 收藏

判事 吉田 鍛

(十七) 上島金吉森田タマ對共濟生命保險株式會社事件(再控訴)

判決要旨

甲 輕微ナル病症ノ不陳ハ契約無効ノ原因トナラス
乙 他會社ニ於テ診察ヲ受ケタルコトヲ告知セサルコトハ保險契約ニ影響ヲ及ホスヘキ重要ノ事項ニアラス

判決正本

東京市日本橋區小舟町三丁目九番地
控訴人 共濟生命保險株式會社
同市同區小網町四丁目八番地
右會社取締役 安田善四郎
右法定代理人
島取縣島取郡若櫻村四十五番地平民雜業
被控訴人 上島金吉
同縣氣高郡美穗村大字上味野四十一番地平民雜業
被控訴人 森田クマ

右當事者間ノ明治三十二年(子)第三百十二號保險金請求控訴事件ニ付當院ハ大審院ノ返戻ニ因リ更ニ辯論ヲ經テ判決スルコト左ノ如シ

主 文

本件控訴ハ之ヲ棄却ス

訴訟費用ハ控訴上告共ニ總テ控訴人ノ負擔トス

事 實

控訴代理人太田資時一定ノ申立ハ第一審判決ヲ廢棄ス被控訴人ノ請求相立タス訴訟費用ハ被控

訴人ノ負擔トストノ判決ヲ求ムト云フニアリテ被控訴代理人玉置備一郎一定ノ申立ハ本件控訴ヲ棄却シ訴訟費用ハ控訴人ノ負擔トストノ判決ヲ求ムルト云フニアリ

被控訴代理人事實上ノ供述ハ被控訴人上島金吉ノ兄ニシテ被控訴人森田クマノ夫タル森田爲吉ナル者ハ明治二十九年九月二十二日控訴會社ト尋常終身生命保險契約ヲ結ビタリ其趣旨ハ爲吉死亡セハ控訴會社ヨリ被控訴人各自ヘ保險金千圓ヅ、ヲ支拂フベシトノコトニ爾來爲吉ハ契約ニ從ヒ保險料ヲ納付シ來リシガ明治二十九年十一月十一日午後五時被保人爲吉ハ急性汎發腹膜炎ニ罹リ翌日午前三時遂ニ心臟麻痺ヲ起シテ死去シタリ依テ被控訴人兩名ハ各金千圓ヅ、ノ保險金ヲ控訴會社ニ請求スト云フニアリテ甲第一、二、五號證ヲ提出シ第一審ノ證人吉田久治ノ證言ヲ援用セリ而テ控訴代理人ノ抗辯ニ對シ更ニ左ノ如ク陳述シタリ

保險契約書ノ條項中ニ保險申込書ノ記載又ハ其他ノ陳述ニ虛偽又ハ隱蔽ノ事實アル時ハ保險契約無効タルベキ旨記載アレドモ保險申込書ニ記載セル事實ハ如何ナル輕微末少ノモノニテモ皆前記ノ如クナリトノ趣旨ニアラスシテ保險契約ニ重要ナル事實ニシテ申込人カ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ隱蔽ヲ爲シタル場合ハ保險契約ヲ無効ナラシムヘキ意義ニテ結約シタル次第ナリ而シテ被保人ハ明治二十七年六月中風邪ニ罹リ數日間服藥シタルコトアルモ急性肺炎ニ罹リタルコトナク明治二十九年六月中頑癰ニ罹リタルコトアルモ癩病ニ罹リタルコトナシ且ツ爲吉カ控訴會社ト保險契約ヲ締結スル前

既ニ大東生命保險會社ト生命保險ノ契約ヲ爲シタルコトハ事實ナレトモ此ノ如キコトハ本件保險申込書ニ記載スルヲ要セス蓋シ本件保險申込書ノ所謂被保人ハ會テ其生命ヲ保險スル目的ヲ以テ醫師ノ診察ヲ受ケシコトナシトノ條項ハ會テ控訴會社ト保險契約ヲ爲スノ目的ヲ以テ醫師ノ診察ヲ受ケタルコトノ有無ヲ記載スヘキ意義ナリト解釋スヘキモノナレハナリト主張シタリ

控訴代理人事實上ノ供述ハ第一審判文ニ掲載スル所ト同一ナルヲ以テ之ヲ引用ス而シテ第一號乃至六號證ヲ提出シ且ツ甲第一號及ヒ證人吉田久治加賀常源岡村彌吉郎田村昌太郎ノ訊問調書並ニ明治三十年十月二十九日本件第一審口頭辯論調書第八項ノ記載明治三十一年十月二十六日本件第二審口頭辯論調書第五項ノ記載ヲ援用セリ

理 由

本件保險契約ノ存在並ニ被保人ノ死去セシコトハ當事者間ニ爭ナキ所ナリ而シテ控訴代理人ハ被保人カ死去ハ自殺ニ原因セリト抗辯スルヲ以テ先此點ヲ審按スルニ成立ニ爭ナキ甲第二號證ハ主治醫小野清ノ作製セル死亡證書ニシテ同證ニ依ルトキハ被保人爲吉カ明治二十九年十一月十一日急性汎發腹膜炎ニ罹リ翌十二日午前三時遂ニ心臟痙攣ヲ起シ之カ爲メ死去シタルモノト認定スルヲ相當トス控訴代理人カ被保人ノ死去ハ自殺ナリト主張スル證據ハ乙二號五號六號及證人加賀常源岡村彌吉郎田村昌太郎ノ訊問調書ナレトモ乙第二號證ハ大東生命保險會社員田村昌太郎ノ書翰ニシテ文中

「爲吉ノ死亡ニ付テハ病死ト信スル能ハス云々」トアルモ右ハ單ニ同人ノ推測ニ止マリ之ヲ以テ爲吉自殺ノ證據ト爲スニ足ラス乙第五號證ハ因伯時報ト題スル新聞紙ニシテ其記載ニ依ルトキハ爲吉カ自己ノ死期ヲ豫知セシカ如キモ新聞紙記載ノ事實ハ正確ナラサルコト多キノミナラス假令ヒ森田爲吉カ幾分カ奇異ノ人物ナリトスルモ之ヲ以テ其死去カ自殺ニ原因セシモノト認ムルコトヲ得ス乙六號證ハ岡村彌吉郎ト控訴會社事務員トノ問答書ニシテ之ニ依ルモ岡村カ爲吉死去ノ際其遺言書ヲ見タリト云フニ過キス而シテ遺言書ノ作製アル一事ハ被保人ノ自殺ニ何等ノ影響ナキモノナルヲ以テ同證ハ自殺ノ證據トシテハ何等ノ價值ナキモノトス又證人加賀常源岡村彌吉郎ノ訊問調書ニ依ルモ毫モ爲吉カ自殺シタリトノ疑ヲモ惹起サシムルニ足ラス獨リ田村昌太郎ノ訊問調書ニハ醫師西尾榮次郎ナルモノヨリ傳聞セル事實ヲ陳述シアリテ爲吉ノ病症或ハ中毒ニ非サルヤノ疑アルカ如ク記載シアルモ所謂傳聞ニ過キササルノミナラス其記載精密ナラサルヲ以テ果シテ中毒ナリヤ否及ヒ如何ナル性質ノ中毒ナリヤ又其行爲カ自己ヨリ出タリヤ否等頗ル明確ナラサルカ故ニ到底同證ニ依リテハ爲吉ノ死去ヲ自殺ニ原因セルモノト認ムルコトヲ得サルナリ

控訴代理人カ又爲吉カ病歴ヲ隱蔽セリト抗辯スルヲ以テ此點ヲ審按スルニ双方代理人ノ援用スル醫師吉田久治ノ證人訊問調書ニヨレハ明治二十七年一月中爲吉カ急性肺炎ニ罹リタルハ事實ナリト認ム然レトモ醫師カ爲吉宅ニ臨ミシトキ爲吉ハ四五日前ヨリ發熱シ風ヲ引ヒタ様ナリトテ休ミ居リシ

トノコトナレハ爲吉カ風邪ナリト信シ居リタルハ亦疑ナキ所ナリ而シテ醫師ヨリ爲吉ニ其病症ヲ告知セシヤ否ハ醫師ニ於テ記憶セスト陳述シ居ルヲ以テ其點ハ明瞭ナラサレトモ醫師カ病症ヲ病者ニ告知セサルコトハ住々ニシテ之アルノミナラス幸ニシテ此病症ハ僅々十數日ニシテ全然快癒シタルニ付爲吉ハ結局風邪ト信シ居リタルヤモ計ラレス又明治二十九年六月中爲吉カ一種ノ皮膚病ニ罹リタルハ事實ナレトモ右病症カ癩病ナリシヤ否ハ醫師モ尙斷定スルコトヲ得サリシノミナラス爲吉自身カ頑癬ナリト信シ居リタリシコトハ證人吉田久治ノ訊問調書ニ依リ明白ニシテ且ツ一ヶ月程ニテ全治シタルヲ以テ結局爲吉ハ何レモ輕微ノ病症ナリト信シタルモノナルヘシ而シテ輕微ナル病症ノ如キハ一々之ヲ告示セサルヘカラサルモノニ非サルカ故ニ爲吉カ之ヲ保險申込書ニ記載セサリシモ爲メニ控訴會社ニ對シ病歴ヲ隱蔽シタルモノト云フコトヲ得ス控訴代理人ハ乙第二、三、四號證ニヨリ爲吉カ病歴ヲ隱蔽セルコトヲ立證スル旨陳述スレドモ乙第二、三號證ハ爲吉ト大東生命保險會社トノ關係ヲ記載スルニ止マルガ故ニ假令ヒ爲吉ガ同會社ニ對シ病歴ヲ隱蔽シタルコトアリトスルモ之ヲ以テ直ニ控訴會社ニ對シテモ亦病歴ヲ隱蔽シタルモノト推測スルコトヲ得ス又乙第四號證ハ爲吉ノ父ノ作製セル書面ニシテ之ニ依ルトキハ爲吉ガ明治廿七年一月中急性肺炎ニ罹リタルトキ並ニ明治二十九年六月頃一ヶ月程ニテ全治シタル疾病ニ罹リタル事實ヲ認メ得ヘキモ前段説明ノ如ク爲吉自身カ輕微ナラサル疾病ト思料シタル證據ナキヲ以テ爲吉ガ故ヲニ此等ノ病歴ヲ控訴會社ニ對シ

隱蔽シタルモノト云フコトヲ得ス

控訴代理人ハ爲吉ガ大東生命保險會社ト保險契約ヲ爲シ醫師ノ診察ヲ受ケナガラ控訴會社ニ對シテハ會社生命ヲ保險スル目的ヲ以テ醫師ノ診察ヲ受ケシコトナシト保險申込書ニ記載セリ而シテ保險申込書ニ虛偽又ハ隱蔽ノ廉アレバ保險契約ヲ無効ナラシムベキハ甲第一號證タル保險申込書ニヨリテ明カナリト陳述スルヨリ此點ヲ審按スルニ爲吉ガ會社大東生命保險會社ト保險契約ヲ爲シ醫師ノ診察ヲ受ケタル事實並ニ保險申込書ニ生命ヲ保險スル目的ヲ以テ醫師ノ診察ヲ受ケタルコトナシト記載セル事實ハ被控訴代理人ノ爭ハサル處ナリ而シテ被控訴代理人ハ右保險申込書ノ所謂醫師ノ診察トハ控訴會社ト生命保險契約スルノ目的ヲ以テ爲シタル醫師ノ診察ナリト主張スレトモ右文詞ハ被控訴代理人ノ主張ノ如ク解釋スルヲ得ザルヲ以テ此點ニ付テハ爲吉カ保險申込書ニ記載スベキ事實ヲ告知セザリシ者ト認定ス然リ而シテ控訴代理人ノ援用ニ係ル甲第一號證保險契約ノ條項第一ニハ保險申込書ニ詐僞又ハ隱蔽ノ廉アルトキ若クハ事實ニ相違ノ告示ヲ爲セシトキハ保險契約無効ニ屬スヘキ旨記載アリテ被控訴代理人ハ右契約ハ保險申込書ニ記載ノ事項ハ大小輕重ノ區別ナク其ノ事實ニ相違アルトキハ契約ヲ無効ナラシムヘシトノ趣旨ニアラスシテ保險契約ニ重要ナル事項ノ告示ニ事實相違アルトキノミ契約ヲ無効ナラシムベキ趣旨ナリト主張シ控訴代理人ハ右契約ハ保險申込書ニ記載ノ事項ハ大小輕重ノ別ナク悉ク眞心ナラザルベカラズ若シ些少相違アルモ保險契約ヲ

無効ナラシムベキ趣旨ニシテ一種ノ特約ナリ加之被控訴代理人モ既ニ斯ル特約ナルコトハ第一審ニ於テ認メタル所ナリト答辯シ第一審ノ口頭辯論ヲ援用シタリ依テ明治三十年十月廿九日本件第一審口頭辯論調書ヲ査閱スルニ「原告代理人ハ申込書ニ不實ノ事實カ有ンカ又ハ自殺ヲ爲シタル場合ニハ保險契約カ無効ニ爲ルコトハ其通リト云ヒタリ」トノ一項記載アリテ被控訴代理人ハ右ハ敢テ控訴代理人陳述ノ如ク如何ナル些少ノ事ニテモ不實ノ告示アレハ契約無効ニ歸スヘシトノ趣旨ニテ述ヘタルモノニアラスト辯解セリ當院ハ右調書ハ保險申込書ノ不實ノ記載アレハ契約無効トナルヘシトノ被控訴代理人ノ陳述ト認メ保險申込書ニ不實ノ記載アルトキハ其事項ノ大小輕重ヲ論セス總テ無効トナルヘシトノコトヲ被控訴代理人ニ於テ認メタル陳述ト認定セス故ニ結局本件ノ争點トスル所ハ前記契約ノ解釋如何ニ歸着スヘシ而シテ本件契約ノ當時ニアリテハ現行商法ハ勿論舊商法モ未タ行ハレツリシ時ナリシト雖トモ保險契約ノ性質上ヨリ論スルトキハ保險契約ナルモノハ保險者ニ對シ契約者ヨリ保險契約ノ内容ニ影響ヲ及ボスヘキ重要ナル事項ヲ正實ニ告示スヘキハ當然ノ事ナレトモ其保險契約ニ影響ヲ及ボササルヘキ事項ニ付テハ假令些少ノ隱蔽若クハ事實相違アルモ爲メニ其契約ノ效力ヲ害スルコトナカルヘキヲ本則トス但シ事項ノ重要ナルト否トニ關セス苟モ些少ノ事實相違アルトキハ其契約ヲ無効トスヘキ旨特約スルトキハ契約者ハ其特約ニ羈束セラルヘシ然レトモ此ノ如キ特約ハ極メテ異例ニ屬スルヲ以テ本件ノ如キ他ニ特殊ノ事情ナキモノハ之ヲ通常保險

ノ法理ニ基ケル契約趣旨ナリト解釋スルヲ相當ナリト認ム蓋シ若シ本件契約ノ趣旨カ控訴代理人主張ノ如ク事項ノ輕重大小ヲ論セス苟モ事實相違ノ記載アルトキハ該契約無効ニ歸スルモノトセハ例ヘハ保險申込書ニ記載スヘキ被保人ノ住所ニ些少ノ事實相違セル記載アルモ其保險契約ノ事實ニ何等ノ影響ヲ及ボササルニ拘ハラヌ該契約無効トナルノ不幸ヲ來スヘク而シテ此ノ如キハ通常契約者ノ期セサル所ナルヘキヲ以テ本件契約者モ亦通常ノ意思ヲ以テ締結シタルモノト認ムヘケレハナリ本件契約ニシテ既ニ此ノ如ク解釋スヘキモノナル以上ハ爲吉ノ告知セザリシ事項ハ保險契約ニ重要ナルモノナリヤ否ヲ審査セサルヘカラス抑モ生命保險契約申込書ニ被保人ヲシテ曾テ生命ヲ保險スル目的ヲ以テ醫師ノ診察ヲ受ケタルコトノ有無ヲ記載セシムルハ單ニ保險者カ事實調査ノ參考ニ資スルニ過キスシテ調査周到ナル保險者ニアリテハ素ヨリ此ノ如キ事項ノ記載ヲ保險契約者ニ求ムルノ必要ナキモノナレバ此事項ハ保險契約ニ影響ヲ及ボスベキ重要ノモノニ非ラヌト認定ス果シテ此ノ如クナル以上ハ爲吉ガ締結ノ際前記ノ事項ヲ告知セザリシ一事ヲ以テ保險契約ヲ無効ナラシムヘキモノニ非ス又前段ノ説明ニ示スガ如ク輕微ナル疾病ハ一々之ヲ會社ニ告知セサルモ保險契約ヲ無効ナラシムベキモノニ非ザルガ故ニ被控訴人ノ本件保險金請求ハ相當ニシテ本件控訴ハ其理由ナキモノトス

以上ノ理由ナルニ依リ民事訴訟法第四百廿四條第七十七條第七十八條第一項ニ依リ主文ノ如ク判決

スルモノ也

明治三十三年七月九日

東京控訴院民事第一部

裁判長判事 富谷銚太郎 判事 高橋文之助 判事 鈴木喜三郎
判事 堀田馬三 判事 平島及平

附言

本件控訴判決ハ裁判官ガ申込書ニ記載スベキ事項ニ關シ毫モ當事者間ノ契約條項ヲ顧ルコト無ク隨意ノ斷案ヲ下シタル廉ヲ以テ大審院ニ於テ破毀セラレ控訴院ニ差戻サレタルナリ而シテ再控訴判決ニ於テハ更ニ前判決ノ論旨ヲ敷衍シテ保險者ガ保險申込書ニ被保險者ヲシテ曾テ生命ヲ保險スル目的ヲ以テ醫師ノ診察ヲ受ケタルコトノ有無ヲ記載セシムルハ單ニ保險者ガ事項調査ノ參考ニ資スルニ過ギズシテ調査周到ナル保險者ニアリテハ素ヨリ此ノ如キ事項ノ記載ヲ保險契約者ニ求ムル必要ナキモノナレバ此事項ハ保險契約ニ影響ヲ及ボスヘキ重要ノモノニ非ラストノ無意味ナル大誤解ニ陥リタリ

該事項ハ裁判官ノ認定スル如ク保險者ヲシテ被保險者ノ身軀ニ關スル事實調査ノ參考ニ資セシムルモノナリ例ヘバ保險者ガ自己ノ行ヒタル調査ノミニテハ契約ヲ決定スルニ不安ナル場合ニハ他會社ニ照會シテ其申込書又ハ診査報狀ノ寫ヲ求メ之ヲ俟テ始メテ契約ヲ締結シ又ハ保險料ノ増加ヲ請求シ或ハ保險金ノ減額ヲ談示シ或ハ斷然契約ヲ謝絶スルコトアルナリ事實調査ト言ヘハ是等ノ爲ニスル外想像スルコトヲ得ザルニアラスヤ然ラバ即チ該事項ハ保險者ヲシテ契約ノ諾否ヲ定メシムルニ有力ナル材料ニシテ裁判官ガ之ヲ重要ナル事項ニアラスト言フハ保險契約ノ何物タルヲ辨ヘザル前後矛盾ノ認定ナリ特ニ調査周到ナル保險者ニアリテハ素ヨリ此ノ如キ事項ノ記載ヲ保險契約者ニ求ムル必要ナシト云フハ無識ノ甚シキモノト評セザルヘカラズ何トナレハ契約ヲ慎重ニシテ調査ヲ周到ニスル保險者程此事項ニ關スル調査ヲ綿密ニシテ從テ之ガ記載ヲ要求スルコト多キ理ナレハナリ如何ニ事業ノ整頓シタル會社ト雖モ申込タル被保險者ノ陳述ヲ須ヒスシテ彼ガ何會社ト如何ナル契約ヲ結ヒ居ルヤト云フコトヲ知り得ルノ道理アラシヤ裁判官ハ或ハ調査ト云フコトヲ身軀診査ノコト、思惟スルナランカ果シテ然ラバ今日ノ醫學ハ被保險者ノ陳述ナクシテ如何ニ隱蔽セル病源モ悉ク暴露セシムルニ足ルマデ進歩セザルノミナラズ患者カ悉ク其病歴自覺等ヲ訴フル普通診斷ノ場合ニ於テスラ多クノ誤診アルコトヲ知ラザルヘカラザルナリ多クノ裁判官カ保險者カ醫師ヲシテ被保險者ノ身軀ヲ檢査セシメタル以上ハ盡ク其健康ニ通曉シタルモノト假定スルハ誤解ノ甚シキモノニシテ何ノ爲ニ法律ガ陳示ノ義務ヲ保險契約者及被保險者ニ要求スルヲ忘レタル論斷ナリ將又本判決ノ末尾ニ於テ保險者ガ申込書上ニ記載シタル事項ハ大小輕重ノ區別ナク事實ノ相違ヲ以テ契約ヲ無効ナ

ラシムルモノナリトノ極端ナル主張ニ對シ裁判官カ住所ノ誤記ヲ引例シテ之ヲ反駁シタルガ如キハ
共ニ兒戲ニ類シタル議論ニシテ堂々タル文明國ノ上級裁判所ノ判決ニ於テ予輩ノ見ルコトヲ好マザ
ルノ文字ナリ本訴ノ争點タル事項ノ記載ト住所ノ記載トヲ同一視スルガ如キハ所謂大小輕重ヲ辨ヘ
ザル議論ナリトス

(十八) 上島金吉森田クマ對共濟生命保險株式會社事件(再上告)

判決正本

東京市日本橋區小舟町三丁目九番地

上告人 共濟生命保險株式會社

鳥取縣鳥取郡若櫻村四十五番地平民

被告上告人 上島金吉

右法律上代理人會社取締役社長

鳥取縣氣高郡美穗村大字上味野四十一番地平民雜業

右訴訟代理人辯護士 安田善四郎 太田資時

全谷口クマ

右當事者間ノ保險金請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十三年七月九日言渡シタル判決ニ對シ上告代
理人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ棄却ス

理由

上告趣旨第一ハ原判決ハ法則ヲ不當ニ適用シ且ツ民事訴訟法第四百五十條ニ違背シタル違法ノ判決
ナリ上告人ハ第一審以來訴外被保人爲吉カ大東生命保險會社ト保險契約ヲ爲シ醫師ノ診察ヲ受ケシ
ニ拘ラス保險申込書ニ之ヲ記載セス斯ル事實ノ隱蔽ハ保險契約ヲ無効ナラシメ上告人ハ保險金支拂
ノ義務ナキコト双方ノ明約スル所ナリト主張シタルコトハ原院ノ引用セル第一審判決事實表示ニ記
載アリ又斯ル事實ノ隱蔽アレハ保險契約ノ無効ニ歸スルコトハ被告上告人ニ於テモ敢テ争ハサル所ニ
シテ被告上告人ハ單ニ事實ヲ隱蔽セスト云コトヲ以テ上告人ノ此抗辯ニ對スル主張ト爲セリ即チ被告
告人ノ控訴答辯書ニハ「事實及證據方法ハ第一審ノ通り」トアリ而シテ第一審明治三十年十月二十九
日ノ辯論調書ニ曰ク「原告(被告上告人)代理人ハ申込書ニ不實ノ事實アランカ又自殺ヲ爲シタル場合
ニハ被保險契約カ無効ナルコトハ其通ナリ」トアリテ上告人主張ノ如ク事實ヲ隱蔽シテ保險申込書
ニ記載セサル時ハ契約カ無効ニナルヲ付テハ一致シテ争ハヌ又被告上告人ノ主張ハ其控訴答辯書ヲ
引用スル旨ノ記載アル第一審判決ノ事實ニ據レハ大東生命保險會社ト契約ヲ爲シタルコトアルモ此
事實ヲ隱蔽セス上告人ノ遊説員ヲ經テ上告人ニ通知シタリト云フニアリ又被告上告人ノ提出シタル甲
第一號證保險契約書ノ條項ニ「左ノ場合ニ於テハ保險契約ハ無効ニ屬シ既ニ拂込マレタル保險料ハ
第八項ノ解約ニ準シテ處分スヘシ」「一保險申込書其他保險契約ノ爲メ保險人若クハ被保險人ヨリ

當會社へ差出サレタル書類若クハ事實ニ相違ノ告示ヲセラレシトキ」トアリテ此甲第一號證ハ上告人モ亦是レヲ引用セリ要スルニ乙第一號證ノ保險申込書ニ事實ニ相違スル記入ヲ爲スカ又ハ詐偽隠蔽ノ廉アレハ保險契約ノ無効ニ歸スルコトハ本件當事者ノ相一致シテ爭ハサル處ナリ而シテ被保人爲吉カ曾テ大東生命保險會社ト保險契約ヲ爲シ醫師ノ診察ヲ受ケタル等ノ事實アルニ拘ラス右乙第一號證ニハ「被保人ハ曾テ其生命ヲ保險スル目的ヲ以テ醫師ノ診察ヲ受ケタルコトナシ」トノ事實ニ相違スル告示ヲ爲シタルハ被上告人ノ認ムル處ナレハ甲第一號證保險契約ノ明文ニ照ラシ該契約ノ無効ニ屬スルコトハ必然ノ結果ナリ然ルニ原院ハ曩キニ此甲第一號證即チ當事者ヲ羈束スヘキ契約條項ヲ無視シ保險契約ニ關スル法則ヲ不當ニ適用シタルヲ以テ明治三十一年九月十四日御院ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ保險契約ヲ爲スニ際シ或ル事實ニ關スル不實ノ告示ヲ爲シタル場合ニ於テ事實裁判所カ其事實ノ輕重ヲ較量シ保險契約ノ效力如何ヲ判定スヘキハ保險契約當事者カ其實ニ關スル不實ノ告示ヲ以テ契約無効ノ原因トシテ其一條項ト爲サ、リシ場合ナラサルヘカラス何トナレハ適法ナル契約ノ條項ハ其輕重如何ニ拘ラス當事者ヲ羈束スヘキモノニシテ事實裁判所カ其條項ノ重要ナラサルヲ理由トシ其條項ニ違反シテ契約ノ效力ヲ判定スルコトヲ得サルヤ勿論ナレハナリ然ルニ本件保險契約ヲ爲スニ際シ契約當事者ノ一方タル被保險者ヲ上告人ニ不實ノ告示ヲ爲シタルカ故ニ甲第一號證ノ明文ニヨリ保險契約ノ無効ナル旨ノ上告人ノ抗辯ニ對シテ原院カ「元來生

命保險申込書ニ曾テ保險契約ノ目的ヲ以テ診察ヲ受ケタルコトノ有無ヲ記載セシムルハ單ニ保險者ノ參考トシテ事實調査ノ便宜上之ヲ記載セシムルニ過キサルヲ以テ直接被保險者ニ對シ其結果ヲ及ホスヘキ重要事項ニアラス故ニ此記載ナキ一事ヲ以テ保險契約ヲ無効ナラシムル謂ハレナシ」ト判決シタルハ即チ當事者ヲ羈束スヘキ契約ノ條項ヲ無視シタルモノニシテ要スルニ原判決ハ法則ヲ不當ニ適用シ從テ破毀ヲ免レサルモノトストノ理由ヲ以テ原判決ヲ破毀セラレ更ニ本件ヲ原院へ差戻サレタルニモ拘ハラヌ原院ニ於テハ御院ノ右法律ニ係ル判斷ヲ輕ンシ再ヒ前回ノ判決ト同一ノ理由ヲ以テ「控訴代理人ノ援用ニ係ル甲第一號證保險契約ノ條項第一ニハ保險申込書ニ詐偽又ハ隱蔽ノ廉アルトキ若クハ事實ニ相違ノ告示ヲ爲セシトキハ保險契約無効ニ屬スヘキ旨ノ記載アリテ被控訴代理人ハ右契約ハ保險申込書ニ記載ノ事項ハ大小輕重ノ區別ナク事實ニ相違アルトキハ契約ヲ無効ナラシムヘシトノ趣旨ニアラシステ保險契約ニ重要ナル事項ノ告示ニ事實相違アルトキノミ契約ヲ無効ナラシムヘキ趣旨ナリト主張シ控訴代理人ハ右契約ハ保險申込書ニ記載ノ事項ハ大小輕重ノ別ナク悉ク真正ナラサルヘカラス若シ些少ノ相違アルモ保險契約ヲ以テ無効ナラシムヘキ趣旨ニシテ一種ノ特約ナリ加之被控訴代理人モ既ニ斯ル趣旨ノ特約ナルヲハ第一審ニ於テ認メタル所ナリト答辯シ第一審ノ口頭辯論調書ヲ援用シタリ依テ明治三十年十月二十九日本件第一審口頭辯論調書ヲ查カ無ルニ「原告代理人ハ申込書ニ不實ノ事項カ有ランカ又ハ自殺ヲ爲シタル場合ニハ保險契約閱ス

效ニナルヲハ其通ト云ヒタリ」トノ一項記載アリテ被控訴代理人ハ右ハ敢テ控訴代理人陳述ノ如ク如何ナル些少ノ事ニテモ不實ノ告示アレハ契約無効ニ歸スヘシトノ趣旨ニテ述ヘタルモノニアラスト辯解セリ當院ハ右調書ハ保險申込書ニ不實ノ記載アレハ契約無効トナルヘシトノ被控訴代理人ノ陳述ト認メ保險申込書ニ不實ノ記載アルトキハ其事項ノ大小輕重ヲ論セス總テ無効トナルヘシトノコトヲ被控訴代理人ニ於テ認メタル陳述ト認定セス故ニ結局本件ノ爭點トスル處ハ前記契約ノ解釋如何ニ歸着スヘシ而シテ本件契約ノ當時ニアリテハ現行商法ハ勿論舊商法モ未タ行ハレサリシ時ナリシト雖モ保險契約ノ性質上ヨリ論スルトキハ保險契約ナルモノハ保險者ニ對シ契約者ヨリ保險契約ノ内容ニ影響ヲ及ホスヘキ重要ナル事項ヲ誠實ニ告示スヘキハ當然ノコトナレトモ其保險契約ニ影響ヲ及ホササルヘキ事項ニ付テハ假令些少ノ隱蔽若クハ事實相違アルモ爲ニ其契約ノ效力ヲ害スルコトナカルヘキヲ本則トス但シ其事項重要ナルト否トニ關セス苟モ些少ノ事實相違アルトキハ其契約ヲ無効トスヘキ旨特約スルトキハ契約者ハ其特約ニ羈束セラルヘシ然レトモ此ノ如キ特約ハ極メテ異例ニ屬スルヲ以テ本件ノ如キ他ニ特殊ノ事情ナキモノハ之ヲ通常保險法理ニ基ケル契約趣旨ナリト解釋スルコト相當ナリト認ム蓋シ若シ本件契約ノ趣旨カ控訴代理人主張ノ如ク事項ノ輕重大小ヲ論セス苟モ事實相違ノ記載アリタルトキハ該契約無効ニ歸スルモノナリトセハ例ヘハ保險申込書ニ記載スヘキ被保人ノ住所ニ些少ノ事實相違セル記載アルモ其保險契約ノ實質ニ何等ノ影響ヲ及

ホササルニ拘ラス該契約無効トスルノ不幸ヲ來スヘク而シテ此ノ如キハ通常契約者ノ期セサル所ナルヘキヲ以テ本件契約者モ亦通常ノ意思ヲ以テ契約シタルモノト認ムヘケレハナリ本件契約ニシテ既ニ此ノ如ク解釋スヘキモノナル以上ハ爲吉ノ告知セサリシ事項ハ保險契約ニ重要ナルモノナリヤ否ヲ審査セサルヘカラス抑モ生命保險契約書ニ被保人ヲシテ曾テ生命ヲ保險スル目的ヲ以テ醫師ノ診察ヲ受ケタルコトノ有無ヲ記載セシムルハ單ニ保險者カ事實調査ノ參考ニ資スルニ過キスシテ調査周到ナル保險者ニアリテハ素ヨリ此ノ如キ事項記載ヲ保險契約書ニ求ムルノ必要ナキモノナレハ此事項ハ保險契約ニ影響ヲ及ホスヘキ重要ノモノニアラスト認定ス果シテ此如ナル以上ハ爲吉カ契約ノ際前記ノ事實ヲ告知セサリシ一事ヲ以テ保險契約ヲ無効ナラシムヘキモノニアラス又前記說示ノ如ク輕微ナル疾病ハ一々之ヲ會社ニ告知セサルニ保險契約ヲ無効ナラシムヘキモノニ非サルカ故ニ被控訴人ハ本件保險金請求ハ相當ニシテ本件控訴ハ其理由ナキモノトスト判示シタルハ當事者ヲ羈束スヘキ契約ノ條項ヲ無視シテ保險契約ニ關スル法則ヲ不當ニ適用シ且ツ民事訴訟法第四百五十條ニ違背シタルモノニシテ違法ノ判決ナリト云ヒ又本補充ノ趣旨ハ「保險契約者又ハ被保險者カ保險契約ヲ爲スニ際シ或ル事實ニ關スル不實ノ告示ヲ爲シタル場合ニ於テ事實裁判所カ其事實ノ輕重ヲ較量シテ保險契約ノ效力如何ヲ判定スヘキハ保險契約當事者カ其事實ニ關スル不實ノ告示ヲ以テ契約無効ノ原因ト定メ其一條項ト爲ササリシ場合ナラサルヘカラス何トナレハ適法ナル契約ノ條項

ハ其輕重如何ニ拘ラス當事者ヲ羈束スヘキモノニシテ事實裁判所カ其條項ノ重要ナラサルヲ理由トシ其條項ニ違反シテ契約ノ效力ヲ判定スルコトヲ得サルヤ勿論ナレハナリ」トノ判旨ハ御院ニ於テ曩キニ本件ニ關シテ與ヘラレタル判決ナリ然ルニ原判決カ言フ保險ノ法理ニ藉リテ強テ御院ノ判旨ニ反對シ事實裁判所ハ契約條項ノ重要ナラサルヲ理由トシ其條項ニ違反シテ契約ノ效力ヲ判定スルコトヲ得ルモノト判示シタルハ民事訴訟法第四百五十條ニ違背スル不法アリト云フニ在リ案スルニ保險契約ヲ爲スニ際シ被保險者カ保險者ニ申告シタル事項眞實ナラサルモ其重要ナラサルニ因リ通例契約無効ノ原因トナラサルモノト雖モ若シ當事者ニ於テ特ニ反對ノ意思表示ヲ爲シタル場合ニ於テハ當事者ハ之ニ羈束セラルヘキコト固ヨリ論ヲ俟タス曩日本院カ本件ニ關シテ爲シタル判決ノ要旨ハ原院ハ此義ヲ申明シタルニ外ナラス故ニ原院ノ專權ニ屬スル契約ノ解釋ニ付テハ本院ノ判決ヲ以テ羈束スヘキ限ニ在ラサルノミナラス之ヲ羈束スル判旨ニ非サリシコトハ復言ヲ待タスシテ明カナリ今原判決ヲ閱スルニ「其事項ノ重要ナルト否トニ關セス苟モ些少ノ事實相違アルトキハ其契約ヲ無効トスヘキ旨特約スルトキハ結約者ハ其特約ニ羈束セラルヘシ云々」ト判示シ即チ本院判決ノ旨趣ト毫モ抵觸シタル所ナシ然リ而シテ原院ハ更ニ契約ノ内容ヲ解釋シテ甲第一號證ニ保險申込書ニ詐僞又ハ隱蔽ノ廉アルルキ若クハ事實ニ相違ノ告示ヲ爲セシトキハ保險契約無効ニ屬スヘキ旨記載アルモ當事者ノ眞意ハ唯保險申込書ニ記載シタル事項中其重要ナルモノニ關シテ如上ノ約款ニ該當

スルトキハ契約ヲ無効ニ歸セシムル趣旨ナルモ其重要ナラサルモノニ關シテハ縱令詐欺隱蔽若クハ不實ノ告示ヲ爲スモ契約ヲ無効トスルノ趣旨ニ非サリシモノト判斷シ且ツ保險者カ會テ生命保險ノ目的ヲ以テ醫師ノ診察ヲ受ケタル事實ノ有無ハ當事者ノ意思之ヲ重要ノ事項ト爲サリシモノト判斷シタルモノナレハ之ヲ不法ナリト云フヲ得ス何トナレハ本院ノ判決ハ契約ノ解釋ニ付テ原院ヲ羈束スルモノニ非サルコトハ既ニ上文ニ説示スル所ノ如ク而シテ其文詞ニ拘泥スヘキ規定存セサルヲ以テ自由ナル心證ニ依リ當事者ノ提出シタル證據方法ヲ取捨斟酌シテ契約ノ内容ヲ判斷スルコトヲ得ヘキモノナレハナリ由之是ヲ觀レハ本論旨ハ本院判決ノ要旨ヲ誤解シ以テ原院ノ專權ニ屬スル契約ノ解釋ヲ非難スルモノニシテ上告ノ理由トナラサルヤ明ケン

上告趣旨第二ハ上告人ハ被上告人ノ提出ニ係リ甲第一號證及第一審明治三十年十月廿九日ノ口頭辯論調書ヲ援用シテ「保險申込書其他被保人ヨリ保險契約ニ關シ上告人ニ差出ス書類若クハ陳述ニ詐僞又ハ隱蔽ノ廉アルカ若クハ事實ニ相違ノ告示ヲ爲シタルトキハ保險契約ハ無効ナリ」ト云ヒ又第一審以來「被保人爲吉カ大東生命保險會社ト保險契約ヲ爲シ醫師ノ診察ヲ受ケシニ拘ラス保險申込書ニ亦是ヲ記載セス」ト主張シタルコトハ原院ノ引用セル第一審判決事實摘示ニ依リ明カナリ故ニ上告人カ甲第一號證ヲ援用シテ抗辯ノ原因ト爲スモノハ書類又ハ陳述ニ一詐僞ニ隱蔽三事實ニ相違ノ告示ヲ爲シタルトキトノ三個ノ場合ナルコトハ疑ヲ容レサル處ナリ」又原判決事實摘示ニ依レハ

被上告人ハ「爲吉カ控訴會社ト保險契約ヲ締結スル前既ニ大東生命保險會社ト生命保險ノ契約ヲ爲シタルコトハ事實ナレモ此ノ如キコトハ本件保險申込書ニ記載スルコトヲ要セス」ト主張シタルコトモ亦明カナリ果シテ然ラハ被上告人カ成立ヲ認ムル乙第一號證ノ一二ニ「被保人ハ嘗テ其生命ヲ保險スル目的ヲ以テ醫師ノ診察ヲ受ケタルコトナシ」ト記載アルハ事實ニ相違ノ告示ヲ爲シタルモノナルヤ否ヤ本件ニ重要ノ争點ナリ然ルニ原判決ハ「爲吉ノ告知セサリシ事實ハ保險契約ニ重要ナルモノナリヤ否ヤヲ審究セサルヘカラス（中略）爲吉カ結約ノ際前記ノ事項ヲ告知セサリシ一事ヲ以テ保險契約ヲ無効ナラシムヘキモノニアラス」トノミ判示シ消極的ノ事實ヲ告知セル一事（隱蔽）ヲ以テ上告人カ保險契約ヲ無効ナリト主張シタル如ク説明シ却テ積極的ニ被上告人カ事實ニ相違スル告示ヲ爲シタルヤ否ヤノ重要ナル争點ニ對シ何等ノ判示ヲ爲サ、リシハ重要ナル争點ニ對シ判示ヲ爲サ、ル不法アリト云フニ在リ然ルニ原院ハ當事者間ニ於テハ被保險者カ曾テ生命保險ノ目的ヲ以テ醫師ノ診察ヲ受ケタル事實ニ眞實ニ背キテ告示セサルモ保險契約ヲ無効トスル意思ヲ存セサリシモノト判斷シタルヲ以テ被保險者カ之ヲ告示セサリシハ本論旨ニ所謂消極的ナルト積極的ナルトハ原判決ニ影響スル處ナシ故ニ本論旨ハ上告ノ理由トナラス」

上告趣旨第三ハ上告人カ甲第一號證ヲ援用シ保險契約ヲ無効ナリト主張シタルハ該證ニ「詐僞又ハ隱蔽ノ廉アルカ若シタハ事實ニ相違ノ告示ヲ爲シタルトキ」トアル三個ノ原因ニ基クコトハ其明文ニ照シテ明カナリ而シテ原判決ハ「爲吉カ嘗テ大東生命保險會社ト保險契約ヲ爲シ醫師ノ診察ヲ受ケタル事實并ニ保險申込書ニ生命ヲ保險スル目的ヲ以テ醫師ノ診察ヲ受ケタルコトナシト記載セル事實ハ控訴代理人ノ争ハサル處ナリ」ト説明シタルニモ拘ラス更ニ進ンテ「此點ニ付テハ爲吉カ保險申込書ニ記載スヘキ事實ヲ告知セサリシモノト認定ス」ト判示セラレタルハ理由ノ齟齬アル不法ノ判決ナルノミナラス事實ニ相違ノ告示ヲ爲シタルモノ（無効原因ノ第二）ニ對シ事實ヲ告知セサルモノ（無効原因ノ第二）ノ如ク不當ニ事實ヲ確定シタル不法アリト云フニ在リ然レトモ被保險者カ生命保險ノ目的ヲ以テ醫師ノ診察ヲ受ケタル事實アリシニ之ヲ告示セサルハ隱蔽ノ意ニ出テタルヤ又ハ事實相違ノ告示ナルヤハ事實判斷ニ屬スルモノナレハ援テ以テ上告ノ理由トスルヲ得ス

上告趣旨ノ第四ハ原判決ハ「此事實ハ保險契約ニ影響ヲ及ホスヘキ重要ノモノニアラスト認定ス果シテ斯クノ如クナル以上ハ爲吉カ結約ノ際前記ノ事實ヲ告知セサル一事ヲ以テ保險契約ヲ無効ナラシムヘキモノニアラス」ト説明セラレタルヲ以テ重要ナラサル事實ハ告知セサルモ（隱蔽ノ場合）契約無効トナラストノ理由ハ之ヲ知ルヲ得ルト雖トモ其事實ニ反スルコトヲ殊更ニ構造シテ之ヲ告知シタル場合即チ本件争點タル事實ニ相違スル告知ヲ爲シタル場合ニハ保險契約カ無効ナルヤ否ヤノ理由ニ至ツテハ原判決ニ於テハ毫モ説明セラレサルヲ以テ之ヲ知ルコトヲ得ス原判決ハ此點ニ於テ

理由不備ノ不法アリ

然レトモ既ニ第二點ニ於テ説明シタルカ如ク原院ノ判旨ナルヲ以テ本論旨ノ理由ナキコトハ特ニ説明スルノ要ナシ何トナレハ本論旨ハ文辭異ナリト雖トモ第二論旨ヲ再演スルニ過キサレハナリ上告趣旨第五ハ凡ソ保險法ノ性質上ヨリ論スルキハ保險契約ニ於テ保險申込書其他保險契約ノ爲メ保險契約人若シクハ被保人ヨリ差出ス書類若シクハ陳述ニ詐僞若シクハ隱蔽ノ廉アルカ若シクハ事實ニ相違ノ告示ヲ爲スコトヲ以テ契約無効ノ約款トシテ當事者カ概括的ニ締結シタル場合ニハ其ノ詐僞又ハ隱蔽若シクハ事實ニ相違ノ告示ヲ爲スコトカ保險契約ニ及ホス結果ノ輕重大小ノ區別ヲ爲サスシテ契約ヲ無効ナラシムヘキヲ以テ本則トス而シテ若シ當事者カ其詐僞隱蔽若クハ事實ニ相違ノ告示ヲ爲スコトニ就テハ重要ナラサルモノハ該約款中ヨリ取除キ契約無効ノ原因ト爲サザラント欲セハ固ヨリ約款ノ例外ヲ設クヘキモノナルヲ以テ更ニ特約ヲ爲ササルヘカラス畢竟詐僞隱蔽事實相違ノ告示ヲ契約無効ノ原因ト爲シタルハ固ヨリ保險契約ノ性質ヨリ生スル本則ナルカ故ニ之ニ例外ヲ設ケテ其重要ナラサルモノヲ無効原因ノ中ヨリ取除カントスルハ即チ異常ノ場合ナルヲ以テ別段ノ特約ヲ要スル所以ナリ今本件ニ於テ甲第一號證ノ保險契約ニハ保險ノ性質ニ基キ一般的ニ保險申込書其他保險ニ關スル書類又ハ陳述ニ詐僞隱蔽事實相違ノ告示ヲ爲スコトヲ以テ契約無効ノ原因トシテ記載アリテ別ニ其實質中重要ナラサルモノヲ除外スルノ特約ナシ而シテ乙第一號ノ一二タル保

險申込書ニハ「被保人ハ嘗テ其生命ヲ保險スル目的ヲ以テ醫師ノ診察ヲ受ケタルコトナシ」トノ事實ニ相違スル告示ヲナシタルノミナラス原判決ノ認定ニヨルモノ「爲吉カ保險申込書ニ記載スヘキ事實ヲ告知セザリシモノト認定ス」ト判示セラレタリ然ルニ原判決ハ此原則タルヘキ場合ヲ以テ却テ例外トナシ其異常ノ場合ヲ原則ナルカ如ク誤解シ被告上告人カ既ニ契約書ニ記載スヘキ事柄ヲ記載セザリシ事實ヲ認めナカラ別段特約ナキニ拘ハラヌ其事柄カ重要ナラサルカ故ニ契約ヲ無効ナラシムヘキモノニアラス」ト判示シタルハ保險ノ法則ヲ誤解シ依テ以テ保險契約ノ趣旨ニ反シテ不當ノ事實ヲ確定シタルハ不法アリト云フニ在リ

然レトモ既ニ第一點ニ於テ説明シタル如ク裁判所カ契約ノ解釋ヲ爲スニ當リテハ必スシモ其文詞ニ拘泥スルヲ要セザルモノナレハ本論旨ハ究竟原院カ其專權ヲ以テ爲シタル契約ノ解釋ヲ非難スルモノニシテ上告ノ理由トナラス

上告趣旨ノ第六ハ上告人カ被保人ニ對シ生命保險ノ目的ノ爲ニ醫師ノ診察ヲ受ケタルコトノ有無ヲ記載セシムルヲ以テ重要ナル事項ナリト主張シタルコトハ控訴狀ニ「特ニ醫師ノ診察ヲ受ケタルコトノ有無ヲ記載セシメタル所以ノモノハ(中略)嘗テ某會社へ保險ヲ申込ミ醫師ノ診察ヲ受ケタルコトアルヲ知ルトキハ某會社ニ付キ申込書ニ對照シ記載ノ事項ニ詐僞隱蔽若クハ事實ノ相違ノ記載ナキヤ否ヤヲ調査シ(一)又保險金額ノ合計カ身分不相應ニ多額ナルトキハ賭博保險若クハ自殺ノ決意ノ有

無ヲ調査シ(二)又相互ノ身体診察ノ結果ヲ對照シテ誤謬ノ有無ヲ調査シ(三)以テ危險ナル保險契約ヲ避クルカ爲メニシテ」トアリ又原院明治三十三年七月四日ノ口頭辯論調書ニ「控訴代理人ハ乙第一號證ノ一二ハ重要ナル事實ニ隱蔽シタルコトヲ證スレトアルニ因テ明カナリ又原判決ニ上告人カ採用シタル旨記載アル原院明治三十一年十月廿六日口頭辯論調書ノ第五項ニ「被控訴代理人陳述控訴會社ト契約前大東生命保險會社ト契約セシ事實ハアリ然ルニ控訴會社ハ遊説員ヲ派出シ大東生命保險會社ヨリハ控訴會社ノ確實ナルコトヲ唱ヘ控訴會社ト契約スルコトヲ勸メラレ契約スルニ至リタリ故ニ特ニ會社ヘ此コトヲ告グル必要ナシ」ト記載アリテ被告上告人ハ生命保險契約ヲ締結スル目的ニテ醫師ノ診察ヲ受ケタルノ事實ハ上告人ノ遊説員ニ通知シタルヲ以テ之ヲ告グルノ必要ナシト云フニ在リテ其事實ノ重要ナルコトハ被告上告人モ既ニ之ヲ主張シタルモノナルコトヲ知ルニ足ル況ンヤ被告上告人該事實ヲ以テ重要ナラスト云フニ至リタルハ曩ニ本件カ御院ニ於テ破毀セラレ差戻ノ後控訴審ニ於テ始メテ申立タルノミナラス其以前ニ在リテ一審以來上告審ニ至ルマテ斯カル申立ヲ爲シタルコト更ニ無ク又原判決ノ認定ニ依ルモ「保險申込書ニ生命ヲ保險スル目的ヲ以テ醫師ノ診察ヲ受ケタルコトナシト記載セル事實ハ被控訴代理人ハ右保險申込書ノ所謂醫師ノ診察トハ控訴會社ト生命保險ヲ契約スルノ目的ヲ以テ爲シタル醫師ノ診察ナリト主張スレトモ」云々トアルヲ以テ被告上告人ノ主張亦該事實ノ重要ナルコトニ付テハ上告人ノ主張ト一致シテ居ルモノナリ然ルニ原判決カ

「結局本件ノ争點トスル處ハ前記契約ノ解釋如何ニ歸着ス」ト云ヒ自ラ進ンテ醫師ノ診察ヲ受ケタルノ事實ヲ告知スルコトヲ以テ重要ナル事項ニアラスシテ「事實調査ノ參考ニ資スルニ過キス」云々ト判示シタルハ裁判上顯著ナル當事者ノ契約意思ニ反シ不當ニ事實ヲ確定シタル不法アリ假リニ一步ヲ讓リテ被告上告人ハ差戻前ニ於テハ該事實ノ重要ナルモノトシテ其主張ヲ爲シ破毀後ニ於テハ重要ナラスト云フモノトスレハ被告上告人ノ申立ハ二様ニ涉ルヲ以テ若シ原判決カ曩ニ重要ナリトノ被告上告人ノ主張ハ之ヲ採用セスシテ後ノ主張ヲ採用シタルモルトスレハ須ラク其理由ヲ附セサル可カラス然ルニ原判決ハ毫モ此點ニ付テ説明ヲ爲ササルニ依リ之カ理由ヲ知ルニ由ナシ原判決ハ此點ニ於テモ亦判決ニ理由ヲ付セサル不法アリト云フニ在リ

然レトモ原判決ノ理由中「前略甲第一號證保險契約ノ條項第一ニハ保險申込書ニ詐僞又ハ隱蔽ノ廉アルトキ若クハ事實ニ相違ノ告示ヲ爲セシトキハ保險契約無効ニ屬スヘキ旨記載アリテ被控訴代理人(被告上告人)ハ右契約ハ保險申込書ニ記載ノ事項ハ大小輕重ノ區別ナク事實ニ相違アルトキハ契約ヲ無効ナラシムヘシトノ趣旨ニ非スシテ保險契約ニ重要ナル事項ノ告示ニ事實ノ相違アルトキノミ契約無効ナラシムヘキ趣旨ナリト主張シ」云々トアルノミナラス其事實摘示中被告上告人ノ陳述ニ「前略爲吉カ控訴會社(上告人)ト保險契約ヲ締結スル前既ニ大東生命保險會社ト生命保險ノ契約ヲ爲シタルコトハ事實ナレトモ此ノ如キコトハ本件保險申込書ニ記載スルヲ要セス云々」トアルヲ以テ本

論告ノ前半ハ原院ニ顯レタル事實ト相容レサル事實ヲ假想シテ立論スルニ外ナラス又假令當事者ノ一方ノ主張前後相異ナル場合ニ於テ特別ノ申立アルニ非サレハ裁判所カ後ノ主張ヲ採用スルニ付テ特ニ理由ヲ付スル必要ナシ故ニ本論旨モ亦上告ノ理由トナラス

上告趣旨ノ第七ハ原判決ハ「其保險契約ニ影響ヲ及ボサルヘキ事項ニ付テハ假令些少ノ隱蔽若クハ事實相違アルモ爲メニ其契約ノ效力ヲ害スルコトナカルヘキヲ本則トス但其事項ノ重要ナルト否トニ關セテ些少ノ事實相違アルトキハ其契約無効トスヘキ旨特約スルトキハ結約者ハ其特約ニ羈束セラルヘシト判示セラレタルヲ以テ上告人ハ假リニ一步ヲ讓リテ原判決ノ如ク重要ナラサルモノニ付テハ特約ヲ要ス又受診ノ有無ヲ記載セシムルコト重要ナラサルモノナリトノ議論ヲ容ル、モ尙原判決ハ違法ノモノタルコトヲ免レス即チ被上告人爲吉カ保險契約ヲ締結シタル當時「嘗テ保險ノ目的ヲ以テ醫師ノ診察ヲ受ケタルコトナシ」トノ告示ヲ上告人ニ對シテ爲シタル上此告示ニ事實相違アレハ保險契約ノ無効ト爲ルコトヲ特約セリ其レハ被上告人カ成立ヲ認ムル乙第一號證ノ一二保險申込書ノ前段ニ「被保人ハ嘗テ其生命ヲ保險スル目的ヲ以テ醫師ノ診察ヲ受ケタルコトナシ」ト記載シ其後段ニ「右ハ貴社ノ生命保險規則熟讀ノ上該規則ニ從ヒ被保人ノ生命保險申込候段相違無之就テハ此申込書ハ勿論拙者共ヨリ貴社ヘ對シテ爲シタル陳述ニ於テ虛偽若クハ隱蔽ノ廉アルカ又ハ該保險規定ニ違背致候ハ、保險契約ハ無効ニ屬シ」云々記載アルヲ見レハ被保人爲吉カ乙第一

號證ノ一二ヲ告不シタル受診ナシトノ事項ハ其眞實ナルコトヲ誓ヒ右之通り申込書ニ記載シタル告示事項ニ事實相違アルハ契約ノ無効トナル旨ヲ特約シタルコトハ該申込書ノ明文ニ徴シテ一點ノ疑ヲ容ルヘキ餘地ナシ然ルニ原判決カ更ニ進シテ「此ノ如キ特約ハ極メテ異例ニ屬スルヲ以テ本件ノ如キ他ニ特殊ノ事情ナキモノハ之ヲ通常保險ノ法理ニ基ケル契約趣旨ナリト解釋スルヲ相當ナリト認ム(中略)抑モ生命保險契約書ニ被保人ヲシテ嘗テ生命ヲ保險スル目的ヲ以テ醫師ノ診察ヲ受ケタルコトノ有無ヲ記載セシムルハ單ニ保險者カ事實調査ノ際參考ニ資スルニ過キスシテ(中略)此事項ハ保險契約ニ影響ヲ及ボスヘキ重要ノモノニアラスト認定ス果シテ此ノ如クナル以上ハ爲吉カ結約ノ際前記ノ事項ヲ告知セザリシ一事ヲ以テ保險契約ヲ無効ナラシムヘキニ非ス」ト判示シタルハ當事者間ニ爭ナキ契約ノ眞意ニ反シ不當ニ事實ヲ確定シ且ツ自ら主張シタル法理ヲ適用セサル不法アリト云フニ在リ

然レトモ被保險者カ生命保險ノ目的ヲ以テ醫師ノ診察ヲ受ケタル事實ヲ告示セサルトキハ保險契約ノ無効トナルコトニ付テハ當事者間ニ爭ヒアリシコトハ既ニ前段ニ於テ説明シタル所ノ如シ而シテ原院カ契約文詞ニ拘泥スルコト無ク契約ノ内容ヲ解釋スル專權ヲ有スルコトハ亦第一點及第五點ニ於テ説明シタル所ノ如シ然レハ則チ本論告ハ契約解釋ノ非難ニ外ナラスシテ上告ノ理由トナラス上告趣旨ノ第八ハ上告人ハ被保人爲吉ノ死体ハ規則ニ反シ死亡ノ當日火葬ニ爲シ了セリ然ルニ第一

審裁判所ニ於テ之ヲ以テ尙ホ適切ノ立證ナラヌトシ且ツ自殺ノ決意繼續ノ形跡ナシトシタルハ不服ノ第三點ナリ」ト云ヒ又「被保人爲吉カ死亡ノ前日居村賴行寺ニ行キ獨酌五合ノ酒ヲ盡クシ醉後入浴シタルノ事實并ニ名義上ノ主治醫小野清事實上ノ主治醫伊藤文藏父房次郎等ノ當時ニ於ケル舉動等ニ徴スレハ自殺ナルコト蔽フヘカラス」ト主張シタルコトハ控訴狀及原判決ノ引用セル第一審判決事實摘示ニ因テ明カナリ而シテ被上告人ハ單ニ被保人爲吉ハ自殺シタルニアラヌト云フニ止マリ其他前掲上告人ノ事實上ノ主張ハ毫モ被上告人ノ争ハサル處ナリ然ルニ原判決ハ爲吉ノ死亡ハ自殺ニアラヌトノ判示ヲ爲スニ際シ右争ナキ事實上ノ點ニ對シ何等ノ説明ヲ爲サルハ理由不備ノ不法アリト云フニ在リ

然レモ被上告人カ爲告ノ死亡ハ自殺ニ非スト主張シタルコトハ原判決ニ誠ニ明白ナレハ上告人カ自殺ナリト主張シテ陳述シタル諸般ノ狀況ハ被上告人カ争ハサルモノト云フヲ得サルノミナラス原判決ニハ爲吉カ急性汎發腹膜炎ニ罹リ遂ニ心臟麻痺ヲ起シテ死亡シタルモノト判斷シ其理由ヲ明示シアルヲ以テ理由不備ノ裁判ナリト云フヲ得ヌ故ニ此論旨モ亦上告ノ理由トナラス

上來說明スル如キ理由ナルヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ノ規定ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

大審院第一民事部

明治三十三年十二月十五日

裁判長判事	南 部 鏡 男	判事	井 上 正 一	判事	岡 村 爲 藏
判事	和 田 収 蔵	判事	馬 場 愿 治	判事	掛 下 重 次 郎
判事	志 方 鏡				

(十九) 播磨福松對萬世生命保險株式會社事件(始審)

判決要旨

年齢相違ハ事實ノ隠蔽ナリ

判決正本

大阪市南區難波大字難波三百三十三番屋敷寄留
三重縣平良

原告 播 磨 福 松

大阪地方裁判所所屬辯護士

右訴訟代理人 森 仁 志

大阪市東區北濱三丁目五十六番屋敷

萬世生命保險株式會社事務取締役

被告 小 林 好 愛

大阪地方裁判所所屬辯護士

右訴訟代理人 入 江 鷹 之 助

右當事者間ノ保險金請求ノ訴訟事件ニ付當區裁判所ハ判決スルコト左ノ如シ
原告ノ申立ハ之ヲ却下ス
訴訟費用ハ原告ノ負擔タルヘシ

事實

原告代理人ハ左ノ主張ヲナセリ

原告ハ被告ノ會社ニ對シ明治廿八年一月ヲ以テ寶母マサノ生命十ヶ年保險ノ契約ヲナシ置キタル處マサハ昨年五月廿六日死亡シタルニ付同會社保險規則第卅四條ノ手續ヲ履ミ保險金ノ請求ヲナス爲メ原籍役場ノ身分職業年齡ノ證明書ヲ取寄セタルニ保險申込ノ生年月天保六年十一月十五日生ト相違シテ戶籍簿上四月廿日生トナリ居リシヲ奇貨トシ詐欺ノ申込ナリト主張シテ被告ハ保險金ノ支拂ヲ拒メリ然レモ戶籍面ト實際ノ年齡トハ届出ノ前後ニヨリ相違スルコトアルハ往々有之モノニシテマサノ實際ノ生年月ハ天保六年十一月十五日ナルヲ以テ戶籍上ニモ同一ナリト信シテ其ノ生年月日ヲ記載シテ申込ヲナシタルモノナリ故ニ詐欺ニ非スシテ錯誤ナリ又本契約ハ定期保險ニシテ養老保險ト異ナリ被保人ノ老幼ニ關係セサルヲ以テ生年月ニ數月ノ相違アルモ會社ノ利害ニ何等ノ關係ヲ及ホスヘキ重要ナル事項ニ非ルヲ以テ被告ニ對シ保險金八拾圓ニ起訴ノ日ヨリ判決執行濟迄年六分ノ利子ヲ付シ辨濟スルコトヲ請求ス被告代理人ハ左ノ抗辯ヲナセリ

事實ハ原告ノ陳述ト毫モ異ルコトナキモ被告會社ハ通例六十歳以上ノ定期生命保險ヲナサハルヲ以テ生年月ニ八ヶ月ノ相違アルハ申込ノ受諾ニ重要ナル關係ヲ有スルモノナリ已ニ重要ナル事項ニ事實ニ相違セル申込ヲナシタル以上ハ刑事上ノ詐欺ニ非ストスルモ民事上ニ所謂惡意ヲ以テ事實ヲ隱蔽

シタルモノニシテ詐欺アリタルモノト推定シ得ヘシ而シテ原告ハ詐欺若クハ事實ノ隱蔽アルルハ保險金受領ノ權利ヲ失フヘキ事ハ充分承諾ノ上契約ヲナシタルモノナルヲ以テ原告ノ請求ニハ難應訴
原被告ハ甲乙各一號證ヲ呈出セリ

理由

乙一號證ニ依レハ該證記載ノ事項ニ詐欺又ハ隱蔽ノ廉アルルハ保險金又ハ割戻金ヲ要求スル權利ヲ失ヒ且ツ掛金ノ全部損失ニ歸スルモ異議ナキ條件ヲ承諾ノ上申込ヲナシ被告ハ其條件ヲ附シテ契約ヲ締結シタルモノナリ而シテ原告申込證記載ノ生年月ハ戶籍上ノ記載ト相違セルモノナルヲ以テ原告ニ於テ特ニ戶籍上ノ生年月ハ事實ニ反セリトノ反證ヲ舉ケサル以上ハ申込證ノ生年月ハ事實ヲ隱蔽シタル記載アリト認メサルヲ得ス隨テ被告カ當初ノ契約々款ニ基キ其履行ヲ拒ムハ至當ニシテ其他生年月ノ相違ノ會社ニ利害關係ヲ有スルト否トハ本件ノ爭點ニ關係ナシト認ムルヲ以テ原告ノ申立ハ不立立モノトス

明治卅一年五月廿七日

大坂區裁判所

判事 朝山 益雄

附言

本件ニ對スル判決ノ要旨ハ飯岡淺吉對有隣生命保險株式會社事件ニ比シテ更ニ苛酷ナリ年齡ノ相違カ會社ノ利害ニ關係ヲ有スルト否トハ問フ所ニアラス相違ト云ヘル一點即チ事實ノ隱蔽ニシテ契約ノ約款ニ背戾セルカ故ニ契約無効ナリトハ何等ノ不深切ナル判決ソヤ此論鋒ヲ以テセハ申込書ノ年齡ニ戸籍而ノ年齡ヨリ多カリシ場合即チ保險者カ保險料ヲ過分ニ利シ來リタル場合ト雖トモ保險金ノ支拂ヲ拒ミ得ルト云ハサルヘカラス抑保險者カ其義務ヲ免レ得ルハ契約者ノ行為カ自己ニ不利益ヲ與フルカ故ナルニアラスヤ法律ノ皮相ニ走リテ其精神ヲ没却スル本判決ノ如キハ稀ナリ又保險者ノ主張スル所ハ甚無意味ニシテ「會社ハ通例六十歳以上ノ定期保險ヲ爲サス生年月ニ八ヶ月ノ相違ハ申込ノ受諾ニ重要ナル關係ヲ有ス」云々ト言ヘト天保六年四月生ノ者ハ明治廿八年一月ニ於テ年齡五十九年十ヶ月ナリ六十歳以上ノ契約ヲ爲サストハ何ノ爲ニ主張シタルヤ其意ヲ知ルニ苦シマサルヘカラサルナリ

(二十) 麻生唯右衛門對中央生命保險株式會社事件(始審)

判決要旨

保險契約ノ當時保險契約者カ被保險者ノ身躰ニ關シ既往ノ疾病ヲ隱蔽シタルトキハ該契約ハ無効トス

判決正本

廣島縣沼隈郡今津村五百七十六番次一番屋敷

平民農

原告 麻生 唯右衛門

大阪府大阪市東區南久太郎町二丁目五十番屋敷

被告

中央生命保險株式會社

右同所士族同會社長

渡 邊 洪 基

右訴訟代理人辯護士

小 島 三 郎

右訴訟代理人辯護士

大 鐘 彦 市

右當事者間ノ保險金請求事件ニ付當裁判所ハ判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事 實

原告訴訟代理人ハ訴狀ニ基キ被告ハ原告ニ對シ金四百八拾圓五厘ヲ拂渡ス可シ訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決ヲ求ムト一定ノ申立ヲ爲シ而シテ事實ノ關係ハ原告ハ明治三十年三月二十五日原告ノ母ヒサヲ被保人トシテ被告ニ對シ生命保險ヲ申込ミ被告ノ承諾ヲ得テ終身保險金五百圓ノ契約ヲ締結シ即時原告ヨリ半ヶ年分ノ保險掛金十九圓九十九錢五厘ヲ拂込ミタリ然ルニ被保人ヒサハ同年六月十五日病死セシヲ以テ原告ハ被告會社ノ規則ニ基キ死亡證明書等ヲ被告ニ送付シ保險金ノ拂渡ヲ求メタル所被告ハ彼是故障ヲ述ヘ原告ノ求メニ應セサルニ付敢テ起訴ニ及ヒタリト主張シ被告訴訟代理人ハ答辯書ニ基キ原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ニ於テ負擔スヘシトノ判決ヲ求

ムト一定ノ申立ヲ爲シ而シテ事實ノ關係ハ被告ハ原告トノ間ニ訴外人麻生ヒサノ終身生命保險ヲ契約シ及ヒヒサ死亡ノ事實ハ原告主張ノ如シ然レモ原告ハ契約ノ當時訴外人ノ死因タル疾病ヲ隠蔽シ虚偽ノ陳述ヲ爲シ以テ契約ヲ締結セシメタルモノナルニ付被告ハ乙三號第三十條ニ據リ原告ニ對シ保險金ヲ拂渡ス可キ責務ナシト爭ヒタリ

理由

原告ニ於テ被告ニ差入レタルコトヲ認ムル乙一號證ニ據レハ本件係争ノ要點タル既往病狀欄ニ昨年赤痢ニ罹リ亦十年前子宮病ニ罹リシコトアリ現今治療亦七八年前眼病ニテ左眼ハ明ヲ失セリ云々トアルノミニシテ被保人タル訴外人麻生ヒサカ死因タル子宮癌腫ニ罹リシコトノ何等ノ記載ナシ然リ而シテ原告カ其自体ヲ認ムル乙二號證及ヒ事實ニ適合セリト認ムルニ足ル證人後藤武彦ノ供述ヲ湊合スレハ訴外人ヒサノ死因ハ明治三十年六月十五日ニシテ該死亡ヨリ溯リ尠ナクモ一年以來子宮癌腫ニ罹リ因テ以テ死ニ至リタル事實明白ナレハ隨テ本件契約ノ時期タル明治三十年三月二十五日以前數月ノ間モ亦繼續シテ前顯子宮癌腫ヲ患ヒアリシコトハ疑ガフ可カラサル事實ナリト認メサル可カラス果シテ然ラハ原告ハ本件契約當時ニ於テ被告ニ對シ訴外人ヒサノ已往ノ罹病特ニ同人カ死因タル子宮癌腫ニ罹リアリシコトヲ隠蔽シテ本件契約ヲ締結シタルモノナルニ付乙三號第三十條ニ基キ該契約ノ無効ニ屬ス可キヤ固ヨリ辯ヲ俟タス之ヲ要スルニ原告ニ於テ本件契約ヲ爲スニ方リ訴外人

ヒサガ子宮癌腫ニ罹リ居ルコトヲ申告シタルモ被告會社ノ雇人ハ之ヲ契約書ニ記載セザリシトノ原告主張ハ其確證ナク證人村上百次郎ノ供述ハ適實ナラスト認ムルニ付之ヲ採用シ難ク結局原告カ爲シタル本件請求ハ以上ニ説明スル如ク失當ナルヲ以テ之レヲ排斥セサル可カラス故ニ訴訟費用ハ民事訴訟法第七十二條ヲ適用シ主文ノ判決ヲ言渡スモノトス

明治三十一年七月六日

廣島地方裁判所民事部

裁判長判事

阿部 義彰

判事 奥戸善之助

判事 柴田言一

(廿一) 麻生唯右衛門對中央生命保險株式會社事件(控訴)

判決要旨

第一審判決ニ同シ

判決正本

廣島縣沼隈郡今津村平民農

控訴人 麻生 唯右衛門

右訴訟代理人辯護士

三坂 繁人
小島 孫三郎

大坂府大坂市東區南久太郎町二丁目

被控訴人 中央生命保險株式會社

右會社取締役社長

右訴訟代理人辯護士

渡邊 洪基
大鐘 彦市

右當事者間ノ保險金請求事件ニ付明治三十一年六月三十日廣島地方裁判所ニ於テ言渡シタル第一審判決ニ對シ控訴人ヨリ控訴ヲ爲シタリ仍テ當控訴院ハ判決スルコト左ノ如シ

本件控訴ハ之ヲ棄却ス

控訴ニ關スル訴訟費用ハ控訴人ニ於テ負擔スベシ

事實

控訴代理人ニ於テ原判決ヲ廢棄シ更ニ被控訴人ハ控訴人ニ對シ金四百八拾圓五厘ヲ拂渡スヘシ訴訟費用ハ第一審第二審ノ分共被控訴人ニ於テ負擔スヘシトノ判決アランコトヲ求ムト申立タリ而シテ事實ノ關係ニ付テハ控訴人ハ被控訴會社ニ對シ本訴保險契約ノ申込ヲ爲ス際同會社ノ出張員及ヒ検査醫ノ面前ニ於テ被保人麻生ヒサカ現ニ子宮病ニ罹リ居ルコトヲ明言シタルモ當時數多ノ保險會社カ社員ヲ派出シ保險契約人ノ募集ヲ競争スル際ナリシヨリ被控訴會社ノ出張員ハ病中ナルヒサヲ被保人トシテ控訴人ト保險契約ヲ取結ヒタルモノニシテ控訴人ハ毫モヒサノ疾病ヲ隠蔽シタルメトナシ該契約ヲ取結ヒタル後控訴人カ掛金ヲ爲サントスルニ際シ被控訴會社ハ控訴人ニ對シ保險金ヲ千圓ニ増加スヘキ旨申勸メ甲第一號證ノ如ク保險金千圓ニ對スル掛金ノ領收書ヲ控訴人ニ交付シタルモ控訴人ハ之ニ從ハス最初申込タル如ク保險金ヲ五百圓ト爲シ置キ右領收書ヲ五百圓ノ保險金ニ對スル掛金ノ領收書ニ訂正セシメタル上其掛金ノ拂込ヲ爲シタルヲ以テ見ルモ控訴人ハヒサノ疾病ヲ

明言シタルモノニシテ之ヲ隠蔽スルカ如キ惡意ナカリシコト明カナリ何トナレハ若シ控訴人カ惡意アリトセハ直チニ被控訴會社ノ勸メニ從ヒ多額ノ保險金ヲ取得スル方法ヲ圖ルヘキ筈ナルニ之ニ從ハサリシハ即チ惡意ナカリシコトヲ推定スルニ餘アレバナリト云フノ外原判決ニ表示スル所ト同一ノ演述ヲ爲シタルヲ以テ茲ニ該判決ヲ引用ス

被控訴代理人ニ於テ本件控訴ハ之ヲ棄却ス訴訟費用ハ控訴人ニ於テ負擔スヘシトノ判決アランコトヲ求ムト申立タリ而シテ事實ノ關係ニ付テハ子宮癌腫ニ罹リタル者ハ一年以上ヲ經テ後ニ死亡スルコトハ證人後藤武彦ノ供述スル所ニシテ之ヲ乙第二號證ニ參照スレハ本訴保險ノ被保人麻生ヒサハ明治三十年三月二十五日控訴人カ保險契約ノ申込ヲ爲ス以前ヨリ該病ニ罹リ居ルコト明カナリ而シテ該病ハ初期ニ於テハ外診ノミニテハ容易ニ之ヲ發見スル能ハサルコトモ亦右武彦ノ供述スル所ニシテ且保險會社カ被保人タル婦人ノ身体ヲ検査スルニ際シ其陰部迄ヲ検査スルコトナキハ一般ノ狀ナルヲ以テ控訴人ハ被控訴會社カヒサノ陰部ヲ検査セサリシヲ倖トシ同人カ現ニ子宮癌腫ニ罹リ居ルコトヲ隠蔽シテ本訴保險契約ノ申込ヲ爲シタルモノナルコトハ爭フヘカラサル事實ナリ然ルニ控訴人ハ被控訴會社ノ出張員ニ對シヒサノ子宮病ニ罹リ居ルコトヲ明言シタリト主張スレモ保險會社カ現ニ不治ノ病症ニ罹リ居ル者ヲ被保人トシテ保險契約ヲ爲ス如キハ實際ニアルヘカラサル事柄ナルヲ以テ控訴人ノ主張ハ不實ナルコト明カナリ又控訴人ハ被控訴會社カ控訴人ニ對シ保險金ノ

増加ヲ勸メタル際控訴人カ之ニ從ハサリシヲ以テ見ルモ控訴人ハヒサノ疾病ヲ隠蔽シタルコトナク之ヲ明言シタルコトヲ推定スルヲ得ルモノ、如ク主張スレモ被控訴會社ハ控訴人カヒサノ子宮癌腫ニ罹リ居ルコトヲ明言セサリシニ因リ控訴人ニ對シ保險金ノ増加ヲ勸メタルモノニシテ若シヒサノ該病ニ罹リ居ルコトヲ知ラハ保險金ノ増加ヲ勸ムルコトナキハ勿論保險契約ヲ取結フヘキ筈アルコトナシト云フノ外原判決ニ表示スル所ト同一ノ演述ヲ爲シタルヲ以テ茲ニ該判決ヲ引用ス

理 由

本訴乙第二號證即チ醫師舛出健爾ノ作リタル控訴人ノ母麻生ヒサノ死亡證明書ニ依レバ同人ハ死亡ノ時ヨリ凡ソ一ヶ年前頃ヨリ子宮癌腫ニ罹リ明治三十年三月十九日ヨリ同年六月十五日死亡ノ時ニ至ル迄健爾ノ治療ヲ受ケ居リタルコト明カナルニ乙第一號證即チ控訴人カヒサヲ被保人トシテ明治三十年三月二十五日被控訴會社ニ生命保險ノ申込ヲ爲シタル保險申込證書中被保人既往ニ於ケル著シキ疾病其當時ノ年齢并ニ病狀トアル欄内ニハ(前略)十年前子宮病ニ罹リシコトアリ現今治癒云々ト記載シアリ而シテ保險會社カ被保人ノ身体ヲ検査スルニ方リ其陰部迄ヲ検査スルコトナキハ普通ノ狀態ナルヲ以テ控訴人ハ被控訴人主張ノ如クヒサカ現ニ子宮癌腫ニ罹リ明治三十年三月十九日ヨリ醫師ノ治療ヲ受ケ居ルニモ拘ハラズ被控訴會社カヒサノ身体ヲ検査スル際其陰部ヲ検査セサリシヲ俾トシ同人該病ニ罹リ居ルコトヲ隠蔽シ同月二十五日ヒサヲ被保人トシテ被控訴會社ニ生命保險

ノ申込ヲ爲シタルモノナルコトハ掩フヘカラサル事實ナリ然ルニ控訴人ニ於テ證人村上百次郎ノ供述ニ依リ控訴人ハ被控訴會社ニ保險申込ヲ爲ス際同會社ノ出張員及ヒ検査醫ノ面前ニ於テヒサカ現ニ子宮病ニ罹リ居ルコトヲ明言シタルモ當時數多保險會社カ社員ヲ派出シ保險契約人ノ募集ヲ競争スル際ナリシヨリ被控訴會社ノ出張員ハ病中ナルヒサヲ被保人トシテ控訴人ト本訴保險契約ヲ取結ヒタルモノナリト主張スレモ保險會社ニ於テ被保人タルヘキ者カ現ニ疾病ニ罹リ居ルコトヲ知りナカラ之ヲ被保人トシテ保險契約ヲ取結フ如キコトハ普通アルヘカラサル事柄ナルノミナラス證人村上百次郎ノ供述ハ事實ニ適合シタルモノトハ認め難キヲ以テ右控訴人ノ主張ハ之ヲ採用スルヲ得ザルモノトス又控訴人ニ於テ被控訴會社ハ控訴人カ本訴保險契約ヲ取結ヒタル後掛金ノ拂込ヲ爲サントスル際保險金ヲ千圓ニ増額スヘキ旨申勸メタルモ控訴人ハ之ニ應セスシテ最初申込タル金額五百圓ニ對スル掛金ノ拂込ヲ爲シタルヲ以テ見ルモ控訴人ハ本訴保險申込ノ際ヒサノ疾病ヲ隠蔽スルカ如キ惡意ナカリシコト明カナリト主張スレモ控訴人カ右掛金拂込ノ際ニ控訴會社ノ勸ムルニモ拘ハラズ保險金ノ増額ヲ爲サリシトテ保險申込ノ當時ヒサノ疾病ヲ隠蔽セサリシモノナルコトヲ確ムルニ足ラス況ンヤ控訴人カ之ヲ隠蔽シタルコトハ前顯ノ如ク既ニ明カナル事實ナルニ於テオヤ然リ而シテ保險契約人カ被控訴會社ニ對シ保險申込ヲ爲スニ方リ詐偽若クハ隠蔽ノ廉アリシキハ保險契約ハ當然無効ニ歸スヘキモノナルコトハ乙第二號證ナル被控訴會社ノ保險規則第三十條ニ規

定スル所ニシテ控訴人ハ該規則ノ各條ニ掲タル規定ヲ遵守スル旨ヲ誓約シテ本訴保險ノ申込ヲ爲シタルコトハ乙第一號證ナル保險申込證書ニ依リ明カナルヲ以テ既ニ前顯ノ如ク控訴人ハ被控訴會社ニ對シ被保人ヒサカ現ニ子宮痛腫ニ罹リ醫師ノ治療ヲ受ケ居ルコトヲ隱蔽シテ本訴保險申込ヲ爲シタルモノトスル以上ハ控訴人カ該申込ニ依リ被控訴會社ト取結タル本訴保險契約ハ右規則第三十條ニ依リ當然無効ニ歸スヘキハ固ヨリ論ヲ俟タサル所ナリ故ニ控訴人カ被控訴會社ニ對シ本訴保險金ノ拂渡ヲ請求スルハ其當ヲ得サルモノナリ

右ノ理由ナルヲ以テ原裁判所ニ於テ控訴人ノ請求ヲ棄却シタルハ相當ニシテ控訴人ノ控訴ハ其理由ナキモノナリ依テ民事訴訟法第四百二十四條ニ從ヒ本件控訴ハ之ヲ棄却シ控訴ニ關スル訴訟費用ハ同法第七十七條ニ從ヒ控訴人ヲシテ負擔セシム可キモノトス

明治三十一年十月廿八日

廣島控訴院民事部

裁判長判事 高洲 速太 判事 中谷 速水 判事 柳 原 至

判事 百瀬 武策 判事 佐藤 信

附 言

麻生唯右衛門對中央生命保險株式會社事件ノ判決ハ第一審第二審共ニ至當ニシテ別ニ批評ヲ施スヘキ餘地ナシ

キ餘地ナシ

(廿二) 日野友太郎對眞宗生命保險株式會社事件(始審)

判決要旨

出張所員ハ直チニ保險契約ヲ締結スヘキ權限ナシ

判決正本

大阪府府區心齋橋筋登下丁百拾壹番邸

七日野利三郎相續人

愛知縣名古屋市桶町二丁目二百二十六番戶

眞宗生命保險株式會社專務取締役

原告人 日野友太郎

被告人 九鬼 紋七

右實母 日野リヨウ

大阪地方裁判所々屬辯護士

右訴訟代理人 梅田 壯二

右當事者間ノ保險金支拂請求事件ニ付判決スル左ノ如シ

原告ノ請求ハ却下ス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事 實

原告ハ被告ニ對シ金壹千圓ノ保險金ヲ支拂フ可シト判決アリタシト一定ノ申立ヲ爲シ其事實ノ要領

ハ原告友三郎ノ亡父日野利三郎ハ明治三十年十二月申宗生命保險會社へ金壹千圓ノ尋常終身保險
 申込ヲ爲シタル所被告會社ハ醫師奥藤虎之ヲシテ右利三郎ノ身体ヲ診査シタル上之ヲ承諾シタルニ
 付直チニ第壹回ノ保險料ヲ拂込タリ然ルニ利三郎ハ明治三十一年一月十九日午前六時急性心臟病ニ
 テ死亡シタルニヨリ相當ノ手續ヲ經テ被告會社ニ届出ヲ爲シ保險金ノ請求ニ及ヒタルニ被告會社ハ
 無謂苦情ヲ唱ヘテ之ニ應セサルヲ以テ茲ニ本訴ヲ提起シタリ然ルニ被告ハ出張所ハ保險契約ヲ取結
 フ權限ナシト抗辯スレモ大阪出張所ハ奥山榮太郎所長ナルヲハ甲四號證ニ依リ明カニシテ甲二號證
 保險金領收證ハ保險規則第十四條ニ適當シ第一回ノ保險料ノ支拂アル以上ハ保險契約ハ成立シタル
 ヲ論ヲ俟タス其立證トシテ甲一乃至四號證ヲ提出シ乙一及二號ノ一ノ付箋ハ認ム乙三號證ハ認ムル
 モ立證方法ハ認メス乙二號ノ一二及乙五六號證ハ認スト申立タリ

被告ハ原告ノ請求ハ却下アリタシト一定ノ申立ヲ爲シ其事實ノ要領ハ被告ハ被告會社ハ原告先代日
 野利三郎ヨリ保險契約ノ申込アリタレモ其調査中同人死亡シタルモノニシテ未タ其申込ニ對シ應諾
 シタルヲナキヲ以テ保險契約ハ成立セス又出張所員ハ直ニ保險契約ヲ締結ス可キ權限ナキヲハ規則
 第十二條第十三條ニ依リ明ナリ故ニ本社ノ承諾ニ依リ第一回ノ拂込ヲ爲シ茲ニ初メテ保險契約ノ成
 立スルモノナリ其立證トシテ乙第一乃至六號證ヲ提出シ甲一乃至四號證ハ認ムルモ立證方法ハ認メ
 スト申立タリ

理 由

本案ノ爭點ハ先ツ原告主張スル保險契約ハ被告會社ニ對シ有効ニ成立シタリヤ否ヤヲ判明スルヲ以
 テ緊要ナリトス凡保險契約ハ保險會社ノ規則ニ從ヒ之ヲ締結セラレタルモノト推測ス可キヲ以テ原
 告先代日野利三郎カ保險申込ヲ爲スニ當リ該會社ノ規則ヲ熟知シタルモノト看做ササルヲ得ス然リ
 而シテ乙四號證即該會社保險規則第十三條ニ依レハ(當會社ヨリ保險契約ヲ承諾ス可キ旨通知ヲ受
 ケタル翌日ヨリ一週間以内ニ第一回保險料ヲ拂込ム可シ)トアリ又甲第三號證即前同規則第十四條
 ニ(保險契約ハ當會社カ第一回保險料ヲ領收シタルキヲ以テ成立スルモノトス)トアルヲ以テ觀レ
 ハ第十四條ニ云ヘル第一回保險料トハ即チ其前條ナル第十三條ヲ受ケタルモノニシテ第一回保險料
 トハ該會社ヨリ保險契約承諾ノ通知ニ因リ拂込ミタルモノト解釋セサルヲ得ス而原告請求ニ依リ呼
 出タル證人鹿田延次郎ヲ參考トシテ訊問シタル其陳述ニ依レハ(日野利三郎ヨリ保險申込ノ際本社
 ノ承諾ヲ經タル上ニアラサレハ契約ハ爲シ難キ旨ヲ申聞ケ同人ノ依頼ニ付甲二號證ノ如ク金圓ヲ受
 取其領收書ヲ渡シタルモ保險契約ハ未タ成立セス)トノ趣旨ヲ以テ申立タリ之ヲ前掲ノ規則ニ參照
 スレハ本社ノ承諾ナキ以上ハ保險契約ハ成立セスト云被告ノ供述ハ事實ナリト信スルニ足ル而原告
 カ立證スル甲號證ハ孰レモ上來ニ認ムル事實ノ反證トスルニ足ラス其他原告ハ大阪出張所員ハ被告
 本社ノ承認ヲ待タス直接ニ保險契約ヲ締結シ得可キ權限ヲ有シタリト認ムルニ足ル可キ證憑若クハ

他ニ之レカ類例等ヲモ舉ケサルヲ以テ原告主張ノ如ク果シテ大阪出張所員ハ直接ニ保險契約ヲ爲シ得可キ權限ヲ有スルモノト認ムルコトヲ得サルナリ由是觀之被保人タル日野利三郎カ大阪出張所員ニ對シ甲二號證ノ如ク第一回分保險料トシテ支拂ヒタリトスルモ被告會社ニ對シテハ未タ保險契約ノ成立セサルモノト論斷セサルヲ得ス故ニ保險金請求ノ權利其發生セサルヤ言フ俟タサルナリ前來ノ說明ヲ以テ適切ナリトスルニヨリ其他ノ爭點ハ別ニ說明ヲ與ヘス

右之理由ニ依リ主文ノ如ク判決ス

明治三十二年二月七日於
名古屋地方裁判所民事部

裁判長判事 藤田兼江

判事 久徳知禮

判事 森島彌四郎

(廿三) 日野友太郎對眞宗生命保險株式會社事件(控訴)

判決要旨

甲 出張所員ト雖トモ會社名義ノ第一回保險料領收證ヲ保險契約者ニ交付シタルトキハ契約ハ成立セルモノト見做ス
乙 契約ノ際已ニ治愈シタル心臟病ノ如キハ既往ノ著患ト云フヲ得ス

判決正本

大阪市南區心齋橋筋一丁目百十一番邸
七日野利三郎相續人

愛知縣名古屋市長町百四十一番戶
被控訴人

控訴人 日野友太郎

眞宗生命保險會社

右法定代理人 日野リヨウ

右代表者事務取締役 加藤喜右衛門

右訴訟代理人辯護士 梅田壯二

右訴訟代理人辯護士 美濃部貞亮

右當事者間ノ保險金支拂請求事件ニ付名古屋地方裁判所ノ判決ニ對スル控訴審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

原判決ヲ廢棄ス

被控訴人ハ控訴人ニ對シ保險金壹千圓ヲ支拂フ可シ

訴訟費用ハ第一二審共被控訴人ノ負擔トス

事實

控訴代理人ハ主文ニ掲タル如キ判決ヲ求ムル旨被控訴代理人ハ本案控訴ハ棄却ストノ判決ヲ求ムル旨各一定ノ申立ヲ爲シタリ而シテ各事實上ノ演述ハ原判決ニ揭示スル處ト全一ナルヲ以テ茲ニ引用ス

理由

第一控訴人先代カ被控訴會社ニ對シ保險契約ノ申込ヲ爲シ其社員ナル鹿田延次郎及診查醫員與藤虎
 之カ控訴人方ニ臨ミ虎之ハ控訴人先代ノ身体ヲ診查シ尋常保險契約ヲ爲スヲ得ルモノト認メタルコ
 ト控訴人先代カ乙第一號證ノ生命保險申込證書ヲ被控訴會社ヘ差出シ現ニ全會社カ保有スルコト控訴
 人先代ヨリ右延次郎ニ對シ第一回ノ保險料トシテ金四圓四拾九錢ヲ交付シタル事實アルコトハ當事
 者双方ニ於テ爭ヒナキ所ナリ被控訴代理人ハ此事實ニ對シ第一審裁判所ニ於テ參考ノ爲メ訊問シタ
 ル鹿田延次郎ノ陳述ヲ援用シ且乙第二號證ノ一ノ附箋全證ノ二乙第三號證等ニ因リ鹿田延次郎ハ本
 社ノ承諾ヲ經タル上契約スル等ニテ假リニ保險料ヲ預リ置キタル事實ニシテ且全人ハ保險契約ヲ爲
 ス權能ナキモノナリト主張スト雖トモ乙第二號證一ノ附箋全證二乙第三號證ハ被控訴會社役員及醫
 師等カ控訴人ニ關係ナク作成シタルモノニシテ信用スルニ足ラス又鹿田延次郎ハ現ニ本訴ニ利害ノ
 關係ヲ有スル者ナレハ其陳述ハ俄ニ信用スルヲ得サルノミナラス甲第二號證ヲ閱スルニ一金四圓四
 拾九錢右被保人日野利三郎殿ノ尋常終身生命保險金壹千圓ノ保險料正ニ受取候也明治三十年十二月
 二十九日眞宗生命保險株式會社保險契約人日野利三郎殿ト記シ在リ果シテ全人ノ陳述スル如キ事實
 トスレハ如是文詞ノ領收證ヲ交附スヘキ謂ハレナキヲ以テ此陳述ハ採用セス而シテ前記ノ事實ヲ被
 控訴代理人ノ自供スル鹿田延次郎カ保險契約成立セシ場合ニハ保險金ヲ受取ル場合ニハ甲第二號證
 ノ如キ領收證ヲ出スヘキ者ナリトノ事實ニ參照シ右延次郎ハ本社ノ承諾ヲ得其權能内ニ於テ被控訴

先代ト保險ノ契約ヲ爲シ第一回拂込金トシテ四圓四拾九錢ヲ領收シタルモノト認定ス
 第二被控訴代理人ハ假令保險契約ヲ爲シタル事實アリトスルモ控訴人先代ハ乙第五六號證ノ如ク明
 治三十年七月頃既ニ心臟病ニ罹リタルコト在ルニ拘ハラヌ乙第一號證ノ如ク之ヲ隱蔽シ契約ヲ爲シ
 タルモノナレハ無効ナリト論スレ共控訴人先代カ契約申込ノ當時健康ナリシコトハ乙第二號證ニ因
 テ明カニシテ「控訴代理人ニ於テモ又強テ爭ハサル處ナリ」而シテ既往ノ病歴ノ如キハ細大漏スナ
 ク保險申込人ニ於テ表明スヘキ責アルモノニ非サルコトハ乙第一號證中ニ廿二被保人既往著シキ疾
 病云々ト在ルニ因テモ明カナリ故ニ果シテ被控訴代理人ノ主張スル如ク控訴人先代カ乙第五、六號
 證ニ記スル如キ疾病ニ罹リタルコト在リトスルモ斯ハ右ニ所謂著シキ疾病ト認メ難キノミナラス控
 訴人先代カ惡意ヲ以テ故サラニ之ヲ隱蔽シタルモノト認ムルヲ得ス
 然ラハ則チ被控訴會社ハ控訴人ニ對シ保險金壹千圓ヲ支拂フヘキ義務アルコト勿論ナルニ原判決ニ
 於テ控訴人ノ請求ヲ却下シタルハ失當ニシテ本件控訴ハ其理由アルヲ以テ主文ノ如ク判決ス

明治三十二年五月廿五日

名古屋控訴院民事部

裁判長判事 村上 方

判事 山田 豊 作

判事 中山 松 藏

判事 不破 清 誓

判事 河 島 臺 藏

(廿四) 日野友太郎對朝日生命保險株式會社事件(上告)

(備考 朝日生命ハ眞宗生命ノ改稱シタルモノナリ)

判決正本

京都市下京區六角通數馬町西入大馬町二十二番戶
元眞宗生命保險株式會社

大阪市南區心齋橋筋二丁目百十一番邸
日野利三郎相續人

上告人 朝日生命保險株式會社
右法定代理人
同社取締役

被告 日野友太郎
右法定代理人 日野リヨウ

右訴訟代理人辯護士

吉田 佐吉
小出 鈿太郎

右當事者間ノ保險金支拂請求事件ニ付名古屋控訴院カ明治三十二年五月二十五日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告趣旨ノ第一ハ原院ハ判決ノ理由ヲ二段ニ分チ其第一段ニ於テ上告人カ上告人主張ノ事實ヲ立證スル爲メ引用シタル乙第二號證等ヲ排斥シ其排斥ノ理由トシテ乙第二號證一ノ付箋同證二乙第三號證ハ被控訴會社(上告人)役員及醫師等カ控訴人(被告)ニ關係ナク作成シタルモノニシテ信用ス

ルニ足ラス)ト説明シナカラ其第二段ニ於テ被告主張ノ事實ヲ維持スルカ爲メニハ之ヲ引用シテ「控訴人(被告)先代カ契約ノ申込ノ當時健康ナリシコトハ乙第二號證ニ因テ明カニシテ云々」ト説明セルハ前後趣旨ヲ一貫セサル理由ノ齟齬ナリト云ハサルヘカラス即チ此點ニ於テ原院判決ハ結局理由付ヲセサル判決ト云フヘク又不法ニ事實ヲ確定シタルモノト云ハサルヘカラスト云フニ在リ」然レ共乙第二號證一ナル本紙ハ上告會社ノ診查醫員與藤虎之カ保險申込人日野利三郎ヲ診查シタル報狀ニシテ其付箋ハ之ヲ領收シタル後ニ於テ上告會社ノ當該役員カ作製貼付シタルモノナルコトハ訴訟記録ニ徴シテ明確ノ事實ナリ然レハ則チ原院カ其付箋ヲ採用セスシテ本紙ヲ採用シテ判斷ノ資料ニ供スルモ毫モ理由ノ齟齬アルモノニ非ラス故ニ本論旨ハ歸スル所原院ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨ヲ非難スルモノニシテ上告ト理由トナラス

上告趣旨ノ第二ハ原院判決カ其二段中「控訴人先代カ契約申込ノ當時健康ナリシコトハ乙第二號證ニ因テ明カニシテ控訴代理人ニ於テモ又強テ爭ハサル所ナリ」ト説明シ上告人カ健康ノ事實ヲ認メタルカ如ク事實ヲ確定シタルモ上告人ニ於テ之ヲ爭ヒ居タルコトハ原院辯論調書乙第二號證ノ説明部ニ「控訴答辯書記載ノ通り申立」トアリ而シテ控訴答辯書中乙二號證ノ立證方法ヲ記スル部ノ終リヲ參照スルルハ明カナリ去レハ此點ニ於テ原院判決ハ不當ニ事實ヲ確定シタル缺點アリトスト云ニ在リ然レトモ控訴答辯書乙二號證ノ説明末文ニハ唯小倉開治カ報狀ニ疑アリトシ調査ヲ注意シタルコト

ヲ證ストアルニ止リ其他訴訟記録中上告人カ明ニ日野利三郎ノ保險申込當時既ニ疾病ニ罹リタル旨ヲ主張シタル事跡存スルコトナク其專ハラ主張シタル所ハ利三郎カ往時心臟病ニ罹リタル病歴ヲ隱蔽シタルト云ヘルニ在リシコトハ訴訟記録ニ依リテ明ナリ然レハ則原判決「控訴人先代カ契約申込ノ當時健康ナリシコトハ云々控訴代理人（被控訴代理人ノ誤記ナルヘシ）」ニ於テモ又強テ争ハサル所ナリト判示シタルモ不當ニ事實ヲ確定シタルモノト云フヲ得ス故ニ本論旨モ亦理由ナシ

上告趣旨ノ第三ハ上告人ハ第一審以來本件被上告人先代ノ保險申込ニ對シ未タ承諾ヲ與ヘタルコトナキヲ以テ保險契約ノ成立シタルモノニ非ラスト論争シ乙第四號證ヲ以テ立證セリ原院ハ此點ニ付何等ノ説明ヲ與ヘヌ又被上告人ヨリ其反證ヲ舉ケサルニ拘ハラヌ契約成立シタルモノ、如ク判決シタルハ即爭點ニ關シ判決セサルノミナラス證據ニ關スル法則ニ違背シタル不法ノ判決ナリトスト云フニ在リ

然レトモ原判決ハ其理由ノ前段ニ於テ鹿田延次郎カ上告會社ノ承諾ヲ得其權能内ニ於テ日野利三郎ト保險契約ヲ締結シタル理由ヲ明示シ即爭點ヲ判斷シタルコト毫モ疑ヲ容レヌ且裁判所ハ其裁判ノ根據トスル理由ヲ明示スルニ於テハ其採用セサル證據方法ニ付テハ必シモ排斥ノ理由ヲ附スルヲ要セサルモノトス故ニ本論旨モ亦上告ノ理由トナラス

上告趣旨ノ第四ハ又上告人ハ鹿田延次郎ハ自カラ保險契約ヲ締結スルノ權能ナキコトヲ主張セリ然ルニ原院ニ於テハ「延次郎ハ本社ノ承諾ヲ得其權能内ニ於テ被控訴先代ト保險ノ契約ヲ爲シ」云々ト認定セラレタリコト認定ハ甲第二號證ト被控訴代理人ノ自供ニ基ツキタルカ如シト雖モ甲第二號證ハ鹿田延次郎カ被上告人先代ヨリ保險申込ノトキニ發シタルモノニシテ而モ其依頼ニ應シ假ニ預リ置タル書而ナルヲ以テ上告人ノ承諾ヲ得ルノ時間ナク又代理人ハ保險契約成立以後ノ場合ヲ陳述シタルニ過キサレハ是ヲ以テ鹿田延次郎カ上告人ヲ代表シ保險ノ契約ヲ爲シタルモノト云フ能ハス果シテ然ラハ原院ニ於テ如此認定ヲ下スニ付テハ確然タル理由ヲ明示セサルヘカラス若シ鹿田延次郎カ豫テ保險契約ノ權能ヲ與ヘラレシモノトセンカ是又宜シク其事實理由ヲアケ以テ本件ノ保險契約ノ有効ニ成立シタルコトヲ判示セサルヘカラス是等ノ事實理由ヲ明示セス直チニ鹿田延次郎ハ本社ノ承諾ヲ得其權能内ニ於テ保險契約ヲ爲シタルト判定シタルハ即チ不當ニ事實ヲ認定シ且理由ヲ付セサル不法ノ判決ナリトスト云フニ在リ然レ共原判決ハ甲第二號證ノ文詞ト保險契約成立セシ場合ニ於テ鹿田延次郎カ保險料ヲ領收スル權能アルコト並ニ其場合ニ於テハ甲第二號證ノ如キ領收證ヲ交付スルコトハ上告人ノ自供シタルコトヲ理由トシテ延次郎カ本訴ノ保險ニ付テハ契約締結ノ權能ヲ有シタルモノト判斷シタルコトハ原判決理由ノ前段ニ明示シアルヲ以テ本論旨ハ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル證據ノ解釋取捨ヲ非難スルニ過キスシテ上告ノ理由トナラス上告趣旨ノ第五ハ被上告人先代カ自己ノ身体ニ重症ヲ患ヘ危險ノ發生シ居ルコトヲ確知セシコトハ瞭然タル事實ナル

ヲ以テ其保險申込ノ時ニ於テ明カニ之ヲ告ケサルハ即惡意ヲ以テ事實ヲ隱蔽シタルモノト推定スヘキハ當然ナリ然ルニ被上告人ニ於テ其先代カ之ヲ告知セザリシハ惡意又ハ重過失ニアラザリシコトヲ立證セサルニモ拘ハラヌ極ク「控訴人先代カ惡意ヲ以テ故ラニ之ヲ隱蔽シタルモノト認メ難シト判定シタルハ證據ニ關スル法則ヲ適用セサル不法ノ判決ナリトスト云フニ在リ

然レ共原判決ニハ被上告人ノ先代カ乙第五六號證ニ記スル如キ疾病ニ罹リタルコトアリトスルモ其病患ハ上告會社ニ告知スルヲ要スルモノ即乙第一號證ニ所謂著シキ疾病ト云フニ足ラザリシモノト事實ヲ認定シ且其病患ヲ告知セザリシハ惡意ヲ以テ隱蔽シタル事實ヲ認メ難キ旨ヲ判示シタリ然レハ則チ被上告人先代ニ未タ告知ノ義務生シタル場合ニアラサルヲ以テ其惡意ニアラサル事實ヲ立證スル責ナキヤ明カナリ故ニ本論旨ハ徒ニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ判斷ヲ非難スルニ外ナラスシテ上告ノ理由トナラヌ

右ノ理由ナルヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條初項ノ規定ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

明治三十二年十二月廿七日

大審院第一民事部

裁判長判事 南 部 甕 男 判事 井 上 正 一 判事 岡 村 爲 藏
判事 今 村 信 行 判事 和 田 收 藏 判事 掛 下 重 次 郎

判事 志 方 鏡

附 言

日野友太郎對眞宗(朝日)生命保險株式會社事件ハ第一審ニ於テハ保險者ノ使用人カ契約即決ノ權限ヲ有スルヤ否ヤノ爭ナリシカ第二審ニ於テハ保險者ハ之ニ加フルニ既往症隱蔽ヲ以テセリ前者ニ付テハ寧ロ證據ノ爭ニシテ保險會社ノ名義ヲ以テ發行シタル第一回保險料領收證カ正當ナルモノナラハ之カ契約者ノ手ニ在ル以上ハ保險者ハ其使用人ノ證言又ハ保險規則中ノ規定ヲ以テ之ニ對抗スルヲ得サルナリ何トナレハ使用人ノ證言ハ效力無ク又「當會社ヨリ契約承諾ノ通知云々」ト云フ當會社トハ決シテ「會社ノ本店ヨリ書面ヲ以テ直接ニ云々」ト解釋セラルヘキモノニアラス社名ノ記載セラレタル第一回保險料領收書ハ會社カ契約ヲ承諾シタル證據ト見做サレサルヘカラサレハナリ然レトモ該領收證カ果シテ正當ノモノナルヤ否ヤハ畢竟之ヲ保險契約者ニ交付シタル社員ノ權限如何ニ因リテ別ルヘキモノニシテ之ヲ判別セシテ單ニ社名アル領收證ノ所持ノミヲ以テ保險契約者ノ權利ヲ認メタル第二審判決ハ第一審裁判所カ社員ノ陳述ヲ信シタルト同シク聊輕卒ナルノ誹ヲ免レサルヘシ但シ通常保險會社カ其出張店ヘ社名印章ヲ捺シタル領收證用紙ヲ交付シ置キタル場合ハ其出張店ヲ主ル社員ニ即決ノ權限ヲ委任シタルモノト見做サ、ルヘカラサルナリ

(廿五) 尾野定治郎對佛教生命保險株式會社事件(始審)

判決要旨

保險者カ被保險者ノ身体ニ異狀アルヲ知リツ、契約シタルトキハ被保險者ノ不陳ニ拘ハラズ之ニ對スル責任ヲ負フ

判決正本

福井縣越前國敦賀郡敦賀町神樂六十三番地平民古物商

原告 尾野定治郎

京都市上京區御幸町三條上ル丸屋町二十四番戶

被告 佛教生命保險株式會社

右會社取締役社長 一 柳末徳

京都地方裁判所所屬辯護士

右訴訟代理人 阿部直秀

右當時者間明治三十二年(九)第九〇號保險金支拂請求事件審理判決スルコト左ノ如シ

被告ハ金貳百圓ヲ原告ニ支拂フ可シ

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事實

原告一定ノ申立ハ被告ヨリ金貳百圓ノ支拂ヲ受度其事實ハ原告ノ實父尾野和吉ハ明治三十年六月十五日自己ヲ被保人トシ原告ヲ保險金受取人ニ定メ被告會社ト尋常終身生命保險契約ヲ爲シ同日壹ケ

年保險料金拾壹圓參拾六錢ヲ拂込ミタル處被保人和吉ハ明治三十年十一月一日死亡シタルヲ以テ原告ハ被告ニ對シ契約ニ定ムル保險金貳百圓ノ支拂ヲ求ムルモ被告ハ保險契約人ナル和吉ハ身体診査ノ際已ニ慢性尿毒症性ノ病症アルニ拘ラズ之ヲ隱蔽シ虛偽ノ陳述ヲ以テ診査醫ヲ欺キ保險契約ヲ爲シタルモノニシテ和吉ノ死因ハ右隱蔽病ニ基因スルカ故ニ支拂ノ義務ナシト稱シ之ヲ拒絕スレトモ和吉ハ身体診査ノ節診査醫ニ對シ年齢二十五歳ノ頃痲疾ニ罹リタルコトアリタレトモ三十日ニシテ治シ爾後再發セシコトモアリト明言シ決シテ隱蔽シタルコトナシト主張シ甲第一號乃至第五號ヲ提出立證シ乙第一號書面ヲ認メ立證趣旨ヲ否認シ同第二號ヲ認メタリ

被告一定ノ申立ハ原告ノ請求ヲ棄却セラレ度其事實ハ被告會社ハ原告ヲ保險金受取人トシ原告ノ父和吉ト金貳百圓ノ尋常終身生命保險契約ヲ爲シタルニ相違ナキモ和吉ハ契約ノ際慢性尿毒症性ノ病症アルヲ隱蔽シ診査醫ヲ欺キ風邪ニ罹リタル外著シキ病ニ罹リタルコトナシト虛偽ノ陳述ヲ爲シ被告會社ハ其言ヲ信シ和吉ト保險契約ヲ締結セリ然ルニ和吉ハ右隱蔽セル尿毒症病カ原因トナリ死亡シタルヲ以テ被告ハ保險金支拂ノ義務ナシト抗辯シ乙第二號ヲ提出立證シ甲第一號乃至三號同第五號ヲ認メ甲第四號ヲ否認セリ

理由

被告ハ保險契約人尾野和吉カ契約ノ際尿毒症病ヲ隱蔽シ同人カ死亡ハ其病症ニ原因スルヲ以テ保險金

支拂ノ義務ナシト主張スレトモ甲第五號證中痲病ハ二十五歳ノ比罹リタレ卅三十日ニテ治シ爾後一回再發セシモ現今ハ全治セリトアルニ依レハ保險契約人和吉ハ診査醫ニ對シ會テ痲疾症ニ罹リタルコトアリト述ヘ被告會社ニ於テモ該證診査ノ結果ヲ見テ契約スヘキモノニシテ一片ノ申込書ヲ信シ直チニ契約スルモノニアラサレハ假令ヒ乙第一號保險申込書ニ同病ノ記載ナキモ被告會社ハ契約ノ當時其病アル身体ナルコトヲ知リテ和吉ノ生命ヲ保險シタルモノト認メサルヲ得ス故ニ被保險人尾野和吉ハ隱蔽又ハ虛偽ノ陳述ナキハ勿論保險契約上毫無瑕疵アルコトナシ然ルニ被告カ甲第三號ノ如ク被保險者タル和吉カ痲疾症アルコトヲ隱蔽シ虛偽ノ陳述ヲナシタリトノ口實ヲ以テ契約ノ保險金支拂ヲ拒ムハ甚タ謂ハレナキ行爲ニシテ被告ノ主張ハ採用スルニ由ナシ因テ主文ノ如ク判決ス

明治三十二年三月十八日

京都地方裁判所民事部

裁判長判事 堀 榮 一

判事 若 林 秀 溪

判事 小 野 寛

附 言

本判決ノ論理ハ正當ナリト雖トモ事實ノ認定ハ誤レリ被保險者壯時ノ既往症ヲ陳述シタリトテ之ニ因リテ保險者カ其現在症ヲモ發見シ得タリト認定スルハ不當甚シキモノナリ故ニ第二審ニ於テ之ヲ

變更シタルハ當然ナリトス

(廿六) 尾野定治郎對佛教生命保險株式會社事件(控訴)

判決要旨

保險契約ノ當時被保險者其現存病狀ヲ隱蔽シタルトキハ該契約ハ無効トス

判決正本

京都市上京區御幸町三條上ル丸屋町二十四番戶

福井縣敦賀郡敦賀町大字神樂六十三番地平民古物商

控訴人 佛教生命保險株式會社

被控訴人 尾 野 定 治 郎

代表者取締役社長

一 柳 末 德

右訴訟代理人辯護士

阿 柳 直 秀

右當事者間ノ保險金支拂請求ノ控訴判決スル左ノ如シ

第一審判決ヲ左ノ如ク變更ス

被控訴人ノ請求ヲ棄却ス

訴訟費用ハ第一二審共總テ被控訴人ノ負擔トス

事實及理由

控訴代理人ハ第一審判決全部ヲ廢棄シ被控訴人ノ請求不相立トノ判決アリ度旨被控訴人ハ控訴棄却

ノ判決アリ度旨各一定ノ申立ヲ爲シ双方事實ノ供述ハ第一審判決ノ摘示ノモノト同一トス
 被控訴人カ其成立ヲ認ムルニ第二號第三號證ニ依レハ被保人亡尾野和吉ノ死亡ノ原因タル心臟麻痺
 ハ尿毒症ノ結果ナリ而シテ其尿毒症ハ慢性的性質ノモノニシテ壯時淋疾ニ罹リタル時尿道狹窄症ヲ
 貽シ爾來排尿ニ際シ尿線細小鬱滯殘留ノ感覺アリ常ニ膀胱及輸尿管ノ全路ニ於テ不快ノ感ヲ存セリ
 トアリ此記載事實ハ充分信認スルニ足ルモノニシテ之レニ依レハ和吉カ保險申込ヲ爲ス當時ニ於テ
 業既ニ病的自覺アリシコトハ疑フヘカラサル事實トス然ルニ乙第五號及甲第五號證ニ依レハ和吉ハ
 其病狀ヲ控訴會社若クハ其診察醫員ニ告知セサルノミナラス其身體ノ景狀ヲ告知スルニ當リ或ハ風
 邪ノ外著シキ病ニ罹リシコトナシト云ヒ或ハ壯時淋疾ニ罹リタレトモ現今ハ全治セリト云ヘル陳供
 ニ依レハ故ラニ其現存病狀ヲ隱蔽シタルモノト認定セサル可ラス斯ク認定スル以上ハ控訴會社カ乙
 第一號證ノ明約ニ基キ保險金ノ支拂ヲ拒絕シタルハ至當ニシテ控訴ハ其理由アルモノトス因テ主文
 ノ如ク判決ス

明治三十二年六月十日

大阪控訴院民事第三部

裁判長判事 深野 達 判事 遠山 正綱 判事 田中 享
 判事 谷村 甚吉 判事 柳田 教彦

(廿七) 中井ユウ對眞宗生命保險株式會社事件(始審)

判決要旨

被保險者ノ既往ニ於テ肺患ニ罹リシモ其肺病タリシコトヲ充分ニ了解セスシテ保險契約ヲ締
 結シタルヲ以テ該契約ハ有效ナリ

判決正本

愛知縣名古屋市長坂町六十八番戶
 寄留士族 原告 中井 ユウ

全縣全市榮町百四十七番戶
 眞宗生命保險株式會社事務取扱役 被告 加藤 喜右衛門

右訴訟代理人辯護士 天野 景治 右訴訟代理人辯護士 美濃 部 貞亮

右當事者間生命保險金請求事件ニ付判決スル左ノ如シ

纏ニ言渡シタル欠席判決ハ之ヲ廢棄ス

被告ハ原告ヘ金百圓ヲ支拂フ可シ

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス但シ欠席ニ依リ生シタル分ハ原告ノ負擔トス

事實

原告訴訟代理人ハ被告ニ對シ金百圓ヲ請求スト申立テ其演述セル要旨ハ原告ノ亡夫中井鐵五郎ハ自
 己ヲ被保人ニ原告ヲ 保險金受取人トシ明治二十九年十一月八日被告會社ト金百圓ノ生命保險契約

ヲ結ヒタリ然ルニ同人ハ明治三十一年八月二十八日死亡セリ依テ原告ヨリ其保險金百圓ヲ請求スルモ應セサルニ付本訴ニ及フト申立テ被告訴訟代理人ハ原告請求ノ却下ヲ求ムト申立テ其演述セル要旨ハ被告會社ハ原告申立ノ如ク保險契約ヲ締結シタルコト相違ナシト雖原告ノ亡夫鐵五郎ハ明治二十七年中第三師團陸軍一等看護長奉職中ナリシカ肺結核ヲ患ヒ同年六月中陸軍衛戍病院ニ入院治療食ヲ加ヘタレトモ全愈セス爲ニ間モナク職務ニ堪ヘサルモノトシテ免役セラレタルモノナリ然ルニ保險契約ノ當時其申込書并ニ診査醫ニ對シ以上ノ事實ヲ欺隱シタルモノナレハ保險契約ハ無効ナルヲ以テ其請求ニ應スル能ハスト申立テタリ

理 由

本訴ノ争點ハ原告ノ亡夫中井鐵五郎カ保險申込ノ際會テ著シキ病患ニ罹リシコトヲ知リナカラ會社及ビ其醫員ニ對シ欺隱シタル事實アルヤ否ヤニアリ乙四號證乙六號證及ヒ鑑定人川原汎ノ鑑定書ニ依レハ鐵五郎カ明治二十七年七八月中肺結核症ヲ患ヒタル事及ヒ之カ爲メ陸軍服役免除トナリタルコトハ之ヲ認ムルヲ得ヘシ然レモ凡ソ病症ニハ輕重大小ノ差アリ單ニ病名ニ依リ重大ナル疾患ナリト斷言スル能ハヌ又重大ナル病症ヲ患ヒタルモノハ常ニ之ヲ自覺シタルモノナリト確定スル能ハサルハ之ヲ喋々ヲ要セス本訴鐵五郎ハ陸軍一等看護長奉職中明治二十七年六月二十九日名古屋衛戍

病院ニ氣管支出血ナル病名ニテ入院シ其後三週間位ヲ經テ病勢緩解シ打診音上變化ヲ見サルニ至リタルコト乙四號證ノ病床日誌末段記載ノ如ケレハ證人被告會社ノ診査醫師タリシ小倉開治ノ陳述ノ如ク病症輕微ナリト認メサルヲ得ヌ若輕微ナラストセン乎其後二年ヲ經テ本案ノ保險契約ヲ結フニ當リ被告會社ノ醫員カ鐵五郎ヲ診査シタル際乙三號證ノ如ク胸廓ノ構造佳良打診聽診共ニ異常ナク肺ノ活量三、〇〇〇ニ達シ本人健康ノ度上ノ上ヲ呈スル等ナシ而シテ鐵五郎カ氣管支出血ノ病タルヲ以テ入院スルヤ病中別ニ精神人事不省ニ陥リタルコトナク醫師ヨリ病症ノ經過并ニ容体ヲ知ラシメラレス醫師モ亦患者ヲシテ安全セシムル爲メ秘藏セシコト乙四號證ナル病床日誌等ハ本人ニ示サトリシコトハ主治醫タリシ證人田中彌太郎ノ陳述ノ如ケレハ鐵五郎ハ病症ノ真相ヲ覺知セサリシモノト認ムルヲ得ヘシ乙第六號證ノ如キハ鐵五郎ノ干與シタルニアラサレハ同人カ之ヲ認知シタリト斷定スルヲ得ヌ但シ病患ニ罹リタルカ爲メ免役セラレタル事ハ本人ノ熟知シ居ル處ナランモ軍役ニ服スルモノハ通常ノ健康ヲ以テ足レリトセス強健中ノ強健ヲ擇ハサル可ラサレハ病後服役ニ堪ヘサルモノトシテ免役セラレタル事實ヲ以テ直ニ鐵五郎カ疾患ノ重大ナルヲ自覺シタリト認ムルヲ得ヌ又鐵五郎ハ乙四號證ノ病中時々咯血セシコト同證ニ依リ認ムルヲ得ヘシト雖モ咯血ハ肺ノ損傷ニ原因スルアリ氣管支ノ損傷ニ原因スルコトアリ故ニ咯血ノ事ヲ以テ直ニ肺患ナリト斷定スル能ハサルコト證人小倉開治ノ陳述ノ如ケレハ此點ヲ以テ鐵五郎カ肺患タリシコトヲ自覺シタリト認ム

ルヲ得ス之ヲ要スルニ鐵五郎ノ病氣自体ハ重症ニアラスシテ本人ハ其真相ヲ解セザリシモノト認ムルヲ得ルコト前段説明ノ如クレハ同人カ本件ノ保險申込ノ際被告會社及ヒ其診查醫ニ對シ之ヲ告ケザリシハ本人カ之ヲ以テ著シキ疾患ナリシト解セザリシニ因ルモノト認メサルヲ得ス果シテ然ラハ當事者ノ保險契約ハ有效ト斷定セサル可ラサルヲ以テ主文ノ如ク判決ス

明治三十二年四月七日

名古屋區裁判所

判事 大場 茂 馬

(廿八) 中井ユウ對眞宗生命保險株式會社事件(控訴)

判決要旨

保險契約ノ當時被保險者カ既往ノ肺病ヲ隠蔽シタルヲ以テ契約ハ無効ナリ

判決正本

京都府京都市下京區六角通鉄屋町西入大黒町二十二番戸

控訴人 眞宗生命保險株式會社

右代表者同社取締役社長

愛知縣名古屋市長稅町六十八番戸寄留士族

被控訴人 中 井 ユ ウ

右訴訟代理人名古屋地方裁判所

廣岡 久右衛門

所屬辯護士 天 野 景 治

右訴訟代理人名古屋地方裁判所

所屬辯護士 美 濃 部 貞 亮

右當事者間生命保險金請求控訴事件本裁判所ハ左ノ如ク判決ス

判決主文

明治三十二年四月七日名古屋區裁判所カ言渡シタル第一審判決中「被告ハ原告ヘ金百圓ヲ支拂フヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トス」ノ部分ヲ廢棄ス

被控訴人ノ請求相立タス

控訴費用及原判決ニ於テ控訴人ニ負擔セシメタル第一審ノ訴訟費用ハ共ニ被控訴人ノ負擔トス

事實理由

當事者カ申立タル事實ノ要旨ハ第一審判決ニ同シキヲ以テ民事訴訟法第四百三十條ニ因リ之ヲ引用ス而シテ控訴人ハ第一審判決ヲ前記主文ノ如ク廢棄シ更ニ被控訴人ノ請求ヲ棄却ストノ判決アリタシト申立テ被控訴人ハ本件控訴ハ之ヲ棄却ストノ判決アリタシト申立タリ
當事者論争ノ要旨ハ被控訴人ノ亡夫中井鐵五郎カ控訴會社ト保險契約ヲナス際骨ヲ著シキ疾病ニ罹リシコトヲ知リナカラ之ヲ隠蔽シテ控訴會社及其醫員ニ告知セザリシヤ否ヤニアリ而シテ此知リナカラ隠蔽シタル事實アリトセハ保險契約ハ無効ニ歸シ被控訴人ニ保險金ノ請求權ナシトスヘキコト

ハ乙一號生命保險申込書及乙六號控訴會社保險規則ニ因リ疑ナシト認ム仍テ右等點ノ事實ヲ審按スルニ先ツ乙一號亡鐵五郎ノ生命保險申込書ニ因レハ「被保人既往著シキ疾病ハナシ」トアルニ係ハラス乙七號證ニ因レハ同人カ既往即明治廿七年中著シキ疾病ニ罹リ且之ヲ知リ居リタルモノナリト認メサルヲ得ス何トナレハ該證ニ因レハ亡鐵五郎ハ同年五月廿八日陸軍看護長奉職中俄然大咯血ヲ來タシ爾後小咯血ヲ持續スル十數日体温異常營養衰弱筋肉羸瘦同年六月廿九日名古屋衛戍病院入療咯血猶止マヌ七月廿一日事故ニ依リ退院自宅加養咳嗽ニ血痰ヲ交ヘ膿樣痰ヲ咯出シ時々咯血ヲ來タシ食思不良腹部按壓ニ依テ微痛ヲ發シ下痢一日二三行体温異常等肺慢性結核病ニテ永久服役ニ堪ヘサル者トシテ兵役ヲ免除セラレタル者ニシテ乙四號證ニ因ルモ退院前ノ病狀ニ付キ同一ノ記載アリ此ノ如キ病狀ハ決シテ輕微ノ病狀ニ非ス寔ニ以テ著シキ疾患ナリト認ムヘキモノナレハ亡鐵五郎ニ於テ病症ノ肺病ナリシヤ否ヲ知ラザリシトスルモ斯ノ如ク五月ヨリ八月ニ至ル間前記ノ如キ病狀ニ在リ或ハ入院シ或ハ自宅加療シ結局其爲メニ兵役ヲ免除セラル、ニ至リタルノ事實ハ之ヲ自覺セザル等ナク而シテ事實ヲ自覺セシモノ也ト認メサルヲ得サレハナリ尙同號證即チ乙七號證ニ「病者遺傳素因ナシト雖モ其妻當時本病ニ罹レリト聞ク恐ラクハ之ヨリシテ結核菌ヲ傳染シタル者ナランカ」トアルヲ以テ見レハ看護長ヲモ奉職シ居リシ亡鐵五郎ハ其當時ノ病狀前記ノ如シトセハ其妻ニ肺患アリ自己モ之ニ傳染シタルモノナラント思惟シ居リシモノト推定スルニ足ル既ニ鐵五郎ニ於テ

著シキ疾病ニ罹リ且其病態ヲ自覺シ居リシモノトセハ假令保險ノ當時健康体ナリシトスルモ乙一號證ナル申込證書ニ相違ノ廉アルカ又ハ醫師ヘノ陳述ニ詐欺若クハ隱蔽ノ廉アルカ保險規則違背ノ所爲アラハ保險契約ハ無効ニ歸シ云々トアルヲ以テ保險契約ノ有效タランカ爲メニ既往ニ著シキ疾病ニ罹リシヨトヲ陳述スヘキ義務アリシトナササルヲ得ス從テ此點ニ付被控訴人カ著シキ疾患ト雖モ自告スルノ義務ナキモノナリトノ主張ハ之ヲ採用セス以上ノ理由ナルヲ以テ第一審判決カ控訴人ニ敗訴ヲ言渡シタルハ不當ナリト認メ主文ノ如ク判決セリ

明治三十二年十月四日

於名古屋地方裁判所民事二部

裁判長判事 榛葉彦三郎
判事 守 永 兵 治
判事 春 田 浩

附 言

本判決ハ至當ナリ此ノ如キ明白ニシテ有力ナル證據アルニモ拘ハラヌ第一審ニ於テ保險者ノ敗訴ニ歸シタルハ裁判官カ過度ニ被保險者ヲ信シテ不當ニ證據ノ認定ヲ爲シタルニ原因スト謂ハサルヘカラサルナリ

(廿九) 濱野市五郎對日宗生命保險株式會社事件(始審)

判決要旨

甲 保険料ノ拂込ヲ怠ルトキハ契約ハ無効ニ歸ス

乙 無効ニ歸シタル契約ノ繼續ニハ保險者ノ要求スル所ノ條件ヲ履行セサルヘカラス

丙 保険規則ニ定メタル手續ニ反シタル代理店ノ行爲ハ第三者ニ對シテ效力ナシ

判決正本

神奈川縣足柄下郡羽村前川四百二十三番地

東京市日本橋區橋本町十二番地

口號平民農源野久次郎事久藏七跡戸主

被告 日宗生命保險株式會社

原告 濱野市五郎

右會社社長事務取締役

右訴訟代理人辯護士

須原大助

右法律上代理人

川合芳次郎

右會社雇人被告

鈴木重隆

訴訟代理人

大坂義一

右當事者間ノ明治三十二年(ハ)第九三八號保險金請求事件ニ付テ判決スルコト左ノ如シ

原告カ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事實

原告一定ノ申立ハ被告會社ハ原告ニ對シ保險金百圓ヲ支拂フヘシトノ判決アリ度シト云ヒ其事實上ノ供述ハ原告先代久次郎事久藏ハ明治三十年八月二十五日被告會社ト金百圓ノ養老保險契約ヲ締結

シ該保險金受取ノ時期ハ原告先代カ五拾五歳ニ達スルカ若クハ死亡ノ際被告會社ヨリ原告先代或ハ其正當相續人ヘ支拂フ約ナリ而シテ原告先代ハ右契約締結後引續キ所定ノ保險料ヲ被告會社小田原代理店ヘ拂込ミ來リタルニ明治三十一年十月十三日午前九時肺結核ニテ病死シ原告ハ同年十二月二十六日其相續人トナリタリ依テ前契約ニ基キ被告會社小田原代理店ヲ經テ被告會社ニ係リ右保險金ノ支拂ヲ請求スルモ事ヲ左右ニ托シテ應セス不得已本訴ヲ提起シタル次第ナリト云フニ在リ立證トシテ甲第一號證乃至第六號證ヲ提出シタリ而シテ被告カ抗辯トスル保險規則第十四條第十六條第二十七條ノ契約ヲ締結シタルコトナキノミナラス被告ハ從來保險料拂込ノ猶豫ヲ獻諾シ三十日以上ノ延滞者ト雖トモ健康證明書及解怠料ヲ差出サシムルコトナクシテ契約ヲ繼續スルコトノ慣例アリ故ニ本件ニ於テ原告カ一時保險料支拂期日ヲ延滞シタリトテ此一事ヲ以テ直チニ契約ハ無効ニ歸シタリト云フコトヲ得スト陳辯シ其他被告カ主張ハ之ヲ否認シタリ
被告一定ノ申立ハ原告カ請求ヲ却下ストノ判決ヲ求ムト云ヒ其事實上ノ供述ハ被告會社ハ原告主張ノ如ク原告先代ト百圓ノ養老保險ノ契約ヲ締結シタルニ相違ナシ而シテ其契約ハ明治三十一年八月二十四日迄正當ニ成立シアリト雖トモ其後無効トナリタリ元來原告先代ハ被告會社カ保險規則ヲ熟知ノ上右契約ヲ取結ヒタルモノニシテ其第十四條ニ依レハ「保險料拂込延滞スルトキハ保險ハ無効ニ屬スト雖トモ延滞三十日以内ハ延滞利子トシテ拂込金ニ對シ日歩百分ノ四ヲ添ヘテ拂込ミタルト

キハ契約ヲ繼續スルコトヲ得其三十日ヲ過クルモ尙ホ爾後二ヶ月間ハ保險料ノ外保險金百圓ニ付キ
 金壹圓ノ懈怠料ヲ支拂ヒ被保險人健康證明書ヲ差出シ會社ニ於テ其身體毫モ異狀ナキモノト認ムル
 限リハ特ニ契約ヲ繼續スルコトヲ得」トノ規約ナ然リルニ原告先代ニ明治三十一年八月廿五日拂込
 ムヘキ保險料ヲ支拂ハサリシ爲メ延滞者トナリ從テ契約違反者トナリシカ同年十月十日被告會社小
 田原代理店事務取扱員カ所用ノ爲メ同地登記所ニ出頭中年齡廿四五才ノ姓名不詳ノ男子來リ原告先
 代ノ使者ナリト稱シ保險料ヲ支拂フ旨ヲ述ヘタルモ外出先ノ故ヲ以テ收納方ヲ謝絶シタルニ該使者
 ハ然ラハ假リニ金圓丈ケ預リ置キ吳レト懇請シタルニ付キ已ムナク一時之ヲ預リタリ而シテ其翌日
 頃再ヒ前ノ使者來リ改メテ保險料領收書ノ交付ヲ求メタルモ被告會社小田原代理店ハ原告先代カ延
 滞者ナルコトヲ帳簿上知リタルヲ以テ前記規則第十四條ニ則リ健康證明書及相當ノ懈怠料ヲ要スル
 旨ヲ告知シタルニ使者ハ歸村後直チニ送付スヘキニ付先ツ保險料丈ケヲ受取リ置キ吳レ度シト頼ミ
 タルカ故ニ其送付ヲ條件トシテ保險料ノミニ領收書ヲ交付シタリ然ル處其後右證明書及懈怠料ヲ送
 付セサルノミナラス同月十三日ニ至リ死亡ノ報ニ接シタリ此ノ如クニシテ原告先代ハ契約通り一定
 ノ條件ヲ履行セサリシ爲メ保險契約ハ無効ニ歸シタリ加之其當時ノ情況ニヨリ推察スルニ原告先代
 ハ業ニ死ニ瀕セルニ拘ハラス健康ノ情体ニアルカ如ク裝ヒ被告會社ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルモ
 ノニシテ同規則第二十七條ニ依リ旁々契約ハ無効ニナリタルモノナリ其他保險金ノ請求ニ關シ同規

則第十六條ニ記セルカ如キ手續ヲ履行セスシテ本訴ヲ提起シタルハ不當ナリト云フニ在リ立證トシ
 テ乙一號證乃至四號證ヲ提出シタリ

理由

原告ハ乙第二號證保險規則第十四條第十六條第二十七條ニ所定セルカ如キ契約ヲ締結シタルコトナ
 シト云フモ成立ニ爭ナキ乙第三號證ニ依レハ原告ハ右規則ヲ熟知ノ上被告會社ト該契約ヲ爲シタル
 コトヲ推定シ得ヘキヲ以テ此事項ニ對シ契約ヲ爲シタルコトナシトノ抗辯ハ之ヲ採用スルニ由ナキ
 モノトス而シテ原告先代カ明治三十一年八月二十五日被告會社ヘ拂込ムヘキ保險料ヲ延滞シ同年十
 月十日ニ於テ被告會社小田原代理店ヘ拂込ヲ爲シ同店ニ於テ之ヲ受取リタリトノ事實ハ當事者ニ於
 テ爭ナキ處ニシテ此延滞シタル保險料ヲ被告會社小田原代理店カ受取リタル事實ニ依リ一旦無効ト
 ナリシ契約カ繼續セラレタリト看做ス可キヤ否ヤ是レ本案ニ於テ決スヘキ主要ノ點トス仍テ之ヲ審
 究スルニ原告ハ被告會社ト契約締結以來三十日以上ノ保險料支拂ノ延滞ヲ爲シタルコトアリシモ同
 會社ハ常ニ健康證明書及懈怠料ヲ要セスシテ契約ヲ繼續セシ慣例アルヲ以テ今回三十日以上ノ保險
 料支拂ノ延滞アリト雖トモ被告會社ハ此健康證明書及懈怠料ヲ要セスシテ保險料及延滞日歩ヲ受取
 リタルヨリ推究セハ契約ヲ繼續セルモノナリト主張スト雖トモ被告會社カ單純ニ延滞ノ保險料及延
 滞日歩ヲ受取リタリトノ事實ノミヲ以テ契約ハ繼續セラレタルモノナリト認ムルコト能ハス何トナ

レハ前題ノ如ク當事者間ニ保險規則第十四條ノ規約アリテ三十日以上ノ保險料支拂ノ延滞シタルト
 キハ保險料ノ外健康證明書及懈怠料ヲ要スルコトハ契約當事者ダリシ原告先代ニ於テ十分熟知セル
 所ナルニ拘ハラヌ原告ハ之ヲ必要トセサルノ反證ヲ舉示セサルノミナラス從來被告會社ニ於テ此二
 箇ノモノヲ要セザリシトノ一事ヲ以テ之ヲ必要トセストノ慣例アリト認ムルコト能ハサレハナリ假
 リニ被告會社小田原代理店カ前記ノ健康證明書及懈怠料ヲ要求セスシテ漫ニ原告先代ノ延滞保險料
 ヲ受取り依テ契約ヲ繼續セシ事實アリトスルモ其代理店ノ行爲ハ保險規則ニ依リ委任セラレタル以
 外ノ行爲即チ代理權ノ範圍外ノ行爲ニ係ルヲ以テ被告會社カ之ヲ承認セサル限リハ同會社ニ對シ有
 效ニ契約ノ繼續セラレタルモノト認ムルコトヲ得ヌ旁以テ原告カ此主張ハ其理由ナキモノトス既ニ
 本件契約ニシテ繼續ナキモノトスル以上ハ其契約ハ業ニ既ニ無効ニ歸シタルモノナリ又次ニ原告先
 代カ延滞セシ保險料ヲ拂込ミタルハ明治三十一年十月十日ニシテ其死亡ハ同月十三日ナリ而シテ成
 立ニ爭ナキ乙第四號證ニ依レハ其病症ハ肺結核ニシテ明治三十年八月ノ發病ニシテ其死亡直前症候
 ハ同三十一年十月二日ヨリ病勢頓ニ危篤ニ迫リ死ニ瀕セシトノ情況ニ在リテ衰弱ノ結果死ニ至リタ
 ルカ如シ由是觀之明治三十一年十月十日延滞保險料ヲ拂込ミシ頃ハ原告先代ハ健康ニアラヌシテ
 將サニ死没セントスルノ場合ニ迫リ居リ到底健康證明書ヲ被告會社ニ對シ提出スルヲ得ザリシ位置
 ニ在リシモノナリ然ルニモ拘ラス該書ヲ提出セスシテ保險料ヲ拂込ミ契約ノ繼續ヲ望ミシハ虛偽ノ

手段ヲ施シ以テ保險金ヲ利得セントノ趣旨ニ外ナラサルカ如クニシテ保險法上許スヘカラサルコト
 ニ屬シ本案保險規則第二十七條ニヨリ保險契約ハ無効トナリタルモノトス以上ノ理由ニ依リ本訴原
 告カ請求ハ其當ヲ得サルモノトスルヲ以テ主文ノ如ク判決ス

東京區裁判所

判事 野田 捨藏

附 言

本件ハ保險料拂込延滞ノ效果ニ加フルニ代理店ノ權限問題及契約繼續ノ慣例ニ關聯シテ比較的難解
 ノ訴訟ナルニ條理明白ナル判決ヲ下シタル裁判官ノ伎倆稱賛スルノ價值アリ

(三十) 兩夜フサ對護國生命保險株式會社事件(始審)

判決要旨

- 甲 生命保險ニアリテハ契約成立當時被保險者生存スルニ於テハ現ニ疾病ニ罹リ居ルモ契約
 ノ要素ニ錯誤アリト言フヲ得ヌ
- 乙 縱令契約ノ要素ニ錯誤アリタリトスルモ保險者カ之ヲ取調ヘサルハ過失ノ大ナルモノニ
 シテ契約ノ無効ヲ主張シ得ヘキ筋合ニアラス
- 丙 委任者ノ代理者ノ權限ニ加ヘタル制限ハ情ヲ知ラサル第三者ニ對抗スルヲ得ヌ

判決正本

一三八

石川縣金澤市下堤町五十五番地ノ一
士族亡郁太郎相續人

原告 雨 夜 フ サ

東京市京橋區木挽町五丁目五番地

被告 護國生命保險株式會社

金澤地方裁判所々屬辯護士

右被告會社取締役社長

右訴訟代理人 吉 岡 福 忠

右法律上代理人 高 島 嘉 右 衛 門

東京地方裁判所所屬辯護士

吉 本 彦 次

右當事者間ノ明治三十二年ヲ第七八號保險金請求事件ニ付當地方裁判所ハ判決スルコト左ノ如シ

被告ハ保險金四百九十圓五十四錢ヲ原告ニ支拂フヘシ

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事 實

原告代理人請求ノ要旨ハ原告ノ先代郁太郎ハ被告會社金澤代理店ニ於テ被告會社ト養老保險ノ契約ヲ締結シ保險金ヲ五百圓ト定メ明治卅一年七月十九日第一回保險料トシテ六ヶ月分金九圓四拾六錢ヲ拂込ミ茲ニ保險契約ハ完全ニ成立シタリ然ルニ先代郁太郎ハ不幸ニシテ同年七月廿一日死亡シタルニ付キ其旨被告會社金澤代理店ヘ通知シタルモ被告ハ故ナク保險金ノ支拂ヲ爲サザルヲ以テ本訴ニ及ヒタリト陳述シ甲第一號證ニ號證ヲ立證ニ供シ尙被告代理人ノ提出シタル乙第三號證ヲ援用シ被

告ハ保險金五百圓ノ内ヨリ保險料九圓四拾六錢ヲ控除シ殘額四百九拾圓五十四錢ヲ原告ニ支拂フベシトノ判決受ケタシト申立テタリ

被告代理人答辯ノ要旨ハ原告先代郁太郎ハ明治卅一年三月廿九日被告會社ニ對シ被告會社保險規則ニ存スル養老保險ト稱スル保險契約ヲ爲サンコトヲ申込ミ保險規則ニ定ムル規定ニ從ヒ保險申込證書ヲ差出シタリ依テ被告會社ハ診査醫ヲシテ診査セシメシニ異狀ヲ認メサリシヲ以テ同年四月廿五日其申込ニ應シ金五百圓ノ養老保險契約ヲ締結スルモ可ナル旨及契約ヲ爲スコトナラバ速ニ第一回保險料ヲ拂込ム可キ旨通知シタリ然ルニ原告先代ハ速ニ其第一回保險料ヲ拂込マサリシヲ以テ被告會社ニ於テハ保契約ヲナスノ考ナカリシカ又ハ其考ヲ變シタル者ト思惟シ居タルニ同年七月十九日突然被保人ノ使者ト稱シ第一回ノ保險料ナリトテ金九圓四拾六錢ヲ被告會社金澤代理店矢部與平方ヘ持參シタル者アリ元來被告ト代理店トノ代理ノ關係ハ被保人診査ヲ了リ第一回保險料拂込マテノ間二十日以上ヲ經過スルモノハ代理店ニ於テ一應本人ノ身體異狀ノ有無ヲ調査シ異狀ナシト確認スルモノハ拂込ヲナサシメ若シ異狀アリト認ムルキハ再診ノ手續ヲナシテ本社ニ報告セシメ又拂込遷延シ診査後五十日ヲ經過シテ拂込ヲ爲サントスルモノアルキハ其事由ヲ本社ニ報告シ指揮ヲ受クベキコトナシ本件ノ如キ場合ニアリテハ決シテ代理店ニテ隨意ニ第一回保險料ヲ領收シ保險契約ヲ成立セシムルコトヲ許サザル也然ルニ金澤代理店ハ其受任以來日尙淺ク代理權ノ如何ヲ詳知セザリ

一三九

シヨリ本社ノ指揮ヲ受ケズシテ單ニ其使者ニ向ツテ被保人カ診査後異状ナキヤ否ヤヲ問ヒ其使者カ故ラニ事實ヲ隱蔽シ被保人ハ旅行歸リニテ何等ノ故障ナク頗ル健全ナリト答辯シタルヨリ直ニ第一回保險料領收證書ヲ交附シタル次第ナリ然ルニ一日ヲ隔テ同月二十一日被保人ノ親戚ナリトシテ兩夜又五郎ナル者ヨリ被保人カ全日死去シタル旨金澤代理店へ通シタルヲ以テ同代理店矢部與平ハ大ニ驚キ其事實ヲ内偵シタルニ全年七月八日ヨリ重患ニ陥リ同月十七日ヲ以テ金澤病院ニ入院シ全月十九日ノ如キハ殆ント頻死ノ際ニシテ全月廿一日ヲ以テ遂ニ死亡シタル者ナルヲ發見シタリ右ノ如ク原告ハ被告會社ヨリ不正ニ保險金ヲ取得セント企テ將ニ死セントスルモノナルヲ隱蔽シテ保險契約ヲナシ保險金ヲ請求スルモノナルヲ以テ金澤代理店ハ第一回保險料ヲ返戻スルニ依リ領收證書ヲ返却スベキヲ原告ニ請求シタリ

以上ノ次第ナルヲ以テ第一保險契約ハ法律行為ノ要素ニ錯誤アルモノニシテ元來無効ノ契約ナリ第二保險契約カ假リニ成立シタリトスルモ其契約ニ付テハ已ニ解除ノ通知ヲナシタルモノナリ第三原告トノ契約カ成立シタリトセハ其成立ハ第一回保險料領收ノ日ニシテ其契約ハ金澤代理店矢部與平カ代理權限外ノ行為ナルヲ以テ被告カ直ニ其責任ヲ負フ可キモノニアラスト答辯シ乙第一號證乃至第六號證ヲ立證ニ供シ原告ノ請求棄却ノ判決アリタシト申立タリ

理 由

本件保險契約ハ保險契約人カ申込證書ヲ差入レ被告會社カ保險ヲ承諾シタルノミニテハ未タ契約ノ成立シタルモノト看做サス保險人カ第一回保險料ヲ拂込ミ被告會社ニ於テ之ヲ受領シタルヲ以テ此ニ始メテ契約ノ成立スルコトハ双方間ニ異論ナキ處ニシテ且ツ被告會社金澤代理店ハ常ニ保險料ノ拂込ヲ受ケ以テ契約ヲ有效ニ成立セシメ得ベキ權限アルコトハ被告代理人ニ於テ認ムル事實ナリトス原告先代郁太郎ハ乙第一號證ノ如ク明治三十一年三月廿九日被告會社ニ對シ養老保險ノ申込ヲナシ同年七月十九日ニ至リ第一回保險料金九圓四十六錢ヲ拂込ミ被告代理店ヨリ領收證書ヲ受取リタルコトハ第一號證ニ依リ明カナルヲ以テ反證ナキ限リハ其日時ニ於テ保險契約ハ全ク成立シタル者ト見做サソル可カラズ然ルニ被告代理人ハ甲第一號證ノ如ク金澤代理店ニ於テ第一回保險料ヲ受取リタルニ相違ナキモ同號證成立ノ當時ニ於テ被保人郁太郎ハ殆ント頻死ノ際ナルニ不正ニ保險金ヲ取得セント企テ其事實ヲ告ケサリシヲ以テ被告代理店ハ身躰ニ異状ナキ者ト信シ保險料ヲ受領シタルモノナレバ必竟法律行為ノ要素ニ錯誤アリ本來無効ノ契約ナリト抗辯スルモ法律行為ノ要素ナルヤ否ヤハ各法律行為ノ性質及當事者ノ意思ヲ斟酌シテ之ヲ決セサル可カラス被保人ノ健康躰ト否トハ保險金額ニ干係アルヲ以テ保險會社ニ於テハ其ノ影響スルトコロ少カラズト雖モ元來本件ハ病傷保險ニアラス被保人ノ生命ヲ保險スルニアルヲ以テ苟モ契約成立當時ニ於テ被保人カ生存スルニ於テハ其當時疾病ノ爲メ入院シ居タル事實アリトスルモ之ヲ知ラサリシ爲メ契約ノ無効ヲ來ス可キ重要部

分ニ錯誤アリト云フヲ得サルノミナラズ現ニ被告會社ハ保險契約人ニ對シ此ノ如キ場合ヲ無効ト爲
 サルル意思ヲ表示シ居ルハ乙第三號保險規則第九章ニ解約及契約無効ト題シ其第三條ニ保險契約
 無効ノ場合ヲ限定シ當初ノ申込證書ニ詐欺又ハ隱蔽ノ廉アルキハ保險契約全然無効ニ屬スルモ否ラ
 ズシテ當初是等ノ廉ナク會社ニ於テ保險ヲ承諾シタルニ於テハ第一回保險料ヲ領收スル以前ニ被保
 人ノ身躰異狀ヲ生シタルヲ知ラズシテ之ヲ受取リタルキト雖モ此場合ハ本來無効ノ契約ト看做サ
 スシテ被告會社ノ意思ニ從ヒ取消シ得可キモノト爲シ居ルハ同第四條第二號ニ保險契約申込後其
 契約未タ成立セサル前ニ於テ被保人ノ身躰ニ異狀ノ事實ヲ生セシモ契約成立以前ニ本社カ其通知ヲ
 受ケサリシキハ解約ヲ申立ツルヲアルベシトノ明文ニ照シ明カニ被保人郁太郎ガ當初申込ヲ爲シ
 タルハ明治卅一年三月廿九日ニ之ニ對シ被告會社ハ同年四月廿五日其申込ニ應シタル後同年七月
 八日頃即契約成立前發熱ヲ來シタルハ身躰ニ異狀ヲ生シタルモノニシテ前顯規定ノ事實ハ本件事實
 ト適合シ毫モ異ナル點ナシ元來被告會社ハ保險申込ニ對シ承諾ヲ表シタルトキヲ以テ契約ノ成立時
 期ト看做サス第一回保險料受領ノトキヲ以テ茲ニ始メテ契約成立スルモノト規定シタルヲ以テ承諾
 ヲ表シタル以後保險料ヲ受領スル迄多少ノ日子ヲ經過ス可ク從ツテ其間ニ身躰異狀ヲ來スヲアルハ
 數ノ免レサル處ナルヲ以テ豫メ斯ル場合ニ對スル處置ヲ規定シ置カサル可カラズ是乙第三號證第九
 章第四條第二號ノ明文アル所以ニシテ本件ハ同條規定ノ場合ニ適中シ同規則作成ノ當時今日ノ如キ

場合アルノ豫想カ偶々本件ニ於テ之ニ該當スル事實ヲ見ルニ至リタルモノニシテ上來ノ如ク契約
 ノ性質上要素ニ錯誤アリトテ本件契約ヲ無効視ス可キモノニアラサルノミナラズ契約者ノ意思ニ於
 ケル本來無効ニ屬スル要素ト認メ居ラサルヲ以テ本件事實ニ對シ法律行爲ノ要素ニ錯誤アル無効契
 約ナリト論定スルヲ得サルモノトス加之保險契約ハ殊特ノ契約ナルヲ以テ其效力消長ニ關シ普通契
 約ニ準據シ得サル者アリ商法施行法第一條ニ施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定メアル
 場合ヲ除外舊法ノ規定ヲ適用ストアルヲ以テ本件契約ノ效力ニ關シテハ其契約當時ノ法律ニ依ラ
 サル可カラズ舊商法第六百八十二條第一號乃至第三號ニ於テ保險契約無効ノ場合ヲ限定シタルモノ
 ハ内本件ニ該當ス可キモノナク一般ノ規定ニ依リ取消シ得ベキモノトナレハ格別本來無効ノ契約ト
 論定スルヲ得サルハ舊商法ニ照シ是亦明ナルヲ以テ何レノ點ヨリ觀察スルモ無効ノ契約ニアラサ
 ルヲ明瞭ナリト雖モ假リニ一步ヲ讓リ被告代理人抗辯ノ如ク法律行爲ノ要素ニ錯誤アリトスルモ前
 顯ノ申込ヲ爲シタルキヨリ契約成立スルニ至ル迄多少ノ日子ヲ經過スルヲアルヲ以テ其間被保人ノ
 身躰異狀ヲ生スルヲ往々アルベキ事實ヲ以テ乙第五號證ノ如ク被保人診査ヲ了リ第一回保險料ヲ
 拂込ム迄ノ間二十日以上ヲ經過スルモノハ更ニ身躰異狀ノ有無ヲ調査シテ領收證書ヲ交付スルヲ
 規定アルハ固ヨリ至當ノ事柄ニシテ若シ數多ノ日子ヲ經過シタルニモ拘ハラズ是等ノ手續ヲ省略ノ
 契約ヲ成立セシメタルニ於テハ其危險ヲ負擔シタル者ト云フモ過言ニ非ラザル可ク被保人郁太郎ノ

病症ノ如キハ些少ノ注意ヲ施セバ錯誤ニ陥ル可キ謂ナク況ンヤ會社カ保險申込ニ應シタルヨリ第一
 回保險料ヲ受領シタル間殆ント百日ヲ經過シタル場合ナルニ被告代理店ハ何等ノ取調ヲナサズ申
 込當時ト異狀ナキモノト輕信シタルハ過失ノ重大ナル者ニシテ縱令錯誤アリタリトスルモ無効ヲ主
 張シ得ベキ筋合ニアラサルヲ以テ被告代理人ノ第一抗辯ハ到底之ヲ採用スルニ由ナキ者トス以上ノ
 如ク本件保險契約ハ本來無効ニアラズ有效ニ成立シタル者ナルヲ以テ被告會社ニ於テ之ヲ取消サン
 ト欲セバ第三號證第九章第四條ノ明文ニ據準シ相手方ニ對シ解約ヲ申立ツ可キ權利アリタルモ如何
 セン其解除權ノ行使ハ同條ニ於テ會社自ラ之ヲ制限シ事實ヲ知リタルヨリ六十日以内ト限定シアリ
 テ明治三十一年八月三十一日付ヲ以テ金澤病院醫員松本善次郎作成ニ係ル乙第四號證ノ診斷書ヲ被
 告カ掌握セル點ヨリ考フルモ其日附ノ當時被告ハ既ニ被保人ノ疾病死亡ニ關スル詳細事實ヲ知得シ
 タルコトハ動カス可カラサル事實ニシテ其後六十日以内ニ解約ヲ申立タル證左毫モ是レナキヲ以テ被
 告會社ハ自己ノ權利ヲ行使スルノ意思ナク終ニ其期間ヲ徒過シタルモノト看做サルヲ得ス從テ今
 日ニ於テハ契約有效ニ存在シ郁太郎ノ相續人タル原告ニ於テ先代ノ爲シタル甲第一號證ニ基キ其保
 險金ノ支拂ヲ求ムルハ相當ニシテ被告會社ハ之ヲ拒絕スベキ理由ナキ者トス是レ第二ノ抗辯ヲ排斥
 シタル所以ナリトス然リ而テ金澤代理店ハ受任以來日尙淺ク其代理權限ノ如何ヲ詳知セザリシモノ
 ニシテ診査後五十日ヲ經過シテ拂込ヲ爲サントスルモノアルハ其事由ヲ本社ニ報告シ然ル後處決

ス可キコトハ乙第五號證代理店事務取扱手續第八條ニ明定スル處ニシテ本件ノ如キ場合ニアリテハ決
 シテ代理店ニ於テ隨意ニ第一回保險料ヲ領收シ保險契約ヲ成立セシムルコトヲ許サルモノニシテ
 代理權限外ノ行爲ハ被告會社ニ於テ直接其責ヲ負フ可キモノニ非スト辯解スルモ乙第五號證ノ如キ
 ハ被告會社ト其代理人間ニ於ケル内部ノ規定ニ過キス既ニ代理店ニ對シ甲第一號證ノ如ク第一回保
 險料ヲ領收ス可キ權限ヲ授與シタル上ハソノ代理權ニ加ヘタル制限ハ是ヲ以テ情ヲ知ラサル第三者
 ニ對抗シ得ベカラサルコトハ寔ニ見易キ道理ナルヲ以テ本件代理店ノ行爲ハ被告會社ニ於テ直接其
 責ヲ負擔スベキモノニ非ストノ被告代理人ノ抗辯ハ謂レナキモノトス以上ノ如ク第一乃至第三ノ抗
 辯ハ總テ理由ナシト認メ原告請求ヲ相當トシテ主文ノ如ク判決シタリ

明治三十七年二月十一日

金澤地方裁判所民事部

裁判長判事 佐 倉 強 哉 判事 今 村 勝 次 判事 中 野 岩 榮

附 言

本件判決要旨ハ當然ノコトナレトモ甲乙二要旨ニ至リテハ唯只看ルモノヲシテ茫然タラシムルノミ
 是レ全ク裁判官カ生命保險ニ關シテハ其原則タモ知ラサルニ因シタル誤謬ニシテ予輩ハ茲ニ事々シ
 ク辯妄スルノ勇氣ナシ嗚呼盛世ノ今日此ノ如キ判決ヲ受ケサルヘカラサル人民亦慘ナラストセン

(卅一) 雨夜フサ對護國生命保險株式會社事件(控訴)

判決要旨

保險契約締結前被保險者ノ身體ニ異狀ヲ生シタルモ保險者カ其通知ヲ受ケサリシトキハ保險者ハ六十日以内ニ解約ヲ請求シ得ト云フ契約ハ有效ナリ

判決正本

亡雨夜郁太郎相續人

控訴人 護國生命保險株式會社

被控訴人 雨 夜 フ サ

右當事者間ノ保險金請求ノ控訴事件ニ付當院ニ於テ判決スルコト左ノ如シ

第一審判決ヲ左ノ如ク變更ス

被控訴人ノ請求ヲ棄却ス

訟訴費用ハ第一二審トモ被控訴人ノ負担トス

事 實

控訴人ハ前記主文ノ如キ判決ヲ求ムル旨被控訴人ハ控訴棄却ノ判決ヲ求ムル旨各一定ノ申立ヲ爲シ

事實トシテ歸スル所第一審判決ト同一ナル主張ヲ爲シリ

理 由

明治三十一年七月十九日被控訴人ノ先代カ人ヲシテ第一回保險料ノ拂込ヲ爲サシメ初メテ保險契約ノ成立チタル際既ニ肺部重患ニ罹リ死ニ瀕シ居リテ控訴人ノ代理店知スシテ保險料ノ拂込ヲ受領シ事實控訴人ノ保險規則第九章第四條ニ「左ノ場合ニハ云々」トアリテ其第二號ニ「被保人ノ身體ニ異常ノ事實ヲ生セシモ契約成立以前ニ本社カ其通知ヲ受ケサリシトキト」アルニ該當スルコトハ乙第一乃至第三號甲第二號并ニ證人沖野彌一郎森島彦夫其確實ナルコトヲ證言スル乙第四號第七號ノ證書及ヒ證人高田精一ノ證言ニ依リテ之ヲ認ム從テ控訴人カ六十日以内ニ爲スニ於テハ契約ヲ解除スルコトヲ得ルモノタルヲ知ルヲ以テ果シテ其意思ヲ表示セシコト有ルヤ否ヤヲ案スルニ被控訴人ハ控訴人ヨリ契約ハ無効ナルヲ以テ保險金ヲ拂渡スヲ得ス依テ保險料ヲ拂戻スヘキニ付領收書ヲ返付シ吳ルノ様申入ヲ受ケタルモ云々此事實ハ三十一年八月マテノ間ナルコトハ爭ハサル旨ヲ陳述セリ之ニ因テ見ルトキハ控訴人ハ被控訴人先代カ保險契約成立ノ當時重患者ナリシ事實ヲ知リシヨリ六十日以内ニ其契約ヲ履行スヘカラス原狀ニ回復スヘキモノタルノ意ヲ被控訴人ニ對シテ表示シタルモノナルニ由リ如何ソ之ヲ契約解除ノ意思表示ヲ爲セシモノニアラストスルヲ得ンヤ然レハ控訴人カ被控訴人ノ先代ト爲シタル保險契約ハ此時ニ於テ有效ニ解除セシモノナルヲ以テ該契約ニ基テ被控訴

人ノ請求ヲ至當ナリトスルヲ得ヌ是レ控訴ノ理由アリトシ主文ノ如ク判決スル所以ナリ

明治三十五年七月五日

大阪控訴院民事第三部

裁判長判事 深 野 達

判事 遠山 正綱

判事 田 中 亨

判事 谷 村 甚 吉

判事 柳 田 教 彦

附 言

争點單純ニシテ判決又當ヲ得タリ別ニ贅言スルノ要ヲ見ス

(卅二) 稻土清右衛門對北陸生命保險株式會社事件(始審)

判決要旨

保險者ノ代理者ノ爲シタル行爲ハ保險者ヲ拘束ス

判決正本

富山縣婦賀郡神明村字大有澤村

原告 稻土 清右衛門

右訴訟代理人辯護士 西 田 秋 作

富山縣富山市袋町

被告 北陸生命保險株式會社

全所右會社々長 中 田 清 兵 衛

右訴訟代理人辯護士 江 守 精 一

右當事者間ノ保險金請求事件ニ付當地方裁判所ハ之ヲ判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告ハ原告ニ對シ金五百圓ヲ辨濟スヘシ

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事 實

原告訴旨ハ原告ノ長男稻土清次郎ハ明治三十一年二月中被告會社ト五十歳ニ至レハ金五百圓請取ノ
養老保險契約ヲ締結シ爾來引續キ其保險料ヲ支拂ヒ來リ候處全人ハ不幸ニシテ本年二月二十六日病
死セシニ付被告會社ニ對シ右保險金受取人タル原告ヨリ保險金支拂ヲ求ムルモ應セサルニ因リ求訴
ニ及フ依テ被告ハ原告ニ對シ金五百圓ヲ辨濟スヘシトノ判決ヲ求ムト述ヘ

被告答旨ハ被告會社ハ原告供述ノ如ク其長男稻土清次郎ト養老保險契約ヲ締結シタルコトハ相違ナ
シ而シテ其保險料ハ年四回掛即チ三月三日六月三日九月三日及ヒ十二月三日ヲ以テ拂込ノ期日ト定
メ置キタルニ保險契約人ハ明治三十一年九月三日ノ保險料拂込ヲ怠タリタルヲ以テ契約ニ照シ原告
ハ當然該保險金要求ノ權利ヲ失フタルモノナルニ付本訴ノ請求ハ棄却アリ度ト陳述セリ

理 由

被告ハ乙第九號證ニ依リ甲第五號證ハ原告ト訴外日南田七藏ト共謀上作爲セラレタルモノナレハ被

告會社ハ關知セサルモノトシテ該證ノ所載ノ保險料支拂ヲ無効アリト主張スルモ乙第九號證ハ切符綴込ノ体裁上順ヲ追フテ記入スヘキモノナルニ十二月ノ領收證ノ次ニ十一月ノ領收證記入シアルハ聊カ怪ムヘキ事實推定シ得ヘキモノノミヲ以テ未タ俄ニ原告ト通謀シタリトスル證ト爲スニ足ラス假シ又被告ノ主張スル如ク右支拂アリタルハ實際一月ナリトスルモ其支拂ヲ無効トスルヲ得ヌ何トナレハ被告ハ支拂期日經過後ナルニモ拘ハラヌ異議ナク右支拂ヲ受ケ尙且甲第二號證ノ如ク十二月三日以後翌年三月三日迄ノ分ヲモ併テ支拂ヲ受ケタル事實ニ徴スレハ尙從前ノ契約ヲ繼續スルノ意思ナリシヤ十分之ヲ推知スルニ足レリ若シ契約ヲ繼續セサル意思ナリシトセハ何カ爲ニ右支拂ヲ受ケンヤ殆ント其意思ヲ解スルヲ得サレハナリ然ルニ被告ハ支拂期日經過後ノ支拂ヲ受ケンハ訴外日南田七藏ノ專横ニ出タルモノニシテ如斯ハ固ヨリ被告會社ノ意思ニ非サル旨主張スルモ日南田七藏ハ被告ノ代理人ニシテ代理人ノ行爲ハ專横若クハ過失ニ原因スルモノト雖尙其行爲ノ效力ハ本人タル被告會社ニ於テ之ヲ甘受セサルヘカラサルハ法理上明白ナリ左スレハ右期日經過後ノ支拂ハ被告ニ於テ自ラ任意ニ之ヲ受タルモノト全一ニ歸着スヘキヲ以テ從テ契約ヲ繼續シタルモノト認ムルニ十分ナリ而シテ乙第二號證第三號證ニハ保險料ノ延滞日數六十日以外ニ及フトキハ契約ハ無効ナル旨記載シアルモ是等ノ證據ハ保險契約ニ關スル被告會社ノ規則ナレハ被保人トノ契約ニ因リ其條項ヲ變更シ得ヘカラサル性質ノモノニ非ス故ニ當事者ハ右條項ニ反對シテ前契約ヲ尙繼續シ得ルモノト云ハサルヘカラス

之ヲ要スルニ原告カ引續キ保險料ヲ支拂ヒ毫モ契約違反ノ點ナキヲ以テ被保人タリシ稻土清次郎カ病死シタルコトヲ證スル被告ハ甲第一號證ノ契約ノ趣旨ニ從ヒ原告ニ對シ保險金支拂ノ義務アルモノトス依テ主文ノ如ク判決ス

明治三十二年七月六日

富山地方裁判所民事部

裁判長判事 山 内 璞

判事 宮内喜之助

判事 山部 陽 治

附 言

本件ノ判決ハ缺點ナカルヘシ然リト雖トモ事實ニ不正ノ存在スルコトハ吾人ノ直チニ想像シ得ル所ナリ即チ保險會社ノ地方代理店ナルモノ屢其代理スル所ノ會社ノ利益ニ反シ却テ被保險者ト合躰シテ不正ヲ行フコトアリ本件ノ真相ヲ察スルニ拂込延滞ノ爲解除ニ屬セル契約ニ對シ被保險者ノ疾病危篤ナルニ驚キ二回分ノ保險料ヲ一時ニ代理店ニ拂込シタルモノニシテ之ヲ受取リタル代理者ハ事情ヲ知レルト否トニ拘ハラヌ其權限外ノ行爲ノ爲ニ會社ニ保險金ノ支拂ノ損害ヲ被ラシメタルモノナリ而シテ此ノ如キ場合ニハ會社ハ代理者ニ對シテ損害ノ賠償ヲ請求シ得ルハ無論ナリトス

(三) 村上榮三對共濟生命保險合資會社事件(始審)

保險契約ニ對スル證書訴訟ニ保險料ノ支拂ヲ證スヘキ證書ヲ訴狀ニ添附セサルトキハ訴訟ヲ許サス

判決正本

東京市芝區松本町四十二番地平民無業

原告 村上榮三

同市日本橋區小舟町三丁目九番地

被告 共濟生命保險合資會社

右訴訟代理人辯護士

石原毛登馬

右法律上代理人社長

安田善四郎

右訴訟代理人辯護士

高野金重

右當事者間ノ明治三十二年ハ三五八九號生命保險金請求ノ證書訴訟事件ニ付判決スルコト左ノ如シ

主 文

原告ノ訴ヲ却下ス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事 實

被告代理人ハ證書訴訟トシテ訴ヘラレタル本件訴狀ハ保險契約書ノ謄本カ添付サレタルノミ保險料拂込ミニ付テノ證書ノ原本又ハ謄本ノ添付ナシ之レ證書訴訟ニ於ケル訴狀ノ要件ヲ欠クモノナル

カ故ニ原告ノ訴却下ノ判決ヲ求ムト申立タリ

原告代理人ハ被告ノ抗辯ハ其理由ナシ被告ニ於テ保險料拂込ヲ認メサレハ書證ノ申出ヲ以テ之レヲ提出シ得可キカ故ニ訴狀ニ添付スルノ要ナクシテ證書訴訟トシテ毫モ違法ノモノニ非スト陳述セリ

理 由

保險金請求ノ訴ニ於テ保險料ノ支拂ヲナシタル事ハ其請求ヲ起ス理由タル必要ナル事實ノ一ニシテ原告モ訴狀ニ於テ請求ノ原因中ニ記載スル所ナリ而シテ證書訴訟ニヨリ請求ヲナス場合ニ於テハ之等必要ナル事實ハ總テ證書ニ依リ證明ヲナサハル可ラサルノミナラス其證書ノ原本又ハ謄本ヲ訴狀ニ添付スルコトヲ要スルハ民事訴訟法第四百八十五條ニ明記スル所ニシテ訴狀ノ必要條件ナリ本件原告ハ證書訴訟トシテ訴ヲ提起シタルニモ不拘訴狀ニ保險契約書ノ謄本ヲ添付シタルノミ前述保險料支拂ノ事實ヲ證ス可キ證書ヲ添付セス之レ訴狀ノ必要條件ヲ欠クモノナルカ故ニ證書訴訟ハ之レヲ許ス可ラサルモノトス要之被告ノ抗辯ハ其理由アルモノニシテ此訴訟ニ於テ原告ノ訴ハ許サハルモノトシ主文ノ如ク判決ス

明治三十二年十一月十七日

東京區裁判所

判事 中村兵之助

附 言

保險契約ノ有效ニ繼續セルヤ否ヤヲ判定スルニハ保險料カ正當ニ拂込マレタルコトノ證據ヲ提出スルヲ要ス其證據ハ最終ノ保險料領收證ナリ然レトモ被告カ之ニ關スル原告ノ缺點ニ乘スルカ如キハ訴訟上ノ技術カハ知ラサレトモ小刀細工ニ過キスシテ保險料延滞ニ關スル訴訟ノ外ニ在テハ最終ノ勝利ノ爲ニスル方法ニアラス原告ハ本訴訟ニ敗レタリト雖トモ直チニ契約ノ實行ニ關スル第二ノ訴訟ヲ提起セリ次ニ順ヲ逐ウテ掲クルモノ即チ是ナリ

(川四) 村上榮三對共濟生命保險會社事件(始審)

判決要旨

普通能力アル醫師ノ發見シ得ヘキ疾患ノ隱蔽ハ保險契約ノ有效ヲ妨ケス

判決正本

東京市芝區松本町四十二番地平民無職

原告 村上榮三

右訴訟代理人 石原毛登馬

東京市日本橋區小舟町三丁目九番地

被告 共濟生命保險會社

右法律上代理人 安田善四郎

右訴訟代理人 高野金重

右當事者間ノ明治三十三年(ハ)第三八四號生命保險會社事件ニ付審理判決スル如左

主 文

被告ハ原告ニ對シ金百圓並ニ明治三十二年二月八日ヨリ本件執行後ニ至ルマテ年六朱ノ割ニテ損害金ヲ支拂フヘシ

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事 實

原告一定ノ申立ハ被告ハ原告ニ對シ金百圓並ニ本件起訴ノ日ヨリ執行濟ニ至ル迄年六朱ノ割ノ損害金ヲ支拂ヒ訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決ヲ求ムト謂ニアリテ其請求ノ原因トシテ主張スル事實ノ要旨ハ明治三十二年五月一日原告ノ父村上良齋ハ被告保險會社ニ終身生命保險ヲ申込ミ原告ヲ保險金請取人トシテ保險契約ヲ締結シ爾來保險料ヲ拂込ミタリ而シテ被保人良齋ハ肝臟癌腫ニ罹リ昨三十二年七月一日死亡シタルヲ以テ保險金ノ支拂ヲ求メタルニ被告ハ之ニ應セサルニ因リ本訴ヲ提起シタル次第ナリト述ヘ甲一二號證ヲ提出シタリ

被告答辯ノ要旨ハ原告ノ父村上良齋ハ明治三十二年五月一日被告會社ト生命保險契約ヲ爲スニ當リ二口ノ契約ヲ爲サンコトヲ申込ミ被告會社ニ其申込書ニ陳述シタル事實ヲ信シ契約ヲ締結シタリ而シテ原告ノ提出シタル申込證書ノ末段ニ「幼時種痘數回及麻疹ヲ經過シ九年前チブスニ罹リ八十

日許ニテ治セリ其他ナシ」ト記載アリテ右記載外ノ病氣ニ罹リタルヲナキヲ證セリ然ルニ僅々二ヶ月ヲ經明治三十二年七月一日死亡ノ報ニ接シ同時ニ原告ヨリ被告會社ニ提出シタル日本赤十字社病院醫足立川大尉ノ死亡證書ヲ見ルニ「本年一月末胃部腫重不安吞酸嘔嘔食機不振云々」トアリ且明治三十二年一月頃發病ト記載アリテ原告ノ父村上良齋カ被告會社ト契約締結以前ヨリ死亡ノ原因タルヘキ病氣ニ罹リ居リシ事ハ誠ニ争フヘカラサル事實ナリ然ルニ偶々其病症自覺症ニテ外見容易ニ其病体ナリヤ否ヤ甄別スルノ難キヲ奇貨トシテ事實ヲ隱蔽シ病体ヲ以テ被告會社ニ契約ヲ締結シタルモノナルヲ以テ原告ノ請求ヲ棄却セラレタシト述ヘテ第一乃至第三號證ヲ提出シタリ

理由

本件ノ争點ハ原告ノ父村上良齋カ被告ト保險契約ヲ締結シタルニ當リ事實ヲ隱蔽シタルヤ否ヤニ存ス依テ審理スルニ原告カ被告ト保險契約ヲ締結スルノ當時原告ノ身上ニ異狀アリシ爲メ契約ノ當日麹町區内幸町胃腸病院ニ趣キ醫士長與稱吉ノ診斷ヲ受タルハ原告等ノ争ハサル事實ニシテ當時原告自ラ不快ヲ感シタリシモ未タ疾病ニ陥リタル者ト確信セサリシヤ明カナリ而シテ原告ハ醫ヲ業トスルニ拘ラス胃腸病院ニ到リ診察ヲ受タルヲ察スルニ自ラ身体ノ判斷スルニ苦ミタルヤ明カニシテ當法廷ニ於ケル長與稱吉ノ證言ニ徴スルモ明治三十二年三月二十三日初メテ村上良齋ヲ診察シ其病症ハ食道狹窄ニシテ肝臟腫大ノ徵候ヲ認メス病人ノ營養甚タ良好ニシテ自ラ歩行シテ來院セリト陳

述シ然ハ原告カ契約當時死亡ノ近因タル肝臟癌症ノ病症ヲ被告ニ對シ告ケス恰モ健全ナルカ如ク裝ヒ保險契約ヲ締結シタルハ認ムル能ハス原告自身ニ於テ病アリト確信セサルニ何ソ自ラ被告ニ對シ病者ナリト陳述スルヲ得ンヤ然ノミナラス被告ハ保險契約ヲ爲スニ當リ自己ノ信任スル醫士ヲシテ原告ノ身体ヲ檢シタル上健全ナリト認メ契約ヲ締結シタルモノニシテ若シ被告ノ主張スルカ如ク死因タル肝臟腫大ニシテ發生シ居タリトセンカ之ヲ發見スヘキニ之ヲ爲サス自己ノ過失ヲ他人ニ責ントスルハ許スヘキニ非ス況ンヤ證人長與稱吉ノ證言ニ徴スルモ肝臟腫大ハ慢性疾患ニシテ自ラ言ハサルモ普通醫師ノ能力アルモノニハ容易ニ診察シ得ルモノナリトアリ果シテ村上良齋カ事實ヲ陳述セサリシトセンカ容易ニ發見シ得ヘキニ之ヲ爲サス當該證言中同年五月一日診察セシトキモ食道狹窄ハ初診ノ時ト同様ナリトアリ毫モ死亡ノ近因タル肝臟腫大ニ基ク徵候ナキノミナラス乙第二號證ニ死因ハ心臟痙攣トアリテ村上良齋ノ死亡ノ近因ハ急性心臟痙攣ナリト云ハサルヲ得ス然ルニ被告ハ乙第一號證ヲ以テ村上良齋カ契約當時事實ヲ隱蔽シタルコトヲ證セントスレトモ乙第一號證ハ村上良齋ノ確信スル既往ノ事實ニ關スル陳述ヲ記載シタル保險契約申込書ニシテ直ニ以テ村上良齋保險契約ヲ爲スニ當リ虛偽ノ陳述ヲ爲シ若クハ隱蔽ノ廉アリト認ムル證ト爲スニ足ラス乙第二號證ハ村上良齋カ契約締結前ヨリ病氣ニ罹リ其當時病体ナリシコトヲ證スルニ足ランモ未タ以テ村上良齋カ自ラ病氣ニ罹リ居タルコトヲ知リ乍カラ被告ト保險契約ヲ締結シタリト認ムルニ

由ナシ又乙第三號證ニ至リテハ被告會社ノ規則ニテモ亡村上良齋カ故意ニ自己ノ疾病ヲ隠蔽シタルノ證ト爲スニ足ラサルモノニシテ被告ノ答辯ハ之ヲ認ムル能ハス依テ原告ノ請求ヲ至當ナリト認メ訴訟費用ニ付テハ民事訴訟法第七十二條ニ則リ敗訴ノ被告ニ負擔セシムルモノトス右ノ理由ナルニ因リ主文ノ如ク判決シタリ

明治三十三年三月六日

東京區裁判所

判事 中村太郎

附言

判決ノ理由多岐曖昧ニシテ何レカ其要點ナルヤ知り難シト雖トモ凡ソ左ノ數點ニ在ルカ如シ

- 一 被保險者ハ契約ノ當時身軀自ラ不快ヲ感シタリシモ未メ疾病ニ陥リタリト確信セサリシナリ何トナレハ躬醫師ノ職ニ在リナカラ他醫ノ診斷ヲ受ケタルハ自ラ判斷ニ苦シミタレハナリ
- 二 契約前四十日內ニ二回被保險者ヲ診察シタル醫師ノ證言ニ據レハ被保險者ハ食道狹窄ニシテ死因タル肝臟瘤ノ徵候ヲ認メス而シテ死因タラサル疾病ヲ隠蔽シタリトテ契約ハ無効ニアラス
- 三 保險者ハ契約ノ當時自己ノ信任スル所ノ醫師ヲシテ被保險者ノ身体ヲ検査セシメタル上健全

ト認メテ契約ヲ締結スルモノナルカ故ニ疾病ヲ發見シ得サリシハ自己ノ過失ナリ其過失ヲ以テ他人ニ責メントスルハ許スヘキニアラス

四 證人ノ言ニ據レハ肝臟瘤ハ慢性疾患ニシテ自ラ言ハサルモ普通醫師ノ能力アルモノニハ容易ニ診察シ得ラルモノナリ

五 死亡證明書ニハ死因ハ心臟麻痺トアリ即チ被保險者死亡ノ近因ハ急性心臟麻痺ニシテ急性心臟麻痺ハ被保險者毫モ之ヲ申込書中ニ隠蔽シタルコトナシ

六 保險申込書中ニハ被保險者カ確信シタル事實ヲ掲クレハ可ナリ其事實カ實際ノ事實ト相違スルモ契約ノ效力ニ關係セス

次ニ是等ノ諸點ヲ批評センニ

- 一 裁判官カ身軀ノ不快ト疾病トヲ區別シタルハ如何ナル標準ト根據ニ基ケルヤ不快ハ即チ疾病ノ感覺ニアラスヤ況ンヤ裁判官カ被保險者ヲ庇護センカ爲メ躬ラ醫業ニ從事シナカラ他醫ノ診斷ヲ受ケタルハ自ラ判斷ニ苦シタルナリト推論シタルハ毫モ彼カ疾病ヲ確信セサリシコトノ證據トナラサルノミナラス却テ反對ノ推定ヲ惹起サシムルニ足ルナリ何トナレハ醫學上ノ智識アル者カ態々病院へ診察ヲ請ハンカ爲ニ至ルハ到底手療治ノ及ハサルコトヲ知リタルカ又ハ自ラ判斷シ難キ程困難ナル疾病ノ潜伏ヲ懸念シタリト想像スルヲ寧ロ普通ノ想像ナリト

セサルヘカラサルカ故ナリ之ヲシモ尙被保險者カ疾病ヲ自覺セサリシ證據ナリトハ何タル妄想ソヤ

二 況ンヤ被保險者ハ契約ノ四十日前ニ一回病院ヘ赴キ病院ニ於テハ食道狹穿ト診斷シ又契約ノ當日會社ニ至ル前ニ病院ヘ赴キテ同シク食道狹穿ト認定セラレタルニアラスヤ何ソ彼カ疾病ヲ自覺セスト言フヲ得ヘケンヤ勿論裁判官ハ死因タル肝臟癰腫ハ自覺セス從テ隱蔽セスト主張スルナレトモ死因タル疾病ノ隱蔽ノミカ契約ヲ無効ナラシムルトハ世界中ニ其例ナキ法律ニシテ特ニ吾人カ何病ヲ以テ死スルカハ豫メ知ルヘカラサルカ故ニ之ヲ隱蔽スルト云フコトハ不能ノコトナリ故ニ隱蔽ト云ヘハ何病ニ拘ハラヌ自己ノ既往及現在ニ罹レル疾病ヲ指サハルヘカラサルハ無論ナリ

三 現行商法施行後即チ明治三十二年七月一日以後ノ契約ハ商法第三百九十八條但書ノ規定ニ由リ保險者カ身躰診査ニ依リテ發見シ得ヘカリシ隱蔽事項ニ對シテハ被保險者カ責任ヲ免ルコトナリ居レトモ疑ニ(十七)事件ノ附言ニ於テ論シタル如ク身躰診査ハ決シテ被保險者ノ隱蔽スル所ノ如何ナル疾病ヲモ暴露セシムルコトヲ得ルモノニ非ス若シ裁判官ノ言フ如ク保險者カ自己ノ過失ヲ以テ他人ニ責ムルコトノ許スヘカラサルナラハ之ニ先チテ被保險者カ其權利ヲ主張スルニ必要ナル陳示ノ義務ヲ怠リナカラ其過失ヲ以テ保險者ヲ責ムルコトノ許スヘカラサルアルニアラスヤ

四 是ニ於テカ裁判官モ醫師タル證人ノ言ヲ援用シ肝臟癰腫ハ慢性病ニシテ普通醫師ノ發見シ得ル所ナリ故ニ之カ不陳ハ被保險者ヲ羈束セスト論斷シタリ此論斷ノミカ獨リ見ルヘキ點ナルカ故ニ論者ハ之ヲ判決要旨トシテ掲ケタルナリ然レトモ是レ一種ノ法理論ニ過キスシテ當事者間ノ契約ニモ又當時施行ノ舊商法ニモ之ニ該當スヘキ條項ヲ見サルナリ

五 醫學ノ智識皆無ナル裁判官カ憚モナク素人的臆說ヲ陳ヘテ笑柄ヲ作ルハ其例乏シキニアラスト雖トモ所謂急性心臓麻痺論ニ至リテハ捧腹絶倒セサルヲ得サルナリ心臓麻痺ハ心臓ノ疾患ニアラス吾人カ他ノ疾患ニ罹リ生命ヲ死ニ轉セントスル瞬間ニ通常發生スル所ノ状態ニシテ或ハ虚脱ニ陥リ或ハ心臓麻痺ヲ起シテ死スルコト最多キ順序ナルカ故ニ之ヲ死因ト稱スルナリ從テ皆急性性ニシテ慢性心臓麻痺ナルモノナシ之ヲ隱蔽ノ目的トシテ喋々スルカ如キハ其職務ニ不識ナルト不深切ナルトヲ表白スルノミナリ

六 確信ニハ舛誤リタル確信アリ又果シテ確信セルヤ否ヤヲ判別スルハ不可能ナリ被保險者カ確信以外ニ何等ノ責ヲ負ハストセハ保險者ハ到底安心シテ保險契約ヲ結フコトヲ得サルナリ一ノ判決ニ六箇ノ理由アリ而モ其一ツタニ當ル所ナキハ編者ヲシテ特ニ數頁ヲ費サシメタル所以ナリ

(卅五) 村上榮三對共濟生命保險合資會社事件(控訴)

判決要旨

被保險者カ隠蔽ヲ爲シタリトノ證據ナキトキハ保險者ハ契約ノ無效ヲ主張スルヲ得ス

判決正本

東京市日本橋區小舟町三丁目九番地

同市芝區松本町四十二番地平民無業

控訴人 共濟生命保險株式會社

被控訴人 村上 榮 三

同 所

右法定代理人 安田 善 四 郎

右當事者間ノ明治三十三年(レ)第一二一號生命保險金請求控訴事件ニ付當裁判所ハ左ノ如ク判決ス

主 文

原判決ヲ左ノ如ク變更ス

控訴人ハ被控訴人ニ對シ金百圓ト之ニ對スル明治三十三年二月八日ヨリ本件判決執行濟ニ至ル迄年六分ノ割合ノ損害金ヲ支拂フヘシ

控訴費用ハ第一二審共控訴人ノ負擔トス

事 實

控訴人一定ノ申立ハ原判決ヲ變更シ被控訴人ノ請求ハ之ヲ棄却ス訴訟費用ハ第一審第二審共被控訴

人ノ負擔トスト判決ヲ求ムト謂フニ在リテ被控訴人一定ノ申立ハ本件控訴ハ理由ナキヲ以テ棄却ストノ判決ヲ求ムト謂フニ在リ而シテ控訴人被控訴人ハ原判決事實ノ部ニ摘示セル處ト同一ノ事實ヲ陳示シタル外控訴人ハ本件控訴提起後組織ヲ變更シ株式會社ト爲リタリ又第一審判決主文ニ明治三十三年二月八日以後ノ損害金ヲ支拂フヘシトアルハ明治三十三年二月八日以後ノ誤謬ナルヘシト陳示シ控訴人ハ乙第一號證乃至第三號證ヲ提出シ甲第一號證及第一審ノ證人長與稱吉ノ證據ヲ援用シ被控訴人ハ甲第一號證ヲ提出シ乙第二號證及乙第一審ノ證人長與稱吉ノ證言ヲ援用シタリ

理 由

依テ審案スルニ被控訴人ノ父村上良齋カ明治三十二年五月一日控訴人ト甲第一號證ノ終身生命保險契約ヲ爲シタルコト及ヒ同人ノ肝臟癌腫ニ罹リ明治三十二年七月一日病死シタルコトハ當事者間ノ爭ナキ處トス控訴人ハ乙第一號證ニ據リ被控訴人ハ保險契約締結ノ當時病体ナリシニ拘ハラヌ事實ヲ隠蔽シテ契約ヲ爲シタル者ナレハ本件契約ハ無効ナリト抗爭スト雖乙第一號證ハ被控訴人ノ否認スル處ナルヲ以テ同證ハ被控訴人ノ父村上良齋ヨリ控訴人ニ交付シタル生命保險申込證書ナリト認定スルニ由ナク其他控訴人ノ援用スル各證據ニ徴スルモ被控訴人抗辯ノ事實ヲ認ムルヲ得サルヲ以テ本件控訴ハ理由ナキ者トス本件被控訴人ハ元金百圓ニ對スル明治三十三年二月八日ヨリ執行濟ニ至ル迄ノ年六分ノ損害金ヲ請求セルニ原裁判所ハ右損害金ニ付明治三十二年二月八日以後年六分

ノ割合ヲ以テ支拂フヘシト判決シタルハ申立サル事物ヲ被控訴人ニ歸セシメタルモノニシテ失當ノ
裁判ナリトス右ノ理由ナルヲ以テ主文ノ如ク判決セリ

明治三十三年五月八日

東京地方裁判所第一民事部

裁判長判事 和 仁 貞 吉 判事 岩 田 一 郎 判事 島 田 鐵 吉

附 言

本件第一審ニ於テハ裁判官ノ不明ノ爲ニ被控訴人(原告)勝利ヲ得タリト雖モ控訴ニ於テハ此僥倖ヲ
再ヒスルコト難キヲ慮リタルカ被控訴人ハ全然其主張ヲ換ヘ被保險者カ保險者ニ對シテ差入レタル
申込書ヲ否認シ被保險者ハ決シテ隱蔽セル由込書ヲ差出シタルコト無シト主張セリ而シテ保險者
之ニ對シテ反證ヲ舉グル能ハサリシハ該申込書ニハ被保險者ノ捺印ナカリシカ故ナリ(事實ハ契約
當時印形持參セス後ニ押捺セント言ヒツ、時日經過スル中死亡シタル由ナリ)是ニ於テカ主トシテ
此單純ナル證據問題ニヨリテ再ヒ保險者ノ敗訴トナリシナリ

(卅六) 村上榮三對共濟生命保險株式會社事件(上告)

判決正本

東京市日本橋區小舟町三丁目九番地

上告人 共濟生命保險株式會社

右法律上代理人同社長

安 田 善 四 郎

右訴訟代理人辯護士

高 野 金 重

同市芝區松本町四十二番地平民無職

被上告人

村 上 榮 三

右訴訟代理人辯護士

石 原 毛 登 馬

右當事者間ノ明治三十三年(ナ)第八五號生命保險金請求上告事件ニ付當院ハ判決スルコト左ノ如シ
本件上告ハ之ヲ棄却ス

上告審ノ訴訟費用ハ上告人ノ負擔トス

理 由

上告人ハ明治三十三年五月八日東京地方裁判所カ本件ニ付言渡シタル第二審判決ニ服セスシテ上告
ヲ爲シ原判決ノ全部ヲ破毀スル旨ノ判決アリタシト申立テ二ケノ上告論旨ヲ演述シ被上告人ハ本件
上告ハ之ヲ棄却ストノ判決アリタシト申立テ各上告論旨ニ對シ答辯シタリ
上告論旨第一點ハ成立上相手方ノ關係セサル證書ニ付テハ相手方ニ於テ否認ノ權能ナキカ故ニ相手
方カ之ヲ否認スル旨ノ申立ヲ爲シタルハトテ該證書ノ證據力ナキニ歸スヘキ道理ナシ本件乙第一
號證ハ被上告人ノ父カ保險契約申込ノ當時上告人會社ニ提出シタルモノナレハ被上告人ハ該證書ノ
成立ニ干與シタルコトナシ然ルニ原裁判所カ同證ヲ排斥スルニ當リ被上告人カ之ヲ否認シタリトノ
一事ノミヲ以テ理由トシ他ニ排斥ノ理由ヲ說明セサルハ證據ニ關スル法則ヲ不當ニ適用シタル不法

ノ裁判ニシテ且理由不備ノ缺點アリト云フニアリ然レトモ原判決ノ趣旨ハ乙第一號證ハ被上告人ニ於テ之ヲ否認シタルカ爲メ證據力ヲ備ヘサルモノナリト判斷シタルニアラスシテ同證ハ被上告人ニ於テ之ヲ否認シ且上告人ニ於テ他ニ舉證ヲ爲ササルヲ以テ同證ノ果シテ被上告人父村上良齋カ上告人ニ交付シタル生命保險申込證書ナルコトヲ信認スルニ由ナシトノ判旨ナレハ原判決ニハ毫モ上告論旨ノ如キ不法ノ點アルコトナシ

上告論旨第二點ハ保險契約者カ保險契約ヲ爲スニ當リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付不實ノ申立ヲ爲シタルトキハ契約ノ無効ニ歸スルハ保險契約ノ原則ナリ本件ニ於テ上告人ハ第一審以來被控訴人ノ父ハ永年醫ヲ業トスルモノニシテ保險契約締結ノ當時自己ノ病体ナリシコトヲ熟知シ居リタルニ拘ラス事實ヲ隱蔽シテ告知セサリシトノコトヲ論争シ之ニ對シ證人醫師長與稱吉ノ證言ヲ以テ其事實ヲ確メタルモノナレハ原裁判所ハ此重要ナル争點ニ付判斷ヲ與ヘサルヘカラサルニ事茲ニ出テサルハ重要ナル事實證據ヲ遺脱シ争點ニ對シ判決ヲ與ヘサル不法ノ裁判ニシテ且理由不備ノ缺點アリト云フニアリ然レモ原判決理由ニ其他控訴人(上告人)ノ援用スル各證據ニ徴スルモ控訴人抗辯ノ事實ヲ認ムルヲ得サルヲ以テ云々トアリテ上告人ノ提出シタル各證據ニ信ヲ措キ難キコト并ニ上告人ノ主張シタル事實ノ是認スヘカラサルコトヲ說示シタルコト明白ナリ隨テ被上告人ノ父カ事實ヲ隱蔽シタルヤ否ヤノ論點ニ付テモ上告人ノ提出シタル證據ヲ排斥シ且主張シタル事實ヲ否

定シタルモノト云ハサルヘカラス故ニ原判決ニハ重要ナル證據事實ヲ遺脱シテ争點ニ對シ判決ヲ與ヘス若クハ理由不備等ノ不法ナル點アルコトナシ

以上説明シタル如ク本件上告ハ毫モ其理由ナキヲ以テ主文ノ如ク判決スヘキモノト評決シタリ

明治三十四年二月廿一日

東京控訴院民事第一部

裁判長判事 田代 律 雄 判事 鈴木喜三郎 判事 平島 及 平
判事 平野 正 富 判事 相原 祐 彌

(卅七) 小林汀對愛國生命保險株式會社事件(始審)

判決要旨

甲 債權者ハ債務者ノ生命ニ就テ被保險利益ヲ有ス
乙 死亡ノ原因ノ又原因ハ保險契約ノ效力ニ關係ヲ有セス

判決正本

東京市赤坂區一ツ木一番地平民無業 原告 小林 汀

同市日本橋區本材木町二丁目二番地 被告 愛國生命保險株式會社

右訴訟代理人辯護士 岸 小三郎 右法律上代理人 戸塚 文海
 同 若林 成昭 右訴訟代理人辯護士 飯田 宏作
 同 松原 辰太郎

右當事者間ノ明治三十二年(ノ)第四〇二號保險金請求事件ニ付當裁判所ハ判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告ハ金壹千圓並ニ此金額ニ對スル明治三十二年四月十一日ヨリ明治三十二年六月十五日マテ年七分明治三十二年六月十六日ヨリ本件執行濟マテ年六分ノ利息ヲ原告ニ支拂フヘシ利息ニ付テノ右以外ノ原告ノ請求ハ之ヲ却下ス
 訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事 實

原告一定ノ申立ハ被告ハ金壹千圓並ニ此金額ニ對スル明治三十二年四月十一日ヨリ本件執行濟ニ至ルマテ年百分ノ六ノ利息ヲ原告ニ支拂フヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決ヲ求ムト曰フニ在リ而シテ其陳述スル事實ノ要旨ハ原告ハ近藤正近ノ生命ニ付財産上ノ利益ヲ有スルモノニシテ其生命ニ關シ被告會社へ毎年金五拾圓參拾錢ノ保險料ヲ支拂ヒ被告ハ右被保險人正近ノ死亡後保險金壹千圓ヲ原告ニ支拂フノ條件ヲ以テ明治三十一年九月十三日原告被告間ニ保險契約ヲ締結シ爾來

原告ハ遲滞ナク保險料ヲ被告ニ支拂ヒ來リタル處明治卅二年四月十一日被保險人近藤正近ハ死亡シタルヲ以テ原告ハ被告ニ保險金一千圓ノ支拂ヲ求メタルニ被告ハ之ニ應セス因テ本訴ニ及ヒタル次第ニシテ被告カ主張スル如キ近藤正近カ自殺ニ因リテ死亡シタリト曰フ事實ヲ認メス正近ハ銃傷カ原因トナリテ治療不完全ナルカ爲ニ死亡シタルモノナリ又仮ニ自殺シタリトスルモ正近ハ明治卅二年一月頃ヨリ精神病ニ罹リ該病ノ結果ニ出テタル行爲ナルヲ以テ之ヲ自殺ト曰フ能ハス又被告カ主張スルカ如キ原因如何ヲ問ハス自殺シタルハ契約ヲ無効トスルノ約定アルコトヲ認メスト曰フニ在リテ甲第一號乃至第四號證ヲ提出シ乙第一、二號證ノ成立ヲ認メ且人證ノ申立ヲナシタリ被告一定ノ申立ハ原告ノ請求ヲ却下ス訴訟費用ハ原告ノ負擔トストノ判決ヲ求ムト曰フニ在リ而シテ其答辯スル事實ノ要旨ハ被告カ近藤正近ヲ被保險人トシ原告ト保險契約ヲ爲シ其後右被保險人正近ノ死亡シタル事實ハ之ヲ爭ハサルモ同人死亡ハ頭部ヲ重傷シテ自殺ヲ遂ケタルニ因ルモノナリ且精神病ノ結果此行爲ニ出テタルニ非ス仮ニ精神病ノ結果ナリトスルモ原告ト被告トノ契約ハ被保險人ノ自身ノ行爲ニ因リ死亡シタルトキハ其原因ノ如何ヲ問ハス保險契約ヲ無効トスルノ明約アリ且本來原告ハ近藤正近ノ生命ニ付キ利益ヲ有スル者ニ非サルヲ以テ原告ト被告トノ間ノ保險契約ハ法律上亦無効ナリ從テ本訴ノ請求ニ應スルコト能ハスト云フニ在リテ乙第一、二號證ヲ提出シ甲第一號乃至第四號證ハ之ヲ知ラスト陳述セリ

本件當事者間ニ於テハ近藤正近ノ生命ニ關シ保險契約ヲ爲シ其后正近カ死亡シタル事實ニ付テハ爭ナシ而シテ第一ニ決スヘキ爭點ハ原告ノ主張スルカ如ク原告カ果シテ近藤正近ノ生命ニ付財産上ノ利益ヲ有スルヤ否ヤニ在リ案スルニ證人溝口佐兵衛ノ證言及甲第一號證ニ依リテ原告カ近藤正近ノ生命ヲ保險ニ付セントスル時ニ於テ原告ハ正近ニ對シ金一千二百七圓五十錢ノ債權者タリシコト明ナリ而シテ此債權關係ハ單ニ金錢ノ貸借ニシテ正近ノ死亡ニ因リテ尙其相續人ニ移轉スヘキ者ナルヲ以テ正近ノ生命ニ付テノ利害ト曰フコト能ハサルカ如シト雖モ相續人モナク又相續財産モナキ場合ナシト謂フヘカラス且金錢ヲ貸與スルモノハ債務者ノ人ニ着眼スルコト勿論ナルヲ以テ右ノ如キ債權關係ニ依リテ原告ハ正近ノ生命ニ付キ財産上ノ利益ヲ有スルモノト謂ハサルヘカラス然ラハ當事者間ノ保險契約ハ此點ニ於テ法律上有效ナリ第二爭點ハ近藤正近ハ自殺ニ因リテ死亡シタル者ナルヤ否ヤニ在リ案スルニ證人野村鑿次郎ノ證言ニ依レハ證人カ明治三十二年四月十一日近藤正近ヲ診察シタルニ「銃創ハ右側甲狀腺ヲ貫キタレトモ幸ニ動脈ヲ外レ居リシヲ以テ出血モ甚シカラス證人ノ診察スル所ニテハ致命傷トハ見受ケラレサリシ」ト曰フニ過キスシテ證人ハ當日近藤方ノ急報ニ接シ同家ニ赴キ診察ヲ爲シタルモ別ニ治療ヲ施サスシテ直ニ立歸リタル者ニシテ銃傷ニ關スル陳述モ大体ニ止マリ其證言ハ重キヲ置クコト能ハス次ニ林真磯ノ證言ニ依ルモ亦「致命傷トハ見止メラレサリ

シ」ト曰ヒテ直接ノ死因ニ付テハ確タル陳述ヲ爲サス而シテ青柳正辰ノ證言ニ依レハ證人ハ赤十字社病院ニ於テ近藤正近ノ主治醫タリシ者ニシテ「入院シタルトキハ格別重症トモ見受ケラレサリシ」ト曰ヒ「近藤ノ死因ハ靜脈ヨリ多量ノ出血アリテ手術ノ際之ヨリ空氣カ浸入シ漸次心臟ニ入りテ遂ニ空氣エンボリーヲ起シ死亡シタル者ナリ」ト曰ヒ「手術ノ爲ニ切開ニ着手シタル爲ニ靜脈ノエンボリーヲ起シタルモノニシテ若シ其手術前ニ靜脈ニ創傷アルコトヲ豫知シアレハ或ハ切開ヲ施サス或ハ充分ノ注意ヲ以テ切開スヘキモノナリシ故ニ近藤ノ死亡ハ偶然ノ出來事ニ起因シタルモノナリ」ト曰フヲ以テ見レハ近藤正近ノ直接ノ死因ハ心臟ノ空氣エンボリーニ在リテ空氣エンボリーヲ起シタル原因ハ靜脈管ノ損傷ニ在リト雖トモ靜脈管ノ損傷ニ因リテ空氣エンボリーヲ起シタルハ偶然ノ出來事ニシテ必然ノ結果ニ非スト曰フニ歸ス必然ノ結果ニ非サル偶然ノ出來事ヲ起スニハ別ニ他ノ自然力ヲ要スヘキニ因リ銃傷ハ死亡ヲ起スヘキ充分ノ原因ニ非サリシト判斷セサルヘカラス且三人ノ證人共等シク致命傷ニ非スト診察シタル點ヲ參酌スルトキハ益々銃傷カ死亡直接ノ原因タラサリシコトヲ明ニス要スルニ銃傷カ正近ノ自己ノ行爲ニ因リタルコトハ爭ナキモ同人ハ自殺ヲ爲シタルモノニ非サルヲ以テ同人カ果シテ精神病ナリシヤ否ヤ及當事者間ノ保險契約ハ原因ノ如何ヲ問ハス自殺シタル場合ニ無効トナルヘキモノナルヤ否ヤノ爭點ヲ判斷スルノ必要ナシ結局契約ノ趣旨ニ從ヒ被告ハ保險金ヲ支拂フノ義務アリト曰フニ歸スルヲ以テ主文ノ如ク判決ス但利息ニ付テハ

舊商法施行中ニ生シタル事項ニ付テト雖トモ新法施行後ハ新法ノ利率ニ依ルヘキモノト解スルヲ以テ新法施行後ノ請求利息ヲ減縮シタリ

明治三十二年六月十五日

東京地方裁判所第一民事部

裁判長判事 和 仁 貞 吉 判事 岩 田 一 郎 判事 北 條 立 篤

附 言

本件判決要旨ノ第一ハ勿論正當ナリ他人ト財産上ノ關係ヲ有スルモノハ其關係ノ限度ニ於テ他人ノ生命ヲ保險ニ付シ得ルハ何レノ國ヲ問ハス承認セラレタル法理ニシテ我國ニ於テモ明治三十一年即チ本件ノ契約カ締結セラレタル頃ハ今日ノ如ク被保險者ノ親族ニアラサレハ保險金ヲ受取ルヲ得スト云フカ如キ窮屈ナル制限ナキ時ナレハ契約ハ無論有效ニ成立シタルナリ然リ結論ハ爾ク正當ナリト雖トモ裁判官カ之ニ達スルノ道筋ハ甚曖昧タルヲ免レス曰「前略正近ノ生命ニ付テノ利害ト曰フコト能ハサルカ如シト雖トモ相續人モナク又相續財産モナキ場合ナシト云フヘカラス云々」ト然シテ此理由ヲ示シタル裁判官ハ正近ニ相續人アルヤ相續財産ナキヤヲ調査シタルヤ縦令調査セストモ原告小林汀ナル者カ現ニ相續人タルコトヲ想像シ得ヘキナリ此ノ如キハ判決ニ不必要ナル寧ロ矛盾ヲ招ク所ノ冗辭ニシテ被保險利益ノ有無ハ相續人ノ有無ニ關係セサルナリ將又第二ノ判決

理由ニ至リテハ理義最明白ナラス裁判官ハ被保險者致命ノ死因タル空氣エンボリーハ被保險者自身ノ爲シタル自死行爲即チ頭部ニ重傷ヲ負ヒテ靜脈管ヲ損傷シタルトトニ在ルヲ認メナカラ之ヲ死亡ノ原因ト見做サスト言フハ自家撞着ニシテ況ンヤ彼ハ空氣エンボリーカ他ノ自然力ニ因リテ起ルコトノミヲ主張シテ靜脈管ノ損傷カ其最重大ナル間隙ナルヲ顧ミサルニ至リテハ偏見モ亦甚シト謂ハサルヘカラス次ニ掲クル所ノ本件控訴ノ判決ハ結果ハ同一ナルモ其論旨ハ整然トシテ雲泥ノ差違アリ本判決ノ如キニ會シテハ勝者モ敗者モ共ニ満足スルコトヲ得サルナルヘシ

(卅八) 小林汀對愛國生命保險株式會社事件(控訴)

判決要旨

甲 債權者ハ債務者ノ生命ニ付テ被保險利益ヲ有ス

乙 精神病ニ因スル自死ハ所謂自殺ニアラス

東京日本橋區本村木町二丁目貳番地

同市赤坂區一ツ木町一番地平民無業

控訴人	愛國生命保險會社	被控訴人	小 林 汀
右法律上代理人	戶 塚 文 海	右訴訟代理人辯護士	岸 小 三 郎
右訴訟代理人辯護士	飯 田 宏 作	同	若 林 成 昭

右當事者間ノ保險金請求事件ノ控訴ニ付當控訴院ハ判決スルコト左ノ如シ

本件控訴ハ之ヲ棄却ス

訴訟費用ハ控訴人ノ負擔トス

事 實

控訴代理人ハ原判決全部ヲ廢棄シ被控訴人ノ請求棄却ヲ求メタリ而シテ當事者ノ演述セル事實關係ハ第一審判決ニ摘示スルモノト同一ナルヲ以テ之ヲ援用ス
立證トシテ訴控人ハ乙第一二號證ヲ提出シ被控訴人ハ甲第一號證乃至第五號證ヲ提出シ第一審ニ於テ取調タル證人溝口佐兵衛林眞鐵野村鑿次郎青柳正辰ノ證書ヲ援用セリ

理 由

當事者間ニ於テ近藤正近ノ生命ニ關シ保險契約ヲ締結シタルコト其保險金ノ千圓ナルコト正近カ死亡シタルノ事實ハ當事者間爭ヒナキ事實ナリトス控訴人ノ抗辯ハ第一被控訴人ハ正近ノ親族ニアラス又債權者タル事モ認ムルコト能ハス假リニ債權者ナリトスルモ債權者タルノ資格ハ被保人ノ生命ニ付キ財産上ノ利益ヲ有スルモノトスルヲ得サルヲ以テ當事者間ニ締結シタル保險契約ハ無効ナリト云フニ在リ

然レトモ甲第一號證及ヒ溝口佐兵衛ノ證言ニ依レハ被控訴人ハ正近ニ對シ金千圓ノ債權ヲ有スルコト明ラカニシテ債權者タルモノハ一ニ債務者其人ヲ信用シテ貸借關係ヲ惹起スモノナレハ債務者ノ生命若クハ健康ハ自己ノ債權辨濟ニ至大ノ影響ヲ及ホスモノナルヲ以テ債權者タルモノハ債務者ノ生命ニ付財産上ノ利益ヲ有スルモノタルヤ疑ナシ從テ本件當事者間ノ保險契約ハ無効ニアラスト判定ス

控訴人第二ノ抗辯 原因ノ如何ニ拘ハラズ被保人ノ自殺シタルトキハ契約ハ全ク無効ニ屬スヘキモノナルコトハ控訴會社保險規則第四十條ノ定ムル所ニシテ被控訴人モ之ヲ承認シ契約ヲ取結ヒタルモノナリ然ラハ被保人正近ハ自ら頸部ニ銃傷ヲ爲シ死ニ至リタルモノナレハ保險契約ハ無効ナリト云フニ在リ

依テ保險規則ナル乙第二號證ヲ閱シ之レカ審案ヲ爲スニ其第四十條ニハ原因ノ如何ニ拘ハラズ被保人ノ自殺シタル時ハ保險契約ヲ無効ニストノ明文アリ此文辭ハ前後ノ文章ニ照シ保險ノ性質ニ鑑ミ解釋スルトキハ被保人自ら死スルノ意思ヲ以テ自ら死ニ致スノ行爲アリタルトキハ其原因ノ是ナルト非ナルト又正ナルト不正ナルトニ論ナク保險契約ハ無効ナラシムルトノ趣旨ニシテ被保人精神病ニ罹リ自ら死ニ致シタルモノハ之ニ包含セサルモノトスルヲ妥當ナリトス換言スレハ精神錯亂シタル者カ自ら死ヲ圖リタルハ該規則ノ所謂自殺ナリト云フヲ得サルモノト解釋ス果シテ然ラハ被保人正近カ自ら銃創ヲ被ムル以前ヨリ精神病ニ犯サレ居リタル者ナルハ證人野村鑿次郎林眞鐵青柳正辰ノ證言ヲ參酌シテ之ヲ知ルコトヲ得ヘキヲ以テ正近ノ死ハ自ら爲シタル銃創ニアリトスル

モ喪心ノ結果爲シタルモノナレハ乙第二號證ニ該當スルモノニアラス依テ此抗辯モ亦採用スルヲ得ス從テ控訴人ノ證據申請ハ取調フルノ要ナキヲ以テ之ヲ却下シタルモノトス
以上ノ理由ニ依リ本件控訴ハ一モ理由ヲ具ヘサルヲ以テ主文ノ如ク判定ス

明治三十二年七月十日

東京控訴院民事第一部

裁判長判事 富谷銚太郎

判事 高橋文之助

判事 鈴木喜三郎

判事 堀田馬三

判事 平島及平

附言

本判決ノ要旨ハ共ニ正當ニシテ第一債權者カ債務者ノ生命ニ付被保險利益ヲ有スルコトノ説明第二精神錯亂者ノ自死ハ自殺ト謂フヲ得ストノ説明共ニ簡ニ明ナルコト始審判決ノ比ニアラス然レトモ茲ニ一言自殺ノ認定ト醫師ノ證言ニ就テ述フル必要アリ何トナレハ自殺ノ原因不明ナル場合ニハ世人之ヲ精神病ニ歸セシムルノ習慣アリ是レ畢竟不明ノ解決ヲ精神病ニ托スルニ過キスシテ一モ根據アルニアラサル推斷ナル場合多キカ故ナリ賢明ニシテ慎重ナル裁判官ハ此ノ如キ卑俗的臆測ヲ以テ訴ヲ斷スルコト無カルヘシト雖トモ事實ノ認定ニ至リテハ最考慮センコトヲ望ムナリ自己ノ手段ヲ以テ死ヲ圖ルコトハ即チ自殺ノ第一證ニシテ之カ精神病ニ因スルコトノ證明ハ保險金受取人ノ全責

任ナリ而シテ醫師ノ證言ノ如キハ其信憑スヘキ證言ナルヤ薄弱ナル證言ナルヤ虛妄ナル證言ナルヤヲ一考スヘシ多クノ裁判官ノ爲ス如ク技術的證人ノ言ハ其結論ノミニ依リテ毫モ其正當ナルヘキヤ否ヤヲ研究セス證ヲ得ント欲シテ却テ證ニ欺カルノ缺點ヲ敢テセザランコトヲ肝要ナリトス被保險者ノ自殺ニ付テハ粟津清亮著保險論集第五百二十七頁至第五百三十六頁ニ詳説アリ

(卅九) 西原タカ對日本共同生命保險合資會社事件(始審)

判決要旨

被保險者ノ既往症並ニ職業ニ關スル隱蔽並ニ虛偽ノ證據ヲシテ
保險者ハ契約ノ無效ヲ主張スルヲ得ス

判決正本

大阪市西區北堀江上通三丁目十一番屋敷平民貸座業

原告 西原タカ

大阪地方裁判所所屬辯護士

右訴訟代理人 神戸萬太郎

大阪市西區南堀江通一丁目七十九番屋敷

被告 日本共同生命保險合資會社

右會社業務擔當社員

右法定代理人 佐々木政行

大阪地方裁判所所屬辯護士

右訴訟代理人 伊藤秀雄

右當事者間ノ明治三十二年(第七八二號)保險金請求事件ニ付當地裁判所ハ判決ヲ爲ス左ノ如シ

被告ハ原告ニ對シ金三百圓ヲ支拂フヘシ
訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

原告代理人ハ前掲主文ト同一ナル一定ノ申立ヲナシ其事實トシテ原告ノ長女フジハ被告會社ト明治三十年六月廿八日金參百圓ヲ滿五十歳ニ至ルカ又ハ其滿期前ニ死去スルルヘキ保險契約ヲ締結シ原告ハ右保險金受取人ナリ然ルニ被保人フジハ明治三十二年七月十三日死亡セシヲ以テ總テ手續ヲ了シ保險金ノ請求ヲナスモ被告會社ハ之ニ應セサルニヨリ本訴ヲ提起シタル旨主張シ甲第一號及第二號證ヲ提出シ證人長田幸太郎ノ供述ヲ援用セリ
被告代理人ハ原告ノ請求棄却ノ判決ヲ要求シ其事實トシテ被告會社ハ明治三十年六月八日西原フジノ生命保險ヲ契約シ原告ハ之レカ保險金受取人タルコトハ事實ナルモ同人ハ拾餘年間引續キ梅毒性健康質斯ニ罹リ居タル事實ヲ隱蔽シテ健康体ノ保險ヲ契約セシモノナレハ該契約ハ無効ナリ尙ホ全人ハ藝妓稼業ノモノナルニ貸席業ナリト虚欺ノ陳述ヲナセシモノナルニヨリ保險契約ハ無効ナリトス依テ原告ノ請求ニ應スヘキ理由ナキ旨答辯セリ

被告代理人ニ於テ被保人西原フジハ拾餘年間引續キ梅毒性健康質斯ニ罹リ居リタル事實ヲ隱蔽シ保險契約ヲ締結シタルモノナリト抗辯スレモ證人長田幸太郎ノ供述ニヨルニ證人ハ明治二十七年八月フジノ痔疾ヲ治療シ尙明治三十一年十一月廿四日ニ左膝關節ニ健康質斯ヲ患ヘシ際投藥治療シ凡ソ二週間ニシテ全治セシメ全三十二年四月二日ヨリ九月迄全健康質斯ヲ患ヘシ際投藥シテ全治セシメタリ而シテ右健康質斯ハ梅毒性ノモノニアラスト云フニ在リテ被告抗辯ノ如キ事實ナキノミナラズフジカ健康質斯ヲ患ヘシハ何レモ被告會社ト保險契約ヲ締結セシ以後ニ發生シタル疾病ナルヲ推知シ得ヘキニヨリ被告ノ抗辯ハ理由ナシ尙被告代理人ニ於テフジハ藝妓稼業ナルニ席貸業ナリト虚偽ノ陳述ヲナシタリト主張スレモ右ハ原告ノ否認スル處ナルニモ係ラス被告ニ於テ立證ヲナサハルニヨリ右主張モ亦理由ナキモノトス如此被告ノ抗辯ヲ排斥スル以上ハ被告會社ハ甲第一號證ノ契約ニ基キ保險金參百圓ヲ原告ニ支拂フヘキハ當然ナリ
右ノ理由ナルニヨリ主文ノ如ク判決ス

明治三十二年十一月三十日

大阪地方裁判所民事第三部

裁判長判事 鼓 鍊之助

判事 杉 坂 實

判事 菰 淵 清 雄

(四十) 三宅佐野對浪花生命保險合資會社事件(始審)

判決要旨

保險金受取人ハ保險契約ニ對スル保險料カ遲滯ナク拂込マレアリタルコトノ證據ヲ舉クル能ハスシテ保險金ヲ請求スルコトヲ得ス

判決正本

岡山縣淺口郡四之浦村三十九番邸
平民

原告 三宅 佐野

大阪地方裁判所々屬辯護士

右訴訟代理人 守安 富太郎

大阪市西區南堀江通一丁目第九番邸
日本共同生命保險合資會社

被告 浪速生命保險合資會社

同所業務擔當社員社長

右會社代表者 佐々木 政行

大阪地方裁判所々屬辯護士

右訴訟代理人 伊藤 秀雄

右當事者間三二(二)一五二號保險金請求事件ニ付キ當區裁判所ハ判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求ハ之ヲ棄却ス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事實

原告代理人請求ノ要旨ハ被告ハ原告ニ金壹百圓ニ明治三十一年十二月七日ヨリ本案判決執行濟ニ至

ルマテノ法定利息ヲ添ヘ支拂フ可シトノ判決ヲ求ムト申立其事實ハ被告ハ明治三十一年二月廿三日
訴外人亡三宅歌之丞ト終身生命保險ノ契約ヲ締結シ三宅歌之丞ハ被保人トナリ原告ハ保險金請取人
トナリ爾後契約ノ趣旨ニ從ヒ適當ニ保險料ヲ支拂ヒシニ明治三十一年十二月六日被保人三宅歌之
丞ハ病死シタルヲ以テ原告ヨリ被告ニ對シテ保險金壹百圓ノ請求ヲ爲セシモ之ニ應セサルモノナリ
ト陳述セリ被告代理人抗辯ノ要旨ハ原告ノ請求棄却ノ判決ヲ求ム其事實ハ保險契約人被保人ニ於
テ明治三十一年十月二十三日以後ノ保險料ノ支拂ヲ爲ササルヲ以テ解除ト爲リタルノミナラス縱ヒ
解除トナラサルモノトスルモ原告ハ保險會社ノ定メタル相當ノ手續ヲ以テ保險金ノ請求ヲ爲シタル
モノニアラスト陳述セリ

理由

本件ニ於テ決ス可キ第一ノ要點ハ原告ハ明治三十一年十月二十三日以後ノ保險料ヲ被保人ニ於テ被
告ニ支拂フタル事實ヲ完全ニ舉證シ得タリヤ否ヤニアリ原告ハ此點ニ對シテ甲第二號證ノ二保險金
領收證ノ提出ヲ爲スト雖トモ被告ニ於テ之ヲ否認スルノミナラス原告ニ於テ其真正ノモノナルコト
ヲ舉證シ得サルヲ以テ原告ノ舉證ハ完全ナラサルモノト爲ス此爭點ニ於テ原告ノ請求ハ棄却ス可キ
モノナルヲ以テ他ノ爭點ハ之ヲ説明スルノ必要ヲ見ス依テ主文ノ如ク判決ス

明治三十二年十一月三十日

大阪區裁判所

判事 野口繁治

附言

(卅九) (四十) 二個ノ判決ハ單純ナル證據ニ關スルモノニシテ批評スヘキ點ナシ

(四十) 高橋常之助對海國生命保險株式會社事件(始審)

判決要旨

猶豫期間經過後保險者カ延滞保險料ヲ領收シタルトキハ特ニ契約ノ繼續ヲ承諾シタルモノト見做ス故ニ被保險者已ニ疾病ニ罹レルコトヲ陳述セサルモ契約ハ有效ナリ

判決正本

北海道鶴田郡尻岸内村宇洞拾九番地
平民漁業

原告 高橋常之助
右訴訟代理人辯護士 谷川定次

東京府東京市日本橋區博正町拾四番地
海國生命保險株式會社取締役社長
被告 園田實徳
右訴訟代理人辯護士 八木橋榮吉

右當事者間ノ三三四六三號保險金請求訴訟事件ニ付當地方裁判所ハ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

判決主文

被告ハ金三百圓ヲ原告ニ支拂フ可シ

訴訟費用ハ被告ノ負担トス

事實

原告ノ主張ハ原告ノ實父高橋常吉ハ明治廿九年九月十一日被告會社ト終身生命保險金三百圓ノ契約ヲ爲シ原告ハ保險金受取人タリ而シテ其契約繼續中常吉ハ明治卅二年六月病死シタルヲ以テ契約ニ基キ保險金三百圓ヲ請求シタルニ被告ハ之レカ支拂ヲナサス又被告會社ハ函館區舟場町二十二番地坂井正義方ニ出張所ヲ置キ直接ニ商取引ヲナシ且ツ契約履行地ハ當函館ナルヲ以テ當裁判所ニ本訴ヲ提起セリ依テ右保險金三百圓ノ支拂ヲ受ケ度シト申立甲第一號乃至第四號證ヲ呈出セリ

被告ノ抗辯ハ被告會社ハ明治廿九年九月十一日付ヲ以テ原告ノ父常吉ト終身生命保險金三百圓ノ保險契約ヲ締結シタル事アルモ被告會社ハ其保險規則第二十四項ニ記載スル如ク契約人ニ於テ期限ニ至ルモ掛金ヲ爲サハルトキハ保險契約ハ無効トナリ已ニ拂込ミタル金額ハ契約人ノ損失トシ若シ六十日以内ニ於テ其延滞金額ニ對シ百分ノ二ノ利子ヲ添ヘ申出ツルトキハ其契約ヲ繼續スヘキコトヲ定メアリテ右期間ヲ經過スルニ於テハ契約ヲ當然無効タラシムルノ規定ニシテ原告ハ當初契約申込ニ際シ被告會社現行ノ規則ニ準據スヘキコトヲ承諾シ且ツ原告ノ知悉スル處ナレハ保險權利ヲ主

張セントセハ須ラク會社ノ保險規則ヲ守ラサルヘカラス然ルニ原告ノ提出セル甲第二號五保險掛金額收書ニヨレハ明治卅二年三月十一日ニ於テ拂込ムヘキ保險掛金ヲ同年六月十三日ニ至リ支拂タルモノニシテ契約期限ヲ怠ルコト九十三日猶豫期間ヲ經過スルコト三十三日ナレハ保險契約ハ當然無効ニ歸シタルモノナリ又原告ハ甲第二號ノ五ニヨリテ明治卅二年六月十三日ニ被告會社出張所坂井正義カ保險掛金ヲ領收シタルハ保險ノ繼續ナリト主張スルモ元來被告會社ハ前ニ述ヘタル規則第二十四項ヲ設ケタルノ主意ハ保險掛金ニ對シテ斯ク嚴格ナル規定ノ存セサルニ於テハ往々被保險人ニ於テ契約中途ニ之ヲ拋棄シ數月間掛金ヲナサヌ一朝病ニ罹ルトキハ掛金ヲナシ以テ保險金ヲ詐取セント企ツルモノアリテ之レカ爲メ被告會社ニ損害ヲ受クル恐アリ故ニ此規定ヲ設ケタルハ即チ保險ノ原則ニシテ被告會社ハ營業上總テ此規定ニヨリテ活動シ又此規定ニヨリテ保險ノ責務ヲ負擔スルモノナリ左レハ函館出張所ハ勿論會社ノ代表者ト雖モ保險規則ニ違反シ不當ニ繼續ヲナシ會社ニ其責任ヲ負擔セシムルヲ得サルノミナラス一定ノ期間ノ經過ヲ以テ當然無効タラシメタル法律行爲ナレバ之ヲ繼續シ得ヘキモノニアラス殊ニ保險ノ繼續ヲナスニハ期日后六十日內ニ於テ之ヲナスノ外尙其延滞金額ニ對シ百分ノ二ノ利子ヲ添ヘ申出ヲナスヘキ規定ナルニ原告カ利息ヲ支拂ハサリシニヨルモ繼續ヲナシタルニアラサルヤ明カナリ又被告會社ハ被保險人ニ於テ期間經過后掛金ヲナスモノアルトキハ之ヲ新ナル申込トシ更ニ契約ヲナシタルモノトシテ取扱フヲ例トス本件ノ場合モ亦

其一ナリ然ルニ原告亡父常吉ハ乙第三號證ノ如ク明治卅二年四月廿日ヨリ疾病ニ罹リ同年六月廿一日死亡ニ至ル迄病床ニアリテ服藥ヲ廢セヌ而シテ甲第二號ノ五ノ掛金拂込ノ日ハ同年六月十三日ニシテ死亡ノ日ヲ去ルコト僅カニ七日ニシテ病患ノ日ニ重キヲ加フルヨリ其實事ヲ隱蔽シ俄カニ掛金ヲナシ而シテ同年三月十一日拂込期間ヲ經過シタル九十三日後ニ於テ支拂ヲナシ且ツ從來三ヶ月掛ナリシヲ斯クスルトキハ六月十日ニ三ヶ月掛ノ終期トナルニヨリ故ラニ六ヶ月分ヲ一時ニ拂込ミタル事實ニシテ即チ被保險者タル常吉ハ疾病ヲ隱蔽シ重要ナル事實ヲ告ケズ殊ニ惡意ヲ以テ告ケサリシモノニシテ乙第一號證會社規則第二十三項ニヨリ保險契約ハ無効ニ歸シ被告ニ保險金支拂ノ責務ナキモノナリ又甲第四號ノ四ハ明治卅年十一月十九日保險掛金ヲ拂込ミ六十日經過后ノ拂込ニ付甲第一號證ノ契約ハ己ニ消滅シタル第一回ニシテ甲第四號ノ四ハ新ナル保險契約ヲ結ヒタルモノナルニ付原告請求ノ棄却ヲ求ムト申立テ乙第一號乃至同第五號證ヲ呈出セリ

理由

依テ案スルニ乙第一號證ニハ其第二十四項ニ於テ「期日ニ至ルモ掛金ヲナサ、ルキハ保險契約ハ無効トナリ云々(下略)」トアリ此規則書ハ原告ノ開知セサル所ナリトイフモ當事者双方ノ關係ニ於テ原告ハ之ヲ知了セルモノト推定ス然レモ當裁判所ハ此契約款ヲ以テ保險契約當然ノ無効ヲ惹起セシムル規定ト認ムルコトヲ得ヌ何トナレバ同項ノ末段ニ「然レトモ期日后六十日以内ニ於テ其延滞金

額ニ對シ(中略)其契約ヲ繼續ス可シトアリテ拂込期日經過ノ事實ハ保險契約ヲシテ效力ヲ失ハシムルモノニアラスシテ六十日以内ニ於テ其延滞金額ニ百分ノ二ノ利子ヲ付シ來ラバ被告會社ハ保險契約ノ繼續ヲ強要セラレ其責務トシテ之ニ應セサルベカラス從テ此猶豫期間ヲ經過シタルハ被告ハ之カ繼續ヲ拒絶シ得ル關係ヲ規定シタルモノト認定スルヲ得レバナリ故ニ此期間經過后ニ於テモ其契約ヲ繼續セント欲セバ之ヲ爲シ得ルコト明カニシテ本件原告ノ期間后ノ拂込金ヲ被告カ任意ニ領收シ其利子ヲ受取ラサリシハ利子領收ノ權利ヲ拋棄シ保險契約ノ繼續ヲ承認シタルモノト認定スルヲ得ン

又被告ハ六十日期間經過后ハ新ナル契約ナリト主張スルモ甲第二號證同第四號證ニヨレバ三ヶ月分ヲ金三圓〇九錢トシ其年月日付ヲ繼續シテ其金額ヲ被告カ受取リ居リ其中ニ就キ甲第四號ノ四、五六及ヒ同第二號ノ二乃至五ハ悉ク六十日ノ期間經過后ニ屬シ殊ニ甲第二號ノ二ノ如キハ六月十一日ヨリ九月十日迄ノ分ヲ九月十九日ニ受取リ同號ノ三モ九月十一日ヨリ十二月十日迄ノ分ヲ十二月十九日ニ同號ノ四モ亦十二月十一日ヨリ三月十日迄ノ分ヲ四月廿日ニ受取リ居レリ若シ此等ノモノヲ以テ新ナル契約ナリトセンカ其年月日ヲ既往ニ遡ラシムルヨリハ其將來ニ向テ保險ノ關係ヲ保タシムルヲ相當トス換言スレバ十二月十九日ニ拂込マハ其日付以后ニ於テ又四月廿日ニ拂込バ其日付以后ニ於テ拂込金額ノ効力ヲ保タシム可キモノナリ然ルニ之ニ反シ遡往ノ關係ヲ生セシメタルニ

徴スレハ其契約ハ新ナルモノニアラスシテ前契約ヲ繼續スル意思ヲ當事者間ニ於テ表示シタルモノト認定スルヲ得可シ殊ニ年齡ノ異ナルハ其保險掛込金ニ差等ノ生スル事實ハ被告モ認ムル所ナルニ甲第二號證ノ一ハ明治廿九年九月中ニシテ同號ノ五ハ同卅二年六月ナルニ其拂込金額ニ差等ナキ事實ト前述ノ事實關係ヲ綜合スルハ本訴ノ保險契約ハ當事者間ニ繼續ノ意思アリシヲ證シテ餘リアリトイフ可シ
以上ノ理由ニヨリ原告ノ請求ヲ相當ト認メ其他ノ爭點ニ付一々説明ヲナスノ必要ヲ見ス依テ主文ノ如ク判決セリ

明治卅二年十一月四日

函館地方裁判所民事部

裁判長判事

齋藤金平

判事 遠藤茶之助

判事 和田哲也

附言

本件ハ(廿九)ノ如キ場合トハ區別セサルヘカラス(廿九)ノ場合ニ延滞保險料ヲ領收シタルハ代理者ニシテ本件ニ在テハ出張所ナリ出張所ハ本社ノ分岐ニシテ其權限本社ト同一ナリト見做サ、ルヘカラスアルカ故ニ彼カ保險規則ニ拘ハラス取扱ヒタル行爲ハ其權利ヲ拋棄シタルモノトセサルヘカラス故ニ本判決ハ至當ニシテ保險者ハ保險金支掛ノ責ヲ免ル、能ハサルナリ然レトモ此場合ニ於テモ被保險